

# 共立女子短期大学

## 自己点検・評価報告書

〔短期大学基準協会 認証評価申請用〕

平成21年6月

## 目 次

短期大学の特色等 .....	1
建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標 .....	7
教育の内容 .....	12
教育の実施体制 .....	28
教育目標の達成度と教育の効果 .....	41
学生支援 .....	64
研究 .....	82
社会的活動 .....	87
管理運営 .....	93
財務 .....	111
改革・改善 .....	117
将来計画の策定 .....	120

## 短期大学の特色等

(1) 短期大学を設置する学校法人(以下「法人」という)の沿革(概要)及び短期大学の沿革(概要)。

### 学校法人共立女子学園及び共立女子短期大学の沿革の概要

明治	19年	3月	共立女子職業学校創立
昭和	3年	10月	共立女子専門学校設置
	24年	4月	共立女子大学設置
	25年	4月	共立女子大学短期大学部家政科開設
	26年	3月	財団法人共立女子学園を学校法人に改組
	26年	4月	共立女子大学短期大学部に被服別科を設ける
	28年	4月	共立女子大学短期大学部に文科第一部、文科第二部を増設
	48年	4月	共立女子大学短期大学部を共立女子短期大学と改称
	61年	10月	共立女子学園創立100周年記念式典挙行
平成	元年	4月	共立女子短期大学家政科を同生活科学科と改称
	8年	10月	共立女子学園創立110周年記念式典挙行
	16年	4月	共立女子短期大学に看護学科を増設
	18年	3月	共立女子短期大学別科を廃止
	19年	4月	共立女子短期大学文科第一部を同文科と改称、専攻分離を廃止 共立女子短期大学文科第二部の学生募集を停止
	20年	3月	共立女子短期大学文科第二部を廃止

(2) 短期大学の所在地、位置(市・区・町・村の全体図)、周囲の状況(産業、人口等)等。

#### 所在地

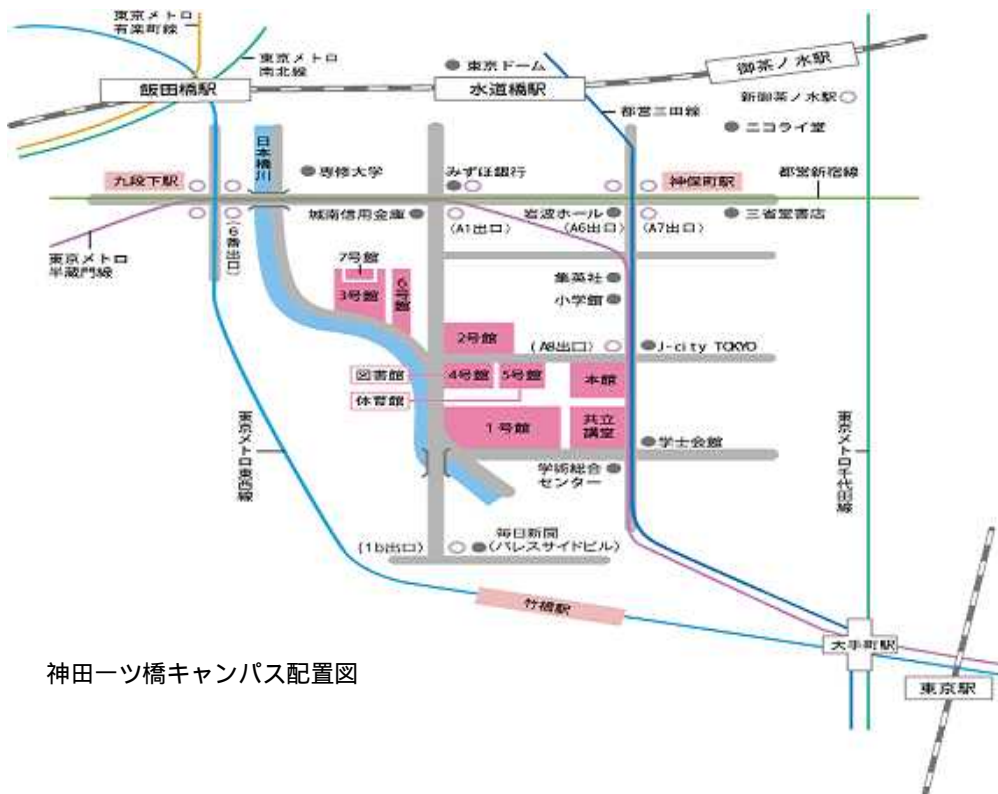
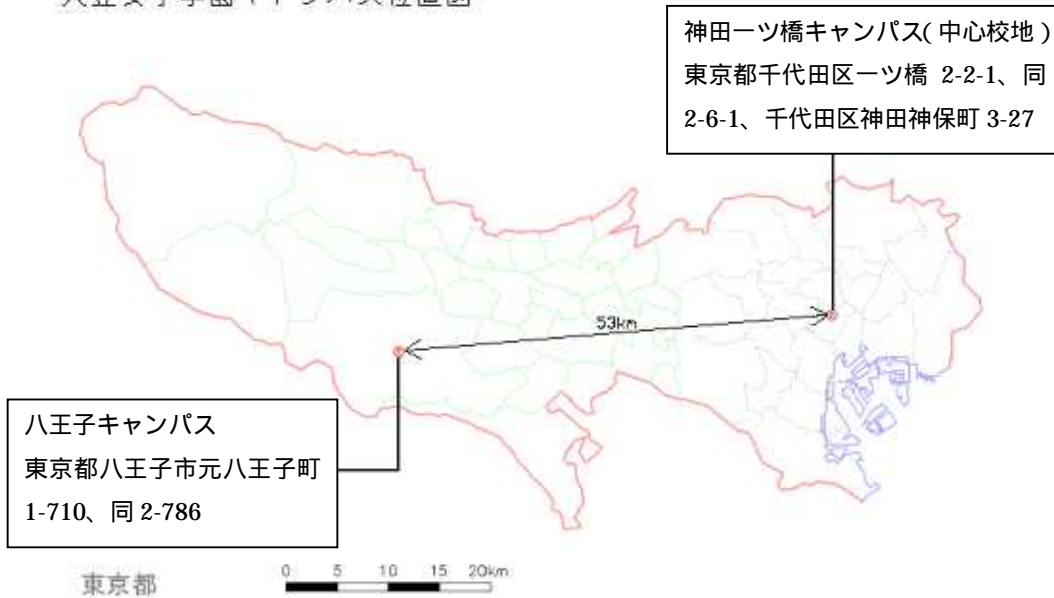
- ・東京都千代田区一ツ橋2丁目2番1号(神田一ツ橋キャンパス)  
(看護学科は千代田区神田神保町3丁目27番地)
- ・他に、地下鉄およびJR中央線・京王線とスクールバス利用により、約1時間で行き来できる距離に、学生等の課外活動等に利用される八王子キャンパスがある。
- ・URL: <http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/>

#### 位置・周囲の状況

本学は、東京都千代田区に位置し、JR東京駅からも直線距離でわずか1kmあまりのところにあり、交通も神保町駅(都営地下鉄新宿線・三田線、東京メトロ半蔵門線)、九段下駅(東京メトロ半蔵門線・東西線、都営地下鉄新宿線)、竹橋駅(東京メトロ東西線)、御茶ノ水駅(JR中央線・総武線、東京メトロ丸の内線)、水道橋駅(JR総武線、都営地下鉄三田線)の各駅からも、ともに徒歩圏内に立地している。

学園の周辺には、皇居東御苑、北の丸公園や、国立近代美術館等の文化施設があり、また神田古書店街等も近接しており、通学の便の良さのみならず、神田の学生街として歴史・文化に恵まれた立地となっている。少し足をのばすと、大手町のオフィス街も身近な存在であり、キャンパス内に止まらない大きな範囲が活動のエリアとなっている。

共立女子学園キャンパス位置図



神田一ツ橋キャンパス配置図

(3) 法人理事長、学長の氏名、連絡先及びその略歴、ALOの氏名、連絡先及びその略歴。なお、連絡先としては、TEL、FAX、E-Mail等を記載して下さい。

法人理事長 石橋 義夫

連絡先 Tel : 03-3237-2400 Fax : 03-3237-2612

略歴 昭和 47年 4月 学校法人共立女子学園監事  
昭和 52年 4月 学校法人共立女子学園理事  
52年 5月 学校法人共立女子学園常務理事  
57年 8月 学校法人共立女子学園理事長代行  
平成 2年 4月 学校法人共立女子学園学園長・理事長  
6年 4月 共立女子大学・短期大学学長代行(平成7年3月10日)  
14年 4月 共立女子大学学長代行(平成20年12月1日まで)  
18年 4月 共立女子短期大学学長代行(平成20年12月1日まで)

学長 入江 和生

連絡先 Tel : 03-3237-2788 Fax : 03-3237-2737  
E-mail : irie@sakura.kyoritsu-wu.ac.jp

略歴 平成 6年 4月 共立女子大学文芸学部長及び大学院文芸学研究科長  
(平成10年3月まで)  
10年 4月 共立女子大学・共立女子短期大学学生部長  
(平成14年3月まで)  
18年 4月 共立女子大学文芸学部長及び大学院文芸学研究科長  
(平成20年12月1日まで)  
20年 12月 共立女子大学・共立女子短期大学学長

A L O 岡部 隆志

連絡先 Tel : 03-3237-2557 Fax : 03-3237-2768  
E-mail : qb2t-okb@asahi-net.or.jp

略歴 平成 7年 4月 共立女子短期大学文科専任講師  
12年 4月 共立女子短期大学文科助教授  
16年 4月 共立女子短期大学文科教授  
18年 4月 共立女子短期大学文科長

(4) 平成 15 年度から 21 年度までの学科・専攻（通信による教育を行う学科（以下「通信教育学科」という）専攻科を含み、以下「学科等」という）ごとの入学定員、入学者数、入学定員充足率（％）、収容定員、在籍者数、収容定員充足率（％）を次ページの表を例に作成して下さい。廃止、募集停止等の学科を含む、該当する期間内に設置されたすべての学科等について作成して下さい。なお、在籍者数は毎年度 5 月 1 日時点とします。

平成15年度～21年度の設置学科、入学定員等

学科等の名称		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	備考
生活科学科	入学定員	240	170	170	170	170	170	170	
	入学者数	283	233	184	187	180	209	186	
	入学定員充足率（％）	117	137	108	110	105	122	109	
	収容定員	480	410	340	340	340	340	340	
	在籍者数	598	512	415	371	368	388	399	
	収容定員充足率（％）	124	124	122	109	108	114	117	
文科 (文科第一部)	入学定員	250	170	170	170	170	170	170	19年度 名称変更
	入学者数	250	227	202	214	215	231	231	
	入学定員充足率（％）	100	133	118	125	126	135	135	
	収容定員	500	420	340	340	340	340	340	
	在籍者数	474	476	449	419	427	454	468	
	収容定員充足率（％）	94	113	132	123	125	133	137	
文科第二部	入学定員	200	200	200	200	【募集停止】	【廃止】		
	入学者数	46	47	32	32				
	入学定員充足率（％）	23	23	16	16				
	収容定員	400	400	400	400	200			
	在籍者数	94	99	71	66	33			
	収容定員充足率（％）	23	24	17	16	16			
別科 (生活科学専修)	入学定員	【募集停止】			【廃止】				
	入学者数								
	入学定員充足率（％）								
	収容定員								
	在籍者数								
	収容定員充足率（％）								
看護学科	入学定員		【新設】 100	100	100	100	100	100	
	入学者数		99	97	91	100	90	92	
	入学定員充足率（％）		99	97	91	100	90	92	
	収容定員		100	200	300	300	300	300	
	在籍者数		99	194	281	290	277	276	
	収容定員充足率（％）		99	97	93	96	92	92	

(5)平成18年度～20年度に入学した学生(この事項においては通信教育学科の学生を除く)の出身地別人数及び割合(10程度の区分)を下表を例に毎年度5月1日時点で作成して下さい。なお、短期大学の実態に沿って地域を区分して下さい。

出身高等学校所在地別学生数(平成18年度～20年度)

< 関東近県 >

地域	平成18年度		平成19年度		平成20年度	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
東京都	148	28.2	173	34.9	174	32.8
千葉県	125	23.9	120	24.2	129	24.3
埼玉県	64	12.2	59	11.9	72	13.6
神奈川県	47	9	38	7.7	44	8.3
茨城県	24	4.6	13	2.6	13	2.5
栃木県	17	3.2	9	1.8	10	1.9
群馬県	7	1.3	10	2	5	0.9
山梨県	7	1.3	6	1.2	6	1.1
静岡県	11	2.1	8	1.6	7	1.3
その他	74	14.1	59	11.9	70	13.2
合計	524	100	495	100	530	100

< 全地域 >

地域		平成18年度		平成19年度		平成20年度	
		人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
北海道・東北	北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	22	4.2	17	3.4	26	4.9
関東 (1都3県除く)	茨城、栃木、群馬	48	9.2	32	6.5	28	5.3
東京		148	28.2	173	34.9	174	32.8
埼玉・千葉・神奈川		236	45	217	43.8	245	46.2
北陸	新潟、富山、石川、福井	9	1.7	9	1.8	7	1.3
東海・中部	山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重	35	6.7	25	5.1	34	6.4
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	4	0.8	0	0	2	0.4
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	1	0.2	5	1	2	0.4
四国	徳島、香川、愛媛、高知	2	0.4	1	0.2	2	0.4
九州・沖縄	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	2	0.4	5	1	7	1.3
その他		17	3.2	11	2.2	3	0.6
合計		524	100	495	100	530	100

(6) 法人が設置する他の教育機関の名称、所在地、入学定員、収容定員及び在籍者数をそれぞれ下表を例に平成 21 年 5 月 1 日現在で作成して下さい。

法人が設置する他の教育機関の現状

(平成 21 年 5 月 1 日現在)

教育機関名	所在地	入学定員	収容定員	在籍者数
共立女子大学大学院 家政学研究科 博士前期課程 博士後期課程 文芸学研究科 修士課程 比較文化研究科 修士課程	東京都千代田区一ツ橋2-2-1	16 3 20 15	32 9 40 30	12 10 12 12
共立女子大学 家政学部 文芸学部 国際学部 国際文化学部	東京都千代田区一ツ橋2-2-1	375 350 250 225	1,400 1,400 750 225	1,610 1,674 915 337
共立女子高等学校	東京都千代田区一ツ橋2-2-1	360	1,080	1,036
共立女子第二高等学校	東京都八王子市元八王子町2-786	240	720	579
共立女子中学校	東京都千代田区一ツ橋2-2-1	320	1,040	1,035
共立女子第二中学校	東京都八王子市元八王子町2-786	160	480	468
大日坂幼稚園	東京都文京区小日向2-17-7	35	105	91

注1 共立女子大学

家政学部 児童学科(入学定員100名)平成19年度増設

国際学部 平成19年度より設置

国際文化学部 平成19年度より学生募集停止

2 共立女子中学校 平成21年度入学定員変更 360名 320名

(7) その他

評価員が誤解しないように事前に知ってもらいたい事項や事情があれば、記述して下さい。

特になし。



## 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

### 【建学の精神、教育理念について】

(1) 建学の精神・教育理念を記述し、その意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述して下さい。

本学が属する共立女子学園の建学の精神は「女性の自立と自活」である。その意味するところは、「女性に専門的な知識と高度な技能を習得させ、女性の自主性と社会自立をめざす」ものであり、また「女性の社会的地位向上のために、自活の能力と自立した女性として必要な教養の習得」である。

本学園の出発は、明治19年に創設された共立女子職業学校である。当時共立という名前を有する団体や学校は少なくなかったが「女子職業学校」という名称は他になく、この名前が示すように当時の女性の自立と自活を目的に設立された学校である。明治19年当時の女性の社会的地位は低く、女性は結婚して専業主婦になるのが当然とされ、職業につくことは卑しむべきこととされていた。従って、ひとたび親や夫などの頼る術を失うと女性の生活は困窮を極めた。このような女性の現状を憂えた34名の有志が、女性の社会的な自立と自活のための学校を作ろうと協力し、生まれたのが本学の前身である「共立女子職業学校」である。当時、女性に、教養のみではなく職業教育を施す女学校はあまりなくその意味では「共立女子職業学校」の設立は女子教育の歴史にとって画期的な意義を持つものであった。教育の内容は、当初は裁縫や手芸を中心としたものであり、いわゆる家政系の学校として出発した。

設立有志の34名の主なメンバーは、当時の東京女子師範学校の教員であったが、それ以外にも、文部省の役人であった永井久一郎(永井荷風の父)など当時の有識者が参加している。

以上のように、本学は、女性の自立と自活を建学の精神として創設された経緯を持っており、その建学の精神は、現在の女子教育において時代を超えて受けつがれるべきものであると考えている。また、本学では、この建学の精神が受け継がれてくるなかで「誠実・勤勉・友愛」の三つの徳目が伝統的精神として提唱されるようになった。女性の自立と自活という建学の精神にさらにこの三つの徳目を身につけた女性を育てることが、本学の目指す教育である。

(2) 現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で学生や教職員に知らせているかを記述して下さい。

建学の精神及び教育の理念については、受験生向けの広報誌「KYORITSU OFFICIAL GUIDE」や「KYORITSU GUIDE BOOK(入試情報・学びと生活情報・進路情報)」の冒頭に記載している。さらに在学生向けの「履修ガイド」に「本学のあゆみ」として掲載している。この「履修ガイド」はホームページの在学生向けのサイトでも閲覧出来るようになっている。また学生に配付する学生手帳「CAMPUS GUIDE 2009」にも建学の精神を記載している。

また、新入生に対して必修科目となっている「基礎ゼミナール」の授業においても、本学の歴史や建学の精神、教育理念について解説している。

## 【教育目的、教育目標について】

(1) 多くの短期大学が複数の学科等を設置しています。その場合、それぞれの学科等では建学の精神や教育理念から導き出された、より具体的な教育目的や教育目標を掲げているものと思います（例えば、設置認可の際に「設置の趣旨」等で示されたもの等）。ここでは全学的に示された教育目的や教育目標ならびにそれぞれの学科等が設定している具体的な教育目的や教育目標を記述して下さい。

短期大学の教育目的・教育目標については、平成 20 年度以前には、女性の自立と自活という建学の精神に基づいた教養教育、そしてより実践的な教育を目指すものとしていたが、きちんと明文化されてはいなかった。そこで、それまでの教育理念、教育目的・教育目標をより明確化するかたちで平成 21 年度に各学科の「人材養成目的」を策定した。そこで明確化された、各学科及び教養教育の人材養成目的、すなわち教育目的、教育目標は次の通りである。

### <短期大学の目的>

本短期大学は、学生の主体的な学びを育み、専門の学芸を教授し、職業または実生活に必要な能力と幅広く深い教養および総合的な判断力を培うとともに、誠実に豊かな人間性を涵養し、社会に広く貢献する自立した女性を育成することを目的とする。

### <生活科学科>

#### 教育目的

生活科学科では、「学生自身の積極的な学習意欲を引き出し、社会において自立した人間として活躍するために、生活に関する実践的な知識・技能を身につけ、家庭および社会において、生活者としてそれらを活用する能力を養い、豊かな教養に基づき、思いやりのある誠実で協調性に富んだ女性を育成する」ことを教育目的とする。

#### 教育目標

上記の教育目的を達成させるため、生活に関する実践的な知識・技能として、生活科学科では環境、情報、造形・デザイン、栄養、健康、食料環境等の教育に重点を置いている。理論のみならず実践面も強調することにより、豊かな教養と実務能力を持つ生活者の育成を目指し、家庭や地域においてリーダーシップと協調性を有する教養の高い女性の育成を目標にしている。

### <文科>

#### 教育目的

文科の教育目的は、「学生自身が自らの将来を切り開いていくために自ら積極的に学ぼうとする意欲を引き出し、ひとりの自立した人間として成長していくための、表現する能力、コミュニケーションの能力、理解する力、豊かな文化的教養、社会に出て役立つ実践的な知識等を涵養し、そして、他者を思いやり人のために尽くす生き方が出来るような誠実で友愛に溢れた人間性を持つ女性を育成する」ことである。

## 教育目標

文科の教育目標は、教育目的を実現するために必要な能力、すなわち表現する力、プレゼンテーションの技術や文章表現能力、語学力、コミュニケーションの能力、日本や外国の文化に対する理解や知識、豊かな文化的教養、社会に出て役立つ実践的な知識等を身につけることである。

### <看護学科>

#### 教育目的

看護学科の教育目的は、本学の建学の精神および共立女子短期大学の人材養成目的、さらに看護師養成所の運営に関する指導要領・看護師教育の基本的考え方（改正案）に基づき「学生自らが自己の将来を切り開き、ひとりの自立した女性（人間）として職業を身につけ社会に貢献すること。看護専門職として必要とされる専門的知識、技術および実践能力の修得に加えて、広い教養を基盤とした豊かな人間性と、将来にわたり専門性を深めていくための基盤を兼ね備えた人材を育成する」ことである。

#### 教育目標

- 1) 生命の尊厳を尊重する倫理観を備えた豊かな人間性を養う。
- 2) 幅広い教養を基盤に自己の人的成長・発達と看護の質の向上を目指した主体的学習の能力を養う。
- 3) 看護の専門職に必要な知識・技術・態度を修得し、科学的根拠に基づき、あらゆる健康のレベルや変動する社会状況にも即応した看護実践力を身につけ、看護の役割を果す基礎的能力を養う。
- 4) 総合保健・医療・福祉関係職者や看護の対象・家族と協働活動ができ、看護実践を通して、調整・管理等の役割が果せる基礎的能力を養う。

### <全学共通教養教育>

#### 教育目的

教養教育の教育目的は、本学の建学の精神および共立女子短期大学の人材養成目的に基づき、「ひとりの女性・ひとりの人間として日々の生活を豊かに充実して生き、主体的に社会に参加して責任ある役割を果たすために必要な、基本的な知識や技能、幅広く深い教養、総合的な判断力、そして豊かな人間性を有する女性を育成する」ことである。

#### 教育目標

教育目標は、各学科の専門分野に関わらず、共立女子短期大学生全員が「自立した女性」として、必要な知識や技能身につけ、幅広く深い教養・総合的な判断力・豊かな人間性を養うことであり、具体的には以下のような教育目標を掲げている。

- 1) 大学生活を送る上で必要な学習技能を身につける。
- 2) 大学生活・社会生活を送る上で必要な基本的な表現能力と、情報活用能力を身につける。
- 3) 専門分野の枠を超えて共通に求められる知識と技能を見につけ、知的な好奇心、

- 柔軟な思考力を養う。
- 4) 将来、知的・文化的な日常生活を創造できるような知識・技能を身につける。
  - 5) 現代社会における諸課題に自らの使命・役割・責任を関連付け、適切に対処できる知識と能力を身につける。
  - 6) 専攻する学問の理解を助け、関連する諸分野への幅広い視点を獲得するための知識と技能を身につける。

(2) それぞれの学科等の教育目的や教育目標を、現在どのような方法で学生や教職員に周知し、またどのような方法で学外に公表しているかを記述して下さい。

これまでの教育目的・教育目標については、学生に対しては、在学生向けの『履修ガイド』を通して、また新入生ガイダンスでの教員による説明、「基礎ゼミナール」の授業でも説明することで周知をはかっている。

学外に向けては、受験生向けの『KYORITSU OFFICIAL GUIDE』、『GUIDE BOOK』や、またそれぞれの学科で発行している受験生向けパンフレット、またホームページで公表している。

上記各種媒体は学内の各部署にも配付され、教職員への周知が図られている。

また、平成 21 年度に策定された新しい人材養成目的については、その策定の過程で、教授会における検討を通じて教員に周知されている。また共立女子学園の学内教職員向け広報誌「学園だより」に人材養成目的について掲載する予定なので、そこでの周知も図る予定である。学生への周知についても、今後上記と同様の方法で周知を図る予定である。

#### 【定期的な点検等について】

(1) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検が、定期的に行われている場合はその概要を記述して下さい。また点検を行う組織、手続き等についても記述して下さい。

本学においては、短期大学の自己点検・自己評価報告書の作成が、建学の精神や教育理念の解釈、教育目的や教育目標の定期的な見直し、点検ということになる。前回は平成 14 年に「自己評価報告書」が作成されその際に点検作業が行われた。実施したのは自己評価委員会、自己評価実施委員会である。平成 21 年度の自己点検・評価報告書の作成についても、やはり自己評価委員会、自己評価実施委員会によって点検作業が進められた。なお、平成 20 年には共立女子大学と本学（短期大学）とにまたがる将来構想委員会が新たに設置され、共立女子学園の建学の精神並びに大学・短期大学の人材養成目的（教育理念、教育目的・教育目標）の見直し及び点検が行われたが、この結果についても、平成 21 年の自己点検・評価報告書作成に関わる見直し点検作業の中で十分に踏まえている。

(2) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検及びそれらを学生や教職員に周知する施策等の実施について、理事会または短期大学教授会がどのように関与しているかを記述して下さい。

建学の精神や教育理念の解釈の見直し及び教育目的、教育目標の点検、またその周知

する施策の実施について、普段の自己点検・評価の範囲を超えるものについては、共立女子大学、短期大学共通の将来構想専門委員会が設置されそこで見直し検討が行われることになっている。この委員会での検討結果は短期大学教授会に随時報告され、必要があれば討議しそこでの意見は委員会に戻される。理事会は、委員会での検討結果を踏まえて、機関決定を行う。

また普段の自己点検・評価による場合は、自己評価委員会、自己評価実施委員会で検討し、その検討結果についての教授会と理事会との関与の仕方は、将来構想専門委員会の場合と同じである。

#### 【特記事項について】

(1) この《 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標について努力していることがあれば記述して下さい。また短期大学で独自の使い方や別の語句を使っている場合はその旨記述して下さい。

短期大学、及び各学科の人材養成目的（建学の精神に基づいた教育理念、教育目的・教育目標）を策定したが、今後はより具体的な人材養成目的像（各学科の人材養成目的に沿った、カリキュラムの展開を通して実現を図っていく、より詳細な教育目的や教育目標等）についての策定を検討中である。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

#### 【添付資料】

・ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標等についての印刷物

- 1 KYORITSU OFFICIAL GUIDE ( P2、 P7、 P8、 P61 ~ P88 )
- 2 KYORITSU GUIDE BOOK ( 入試情報・学びと生活情報・進路情報 ) ( P1、 P2 )
- 3 履修ガイド ( P4、 P7 ~ P10、 P14、 P15、 P33、 P44、 P45、 )
- 4 CAMPUS GUIDE 2009 ( P3 )
- 5 基礎ゼミナールテキスト ( P4 ~ P21 )
- 6 学園だより ( 34 )

## 教育の内容

### 【教育課程について】

(1) 学科等の現在の教育課程を、下の表を例に作成して下さい。なお学科等に複数の履修コースを設定し、学生に別の教育課程表として提示している場合はコースごとに記載して下さい。

教育課程表は、下表の通りである。本学において、教養教育については、大学・短期大学共通で実施している。また、コースについては、生活科学科は、生活環境情報コース、生活アートコース、食・健康コースの3コースを設定し、文科は、日本語・日本文学コース、英語・英米文学コース、心理学コースの3コースを設定している。看護学科は、コースの設定はない。

### 教養教育科目教育課程

(平成21年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
入門 基本スキル ことばとコミュニケーションスキル	基礎ゼミナール				2						537 (17)	
	表現技法Ⅰ(作文・論文)					1					38 (10)	
	表現技法Ⅱ(読解・分析)					1					8 (3)	
	表現技法Ⅲ(企画立案・発表討論)					1					11 (3)	
	基礎日本語(留学生対象)					2					0 (1)	
	応用日本語(留学生対象)					2					0 (1)	
	英語Ⅰ				2						529 (59)	
	英語Ⅱ					2					102 (44)	
	ビジネス英語Ⅰ					2					3 (4)	
	ビジネス英語Ⅱ					2					0 (6)	
	基礎フランス語(入門)					2					60 (16)	
	基礎フランス語(表現)					2					26 (12)	
	応用フランス語(総合)					2					3 (9)	
	基礎中国語(入門)					2					75 (21)	
	基礎中国語(表現)					2					39 (17)	
	応用中国語(総合)					2					6 (8)	
	基礎ドイツ語(入門)					2					14 (7)	
	基礎ドイツ語(表現)					2					3 (5)	
	応用ドイツ語(総合)					2					0 (3)	
	基礎スペイン語(入門)					2					15 (5)	
	応用スペイン語(総合)					2					3 (2)	
	基礎イタリア語(入門)					2					25 (3)	
	応用イタリア語(総合)					2					1 (2)	
	基礎ロシア語(入門)					2					6 (1)	
	応用ロシア語(総合)					2					0 (1)	
	基礎韓国語(入門)					2					39 (4)	
	応用韓国語(総合)					2					4 (2)	
	情報基礎					2					155 (11)	
	情報処理					2					278 (38)	看護学科は必修
	情報活用法(データベース)					2					53 (8)	
	情報活用法(ネットワーク)					2					40 (9)	
	統計基礎					2					7 (3)	
	統計情報処理					2					7 (3)	
	体育					2					87 (20)	

科目 の 種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の 履修人員 (クラス数)		備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任			
学問 への 招待	教養講座					2					9	(1)	
	比較文化の視点					2					64	(3)	
生活 の中 の 教 養	メディアと文化					2					121	(5)	
	文学の世界					2					85	(5)	
中 の 教 養	芸術の世界					2					204	(6)	
	デザインの世界					2					169	(4)	
の 教 養	衣食住の文化					2					77	(3)	
	生活環境とアメニティ					2					87	(2)	
社 会 人 と し て の 教 養	健康の科学					2					108	(4)	
	介護・ケアと生活					2					51	(3)	
社 会 人 と し て の 教 養	政治・社会の諸課題					2					18	(3)	
	経済・産業の諸課題					2					14	(2)	
社 会 人 と し て の 教 養	国際関係の諸課題					2					29	(4)	
	環境・科学の諸課題					2					65	(4)	
社 会 人 と し て の 教 養	人間とは何か					2					84	(3)	
	人間関係と自己表現					2					145	(4)	
社 会 人 と し て の 教 養	現代の家族					2					77	(3)	
	地域社会と福祉					2					58	(2)	
社 会 人 と し て の 教 養	女性と社会					2					106	(4)	
	マーケティング					2					197	(4)	
社 会 人 と し て の 教 養	ライフプランとキャリアプラン					2					101	(4)	
	企業・組織の仕組み					2					63	(2)	
社 会 人 と し て の 教 養	自己開発					2					3	(1)	
	文学					2					75	(5)	
社 会 人 と し て の 教 養	哲学概論					2					20	(2)	
	倫理学概論					2					19	(2)	
社 会 人 と し て の 教 養	言語学概論					2					34	(2)	
	心理学					2					327	(10)	
社 会 人 と し て の 教 養	教育学					2					47	(3)	
	社会学概論					2					27	(4)	
社 会 人 と し て の 教 養	文化人類学					2					178	(7)	
	民俗学					2					92	(3)	
社 会 人 と し て の 教 養	人文地理学					2					2	(1)	
	自然地理学					2					10	(1)	
社 会 人 と し て の 教 養	地誌学概論					2					8	(1)	
	法学概論					2					16	(2)	
社 会 人 と し て の 教 養	法学(日本国憲法)					2					38	(6)	
	政治学概論					2					16	(2)	
社 会 人 と し て の 教 養	経済学概論					2					54	(3)	
	国際関係概論					2					13	(3)	
社 会 人 と し て の 教 養	世界史概論					2					23	(2)	
	日本史概論					2					89	(4)	
社 会 人 と し て の 教 養	地域史					2					24	(3)	
	数学					2					13	(2)	
社 会 人 と し て の 教 養	物理学					2					4	(2)	
	化学					2					21	(4)	
社 会 人 と し て の 教 養	生物学					2					52	(4)	

教養教育科目については、前年度の履修人数及びクラス数は、短期大学全体の数。

生活科学科教育課程

(平成21年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考		
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任				
専門教育科目	各コース共通	生活科学概論				2						215 (4)		
		食生活論					2					140 (4)		
		衣生活論					2					113 (2)		
		住生活論					2					100 (3)		
		心の健康					2					187 (2)		
		家族と健康					2					- (-)	平成21年度新設	
	生活環境情報系	環境と情報					2					47 (1)		
		都市と環境					2					30 (1)		
		環境と消費					2					29 (1)		
		環境メディア社会論					2					58 (1)		
		コミュニケーション文化論					2					49 (1)		
		環境情報デザイン論					2					37 (1)		
		環境メディア演習					2					43 (1)		
		CAD入門演習					2					115 (4)		
		CAD利用演習					2					62 (2)		
		CG演習					4					80 (4)		
		DTP演習					2					45 (2)		
		Webデザイン基礎演習					2					58 (2)		
		Webデザイン応用演習					2					35 (2)		
		生活心理系	環境心理学					2					41 (1)	
			社会心理学					2					54 (2)	
			消費者の心理					2					73 (1)	
			発達心理学					2					109 (1)	
			ボランティア行動論					2					24 (1)	
			デザインの心理					2					64 (1)	
			心理・調査解析演習					2					31 (1)	
			社会調査演習					2					22 (1)	
	特別演習系		チャレンジ・ゼミナール					2					159 (9)	
			卒業研究・卒業制作					4					71 (14)	
	造形・デザイン系	アート・デザイン論					2					68 (1)		
		アパレル論					2					39 (1)		
		ファッションデザイン論					2					47 (1)		
		生活デザイン演習					4					70 (2)		
		カラーコーディネート演習					2					78 (2)		
		デッサン(実習)					3					46 (2)		
		アパレルデザイン実習					3					47 (2)		
		染色工芸実習					3					28 (2)		
		手芸実習					3					46 (2)		
		彫金実習					3					47 (3)		
		総合造形実習					3					30 (2)		
		生活アートデザイン系	快適住環境論					2					61 (1)	
	インテリア構成論						2					61 (1)		
	集住デザイン論						2					32 (1)		
	インテリア設計演習						4					54 (2)		
	インテリア製図演習						2					50 (2)		
インテリア製図演習						4					25 (1)			
インテリアCAD基礎演習						4					72 (2)			
インテリアCAD応用演習						4					27 (1)			
CG演習						4					80 (4)	再掲		
特別演習系	チャレンジ・ゼミナール						2					159 (9)	再掲	
	卒業研究・卒業制作					4					71 (14)	再掲		



科目 の 種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の 履修人員 (クラス数)	備考		
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任				
専門教育科目	食と健康系(知識)	食物基礎科学				2						99 (1)		
		食物栄養学				2						89 (1)		
		ライフステージ栄養学				2						58 (1)		
		食品衛生学				2						58 (2)		
		環境調理学				2						88 (2)		
		食物学				2						88 (1)		
		食料経済論				2						65 (2)		
		食品学実験				2						77 (3)		
		嗜好評価処理演習				2						76 (2)		
		調理学実習				4						82 (3)		
	食と健康系(選択・行動)	生活基礎演習				2						44 (2)		
		健康栄養実習				2						66 (2)		
		調理学実験				2						73 (2)		
		食行動学演習				2						88 (3)		
		調理学実習				2						57 (3)		
		ライフステージ栄養演習				2						67 (3)		
		健康・資格支援系特別演習系	フードスペシャリスト論				2						49 (1)	
			フードコーディネーター論				2						64 (2)	
			フードスペシャリスト演習				2						- (-)	平成21年度新設
			健康科学				2						44 (1)	
	グラフィックソフト演習					2						23 (1)		
チャレンジ・ゼミナール					2						159 (9)	再掲		
卒業研究・卒業制作				4						71 (14)	再掲			

文科教育課程

(平成21年5月1日現在)

科目 の 種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の 履修人員 (クラス数)	備考	
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任			
専門教育科目	基礎共通科目	リテラシー 文章表現				2						246 (7)	
		コミュニケーション論					2					82 (2)	
		プレゼンテーション論					2					31 (2)	
	日本語・日本文学コース	リテラシー 文章表現				2						175 (4)	
		リテラシー コミュニケーション論					2					127 (2)	
		リテラシー プレゼンテーション論					2					33 (1)	
		ことばの仕組み					2					35 (1)	
		ことばの仕組み					2					16 (1)	
		現代のことば					2					90 (2)	
		現代のことば					2					77 (2)	
		古典文学を読む					2					69 (3)	
		古典文学を読む					2					35 (3)	
		近代現代文学を読む					2					74 (2)	
		近代現代文学を読む					2					64 (2)	
		古典文学の研究					2					45 (3)	
		古典文学の研究					2					35 (3)	
		近代現代文学の研究					2					57 (2)	
		近代現代文学の研究					2					40 (2)	
		古典文学の歴史					4					20 (1)	
		近代文学の歴史					4					53 (1)	
		文学とことばのセミナー				2						82 (4)	
クリエイト	児童文学					2					94 (2)		
	映画・演劇論					2					52 (1)		
	サブカルチャー論					2					87 (2)		
	文学を歩く					2					5 (1)		
	文学を創る (詩・短歌)					2					19 (1)		
-	文学を創る (小説・エッセイ)					2					34 (1)		
-	文学とことばの卒業セミナー				4						76 (4)		

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考	
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任			
4 Skills	Listening				1						- (-)	平成21年度新設	
	Oral English				1						- (-)	平成21年度新設	
	Reading				1						- (-)	平成21年度新設	
	Writing				1						- (-)	平成21年度新設	
	Listening				1						- (-)	平成21年度新設	
	Oral English				1						- (-)	平成21年度新設	
	Reading					1				-	- (-)	平成21年度新設	
	Writing					1				-	- (-)	平成21年度新設	
	Listening					1				-	- (-)	平成21年度新設	
	Oral English					1				-	- (-)	平成21年度新設	
	Reading					1				-	- (-)	平成21年度新設	
	Writing					1				-	- (-)	平成21年度新設	
	Listening					1				-	- (-)	平成21年度新設	
	Oral English					1				-	- (-)	平成21年度新設	
	Language Literature Culture	英文法						2				83 (3)	
		英語音声学						2				40 (3)	
		英語学概論						4				23 (1)	
		英米文学概論						4				54 (1)	
		英語学演習						2				45 (3)	
		英米文学演習						2				35 (3)	
		英語学研究						4				23 (2)	
		英米文学研究						4				45 (3)	
		日英語対照研究						2				41 (2)	
		日英比較文学						2				71 (2)	
		Cultures of the English Speaking World						2				- (-)	平成21年度新設
		English through the Movies						2				- (-)	平成21年度新設
		Business Skills	TOEIC演習						1				- (-)
	TOEIC演習							1				- (-)	平成21年度新設
	TOEIC演習							1				- (-)	平成21年度新設
	TOEIC演習							1				- (-)	平成21年度新設
	News English							1				- (-)	平成21年度新設
	News English							1				- (-)	平成21年度新設
	Business English							1				- (-)	平成21年度新設
	Business English							1				- (-)	平成21年度新設
	通訳法							1				19 (1)	
	通訳法							1				14 (1)	
	翻訳法							1				14 (1)	
	翻訳法							1				14 (1)	
	卒業セミナー							4				97 (5)	
	心理学の基礎を学ぶ	自分を知る・表現する						2				175 (4)	再掲
		コミュニケーション論						2				127 (2)	再掲
		プレゼンテーション論						2				33 (1)	再掲
		自己開発トレーニング						2				90 (3)	
		心理学概論						4				91 (2)	
心理調査解析演習							2				24 (1)		
発達心理学							2				109 (1)		
社会心理学							2				54 (1)		
臨床心理学							2				108 (1)		
臨床心理学							2				- (-)	平成21年度新設	
健康心理学							2				25 (1)		
カウンセリング論							2				66 (1)		
教育心理学							2				21 (1)		
認知心理学						2				28 (1)			
人間を知る・学ぶ	コミュニケーション心理						2				21 (1)		
	こころと行動						2				50 (1)		
	性格とは何か						2				46 (1)		
	英語文献講読						4				- (-)	平成20年度新設	
	消費者の心理						2				57 (1)		
	アートと心理						2				102 (1)		
	音楽とこころ						2				111 (1)		
	文学に見る行動心理						2				47 (1)		
	心理学卒業演習						2				36 (2)		

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門教育科目 各コース共通 資格サポート 情報	伝統文化論					2					10 (1)	
	地域文化論					2					52 (2)	
	日英比較文化論					2					15 (1)	
	現代英米事情					2					14 (1)	
	アジアと日本					2					27 (1)	
	ジェンダー論					2					74 (4)	
	映像メディア論					2					49 (1)	
	民俗文化の世界					2					55 (2)	
	からだと健康					2					31 (1)	
	子ども文化論					2					125 (2)	
	翻訳文化論					2					14 (1)	
	出版メディア論					2					56 (1)	
	日本の歴史と文化					2					13 (1)	
	日本の歴史と文化					2					8 (1)	
	ワープロとインターネット					2					128 (5)	
	情報リテラシー入門					2					9 (1)	
	観光英語を学ぶ					2					84 (4)	
	観光英語を学ぶ					2					69 (4)	
	ビジネス情報処理					2					104 (5)	
	編集・出版の情報処理					2					25 (2)	
秘書実務を学ぶ					2					147 (2)		
秘書実務を学ぶ					2					117 (2)		
漢字を学ぶ					2					56 (1)		

### 看護学科教育課程

(平成21年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考	
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任			
学科スキル科目	障害教育と手話					1					49 (1)		
	医療と統計				1						86 (1)		
	医療の英語 (会話)					1					8 (1)		
	医療の英語 (講読)					1					62 (1)		
専門基礎科目	生きる力の しる	解剖学				1						86 (1)	
		解剖学				1						86 (1)	
		生理学				1						86 (1)	
		生化学				1						86 (1)	
		病理学				1						86 (1)	
	病気の しる 治す力	病態心理学				1						86 (1)	
		微生物学				1						86 (1)	
		栄養学				1						86 (1)	
		薬理学				1						86 (1)	
		リハビリテーション				1						96 (1)	
	ライフに おける イクルサ 治す力	小児への医学的対応				1						96 (1)	
		成人への医学的対応				1						96 (1)	
		成人への医学的対応				1						88 (1)	
		母性への医学的対応				1						97 (1)	
		高齢者への医学的対応				1						96 (1)	
	健康生活を 支える 社会の力	医療・福祉概論				1						96 (1)	
医療と情報					1						87 (1)		
医療と法律					2						95 (1)		
医療と経済						1					51 (1)		
障害者福祉論						1					81 (1)		
ケースマネジメント					1						24 (1)		

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考	
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任			
専門教育科目	看護学概論				2						86	(1)	
	共通看護技術論				1						86	(1)	
	共通看護技術論				1						95	(1)	
	共通看護技術論				1						-	(-)	平成21年度新設
	日常生活援助技術論				1						86	(1)	
	日常生活援助技術論				1						86	(1)	
	日常生活援助技術論				1						86	(1)	
	回復促進援助技術論				1						86	(1)	
	回復促進援助技術論				1						97	(1)	
	基礎看護学実習Ⅰ				1						86	(1)	
	基礎看護学実習Ⅱ				2						96	(1)	
	成人看護学概論				1						86	(1)	
	成人看護活動論				1						87	(1)	
	成人看護活動論				2						97	(1)	
	成人看護活動演習				2						95	(1)	
	成人看護学実習Ⅰ				3						80	(1)	
	成人看護学実習Ⅱ				3						80	(1)	
	高齢者看護学概論				1						86	(1)	
	高齢者看護活動論				2						97	(1)	
	高齢者看護活動演習				1						96	(1)	
	高齢者看護学実習Ⅰ				1						97	(1)	
	高齢者看護学実習Ⅱ				1						80	(1)	
	高齢者看護学実習Ⅲ				2						80	(1)	
	小児看護学概論				1						87	(1)	
	小児看護活動論				2						96	(1)	
	小児看護活動演習				1						95	(1)	
	小児看護学実習Ⅰ				1						96	(1)	
	小児看護学実習Ⅱ				1						80	(1)	
	母性看護学概論				1						86	(1)	
	母性看護活動論				2						96	(1)	
	母性看護活動演習				1						77	(1)	
	母性看護学実習				2						80	(1)	
	精神看護学概論				1						86	(1)	
	精神看護活動論				1						95	(1)	
	精神看護活動演習				1						77	(1)	
	精神看護学実習				2						80	(1)	
在宅看護概論				1						96	(1)		
在宅看護活動論				2						96	(1)		
在宅看護活動演習				1						96	(1)		
在宅看護論実習Ⅰ				1						80	(1)		
在宅看護論実習Ⅱ				1						80	(1)		
臨床統合看護論				2						-	(-)	平成21年度新設	
臨床統合看護論				2						-	(-)	平成21年度新設	
臨床統合看護論実習				2						-	(-)	平成21年度新設	

(2) 教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等について特に強調したいことがあれば記述して下さい。

本短期大学では、共立女子大学と共に平成19年度から神田集中化に伴い全学共通の教養教育を実施している。教養教育の全学共通化は、これまで各学部・学科が個別に運営していた教養教育を統合整理する一方で、教育資源を集約し、全学的な教育効果を高める方策として打ち出されたものである。従来の教養教育は専門を学ぶために必要な知識を広く学ぶものとして、専門教育の下位に位置づけられていたが、新しい全学共通の教養教育は、社会人としてあるいは生活者として、必要な（あるいは持つことが望ましい）基本スキルや知識・教養をしっかりと身につけるといった教育目標をもっており、その意味では、教養教育を専門教育と並列の関係にあるものとして位置づけている。つまり、新しい教養教育は、本学の建学の精神である「女性の自立と自活」に立ち返り、現代社会において、一人の女

性、一人の人間として、日々の生活を豊かに充実して生き、主体的に社会に参加して責任ある役割を果たすのに必要な幅広く深い教養を涵養する、という理念のもとに、独自の体系化された教育システムとなっている。運営に当たっては、大学の各学部、短期大学の各学科の専任の教員が担当し、また学生は、学部・学科の垣根を越えて同じ科目を受講する事が出来る。このことによって、教養教育を通して共立女子大学・短期大学が一つにまとまり、共立女子学園の建学の精神に基づいた共立らしい教養教育が可能になると考えている。

専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等については、各学科(生活科学科・文科・看護学科)のそれぞれの特性に応じて違っているが、それぞれの人材養成目的に沿ったものとなっている。

(3) 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示して下さい。また教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その免許・資格名とどのような履修方法であるかを記述して下さい。

#### 生活科学科

生活環境情報コースでは、教養教育科目の情報基礎および、コース専門教育科目のCAD入門演習、CAD利用演習の履修内容がCAD利用技術者基礎試験の出題範囲をカバーしている。

生活アートコースでは、コース専門教育科目のインテリアCAD基礎演習、インテリアCAD応用演習および、卒業研究・卒業制作の一部の履修が、それぞれインテリアCAD初級、中級、上級認定の条件となっている。

食・健康コースでは、当該教育課程を履修するのみで取得できる免許・資格はないが、複数の教科単位を修得すれば(社)フードスペシャリスト協会が認定する「フードスペシャリスト」の受験資格を、(社)日本惣菜協会が認定する惣菜管理士三級を受験するための受講資格を取得できる。コースでは教科の半分以上をフードスペシャリスト協会が指定している必修または選択必修の教科として設置し、さらに試験に対応する集中授業を行っている。

#### 文科

英語・英米文学コースではTOEICテスト対応の授業をカリキュラムに取り入れ、学生の就職活動や進学・留学を支援している。TOEIC IPテストは毎年2回、特別団体受験制度を利用して実施している。基礎から丁寧に教育し、卒業するまでにTOEICテスト500点以上をめざして指導している。

心理学コースでは、臨床心理士の資格を目指す学生がいる。短期大学だけでは取れないが、その準備として、心理学の基礎を体系的に学ぶカリキュラムになっている。とくに英語文献の読解力を養うよう考慮している。心理学を専門的に学び、資格を得ることを目指したい学生には大学への編入学をすすめている。共立女子大学には心理学部はないので、他大学の心理学部に編入することになる。また、心理療法の分野での活用にアロマセラピーが注目されてきているので、今後検討したい。

日本語・日本文学、英語・英米文学、心理学の3コースにまたがる「資格サポート・

情報科目」の一連の授業では、就職に役立つ資格を取得支援するための授業や、社会人としての必要な知識・技術を身に付ける授業が用意されている。資格取得の可能性を高めるために6種類の資格について、下記の表のように受験対策のための教本をテキストに使用している。これらの授業を履修することで、単に受験上の知識を得るだけでなく、卒業後の一般社会での仕事に対応できる資質を養うこと、すなわち即戦力に近い能力を身に付けることができるよう心がけている。

資格サポート・情報科目一覧

授業科目名	目標資格	主催	使用テキスト	出版社
ワープロとインターネット	日商PC検定試験2級	日本商工会議所	日商PC検定試験2級公式テキスト前半	FOM出版
ビジネス情報処理			日商PC検定試験2級公式テキスト後半	
編集と出版の情報処理	DTP検定 種	ワークスコーポレーション	DTP検定公式ガイドブック 種	オラリオ
情報リテラシー入門	J検情報活用3級	専修学校教育振興会	J検情報活用3級完全対策公式テキスト	日本能率協会マネジメントセンター
漢字を学ぶ	漢字検定	日本漢字能力検定協会	漢字のはなし	岩波書店
観光英語	観光英語検定	全国語学ビジネス観光教育協会	実用観光英語	成美堂
秘書実務を学ぶ	秘書検定2級	実務技能検定協会	秘書技能検定試験実問題集2級	早稲田教育出版

#### 看護学科

看護学科の卒業要件を満たすことにより「看護師国家試験受験資格」を取得することができ、「看護師国家試験」に合格すると「看護師免許証」が取得できる。また、教育課程の他に、1年次の夏季休暇期間に東京消防庁主催「上級救命講習」を1日受講できるよう配慮し、毎年96%以上の学生が東京消防総監の「上級救命」技能認定証が交付されている。

#### 正課外における免許・資格等の取得機会

共立アカデミーと名付けられた課外講座があり、この講座には秘書検定、カラーコーディネーター検定、簿記検定等様々な資格・免許講座が用意されている。この課外講座を利用すれば、資格・免許等の取得の機会はさらに多くなる。

(4) 選択科目を学生が適切に判断して選択できるように、学生便覧やガイダンス等でどのように指導しているか、また学生が希望する選択科目を履修しやすいように、時間割上どのような工夫を施しているか等について記述して下さい。

選択科目については、コースや科目群ごとにカリキュラムの系統性に着目して履修要件を設定しており、これらの履修要件を「履修ガイド」に明記し、「学生支援」の(6)で述べるように入学後のオリエンテーション等において、教員や教務課から指導している。

時間割上の工夫としては、まず、全学的に必修である「英語」については、一定の曜日・時限に配当し、他の科目と重複しないようにしている。また、全学的に「授業配当基準」を策定し、特定の曜日・時限に授業が集中しないよう、曜日・時限ごとの授業開講数の量的基準を設けている。

(5) 卒業要件単位数及びその他の卒業要件（必修単位の修得、学生納付金の納付等）を示して下さい。また学生にはどのような方法で卒業要件を周知させているかを記述して下さい。

卒業および学位の授与については、本学学則に修業年限、卒業要件単位を定めている（学則第 51 条～第 51 条の 3）。また、授業料等の学費を納入していない者は試験を受けることができないと定められている（学則第 54 条）。さらに、本学の試験規程では、次のように受験資格を規程している。「(1)当該授業科目の履修登録をしていること、(2)当該授業科目の出席時間数が原則として授業総時間数の 2/3 以上あること、(3)当該期の学費を納入していること」（試験規程第 7 条）。

学生には、本学のホームページ、履修要項、入学時のガイダンスを通じて周知を図っている。

#### 卒業要件単位

区分	生活科学科	文科	看護学科
教養教育科目	14 単位	16 単位	13 単位(注)
専門教育科目	48 単位	46 単位	84 単位
卒業要件単位数計	62 単位	62 単位	97 単位

(注) 学科スキル科目も含む。

(6) 教育課程の見直し、改善について、学科等の現状を記述して下さい。なおこの項はできれば学科等の責任者（学科長、学科主任等。以下、「学科長等」という）が記述して下さい。

#### 生活科学科

生活科学科では平成 19 年に、3 コースのひとつである情報メディアコースを生活環境情報コースに名称変更した。これは、大学・短期大学の将来構想に準拠するための変更であった。このコースが対象となったのは、それまで、情報スキルの習得に重点を置いたカリキュラムによって構成されたコースであったものを、高等学校での情報教育が進むなか、基礎的な情報スキルを習得するという教育の役割は第一義的ではなくなったという判断のもとに、習得した情報スキルをどのように活用するかという視点からのコースの位置づけに基づいた改編であった。改編にあたっては、短期大学の抜本的な改革を視野に入れ、学科という枠を超えて、文科で新設された心理学コースとの共通性も持ったカリキュラム構成とした。この変更は、平成 20 年度に定められた「人材養成目的」に準拠した抜本的な改革の先駆けであった。

一方、学生の就職活動や編入学を支援するため、平成 20 年度より新たな科目（科目名称「チャレンジ・ゼミナール」）を設置している。この科目は、1 年次に開講される

ものであり、担当教員が学生の進路や学習目標の達成に向けた計画を指導し、本学が主催する説明会、セミナー、講座などへの参加、生活科学科が独自に企画するプログラムへの参加を促す目的で設置したもので、昨年度よりその効果が出ている。

#### 文科

文科では平成 19 年度に日本語・日本文学専攻、英語・英米文学専攻の 2 専攻制を廃止し、あらたに心理学コースを加えた、日本語・日本文学コース、英語・英米文学コース、心理学コースの 3 コース制へと改組した。その改組の際に教育課程の見直し、改善を行っている。文科の教養教育については、平成 19 年度から始まった、全学的な共通の教養教育課程を組み込んでいる。また、文科の専門教育としては、特にリテラシー教育に力を入れ、文科共通科目として文章表現の科目を 1 年次の必修にするなど文章を書く力を強化する授業を設けている。また、日本語・日本文学コース、心理学コースは卒業論文を必修にするなど、論理的に書く力を身につける科目を作り、英語・英米文学コースも、TOEIC500 点レベルの英語力を身につけさせる実践的な教育を目指しているが、平成 20 年には、平成 21 年度に向けて英会話の授業を増やし、オールイングリッシュの講義を設けるなど、大幅なカリキュラム改正を行った。

#### 看護学科

看護学科では、平成 19 年 3 月に第 1 回目の卒業生を送った。教育課程の見直しでは、専門基礎科目の「解剖学」(2 単位)について、学習内容・学習範囲等から学生の過重な負担を改善するために、「解剖学」(1 単位)と「解剖学」(1 単位)に分け、1 年次(前期・後期)に配置した。また、1 年次配当の「基礎看護実習 - 1 回目」(前期)と「基礎看護実習 - 2 回目」(後期)を統合して、前期に配置し科目間の関連性が強化できるようにした。3 年次では「母性看護活動演習」(1 単位)と「小児看護活動演習」(1 単位)を 2 年次後期へ移し、これまでの過密な時間割を見直して学生の予習や復習時間を確保できるようにした。平成 19 年度から全学的な教養教育が始まり、看護学科の教養教育もそこに組み込まれている。また、平成 21 年度から「看護師学校養成所指定規則」の改正を受けて、カリキュラム改正が行われることから、新カリキュラムの構築を行い平成 20 年 8 月文部科学省に申請し承認されている。新カリキュラムの教育内容は大きく分けて「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」、「専門分野」、「統合分野」の 5 分野で編成されている。

#### 【授業内容・教育方法について】

(1) シラバスあるいは講義要項を作成・配付する際に配慮していることや学生への周知方法等を記述して下さい。

シラバスの執筆にあたっては、毎年度、教員に対して「共立シラバスオンライン執筆マニュアル」を配付しており、その中で、特に、事前・事後学習については、参考文献・テキストの該当ページ等も具体的に記入すること、評価の基準・方法及び試験の方法については、必ず記入するように求めている。

また、平成 21 年度に向けて、特に、平成 21 年 2 月 10 日付けの学長文書「2009 年度



『共立シラバス』の記入について(お願い)」を発売し、評価の基準・方法、試験の方法、事前・事後学習について、記入の徹底と内容の充実を図っている。

シラバスには、授業概要も含まれ、学生・教員等に対して、本学ホームページ上で公開されている。また、授業概要は、別途、冊子としても学生・教員等に配付されている。

(2) 学生の履修態度、学業への意欲等について、学科長等はどのように把握し受け止めているか記述して下さい。

#### 生活科学科

生活科学科の学生による履修態度は、おおむね良好である。新入生として入学した際のオリエンテーションにおいて、教員が出席に関しては厳格に扱うことを明言していることもあり、出席は良好である。しかしながら、ごく少数ではあるが4月の授業開始時から欠席がちな学生も存在し、これらの学生は結局のところ、一年の終りに取得単位数が足りずに進級できないか、あるいは、退学することになる。履修態度に関しては、多くの学生は講義中は問題はないが、少数の学生であるが私語の目立つものもいる。一方、実験や演習のように共同作業が伴い、授業中に仲間同士で話し合うことが奨励される科目では、助け合いながら授業が進んでいる。モノづくりクラス(インテリア、染色、キルト等)では、成果が実感でき、学生の満足度は高くなっている。

#### 文科

文科の学生の履修態度はおおむね良好である。文科では、平成19年度から学習カルテを作成し、個人面接などを通して個々の学生の履修状況を把握し、学生の学習相談に乗っており、こうした取り組みの結果、真面目に学習に取り組む学生が以前よりは増えてきたことを実感している。履修態度が良くなってきている理由として、一つには経済的な理由で短期大学に進学し、就職を目指す学生が増えてきたことがある。特に平成20年暮れからの厳しい経済状況は、学生の危機感を高め、勉学への意欲を強くしている。また、同じ共立女子大学への編入学希望の学生には推薦制度があり、推薦の基準は1年次の成績によるため、編入学希望の学生の履修態度は真面目である。コース制にしてそれぞれの学習目的を明確にしたことも履修態度の改善につながっていると思われる。ただ、学習意欲を持続出来ずに長期欠席をしてしまう学生や、単位を取るだけの意欲不足の学生も、一定数は必ずいる。その事情は様々であるが、そういった学生を出さないためにも個々の学生の生活相談や学習相談を丁寧に行う必要があると考えている。

#### 看護学科

看護学科の学生には、最終的に国家試験受験という目標があることから、学生はおおむね真面目に授業に出席し、積極的に取り組んでいると受け止めている。また、教員の指導を受けて1年次より国家試験対策委員が中心となって、自己学習のためのプリント作成や学内・学外模擬テストの計画などを積極的に行っていることから国家試験に対する意識は高い。しかし、入学の動機が曖昧で、学業に向かう意欲や関心が低い学生もあり、教員が学生と面接指導を行い単位修得ができるよう支援している。3年次は長期間の臨地実習、国家試験受験、4年制大学への編入学試験、就職試験などの目標を明確に

持って学生自らが勉学に臨んでいる。その一方で、学年を問わず積年からの精神的な問題を抱え、自律した学習に取り組むことができない学生もあり、欠席・遅刻する者が増加している。そのような学生への対応として、担任や教務委員が学校医、相談室、保健室、保護者等と密に連携を取り、繰り返し支援しているが、問題解決にはかなり困難な学生もいる。

#### 【教育改善への努力について】

(1) 学生による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。行っていない場合にはその事由等を記述して下さい。

現在、学生による授業評価は、全学共通教養教育科目と専門教育科目で異なった形式となっている。なお、全学共通教養教育科目は平成 19 年度から、専門教育科目は平成 14 年度から実施している。

教養教育科目は、全科目についてその終了時に kyonet（共立女子大学・短期大学教育ネットワークシステム。詳細は「V 学生支援」【学習支援について】(4) にて記載）を利用して回答する形式で行われている。設問は、学生自身の受講態度に関する項目と授業に関する項目で構成されている。集計処理は、全学共通教育科目授業アンケート実施委員会で行い、全体結果と科目結果が担当教員に返却される。教員は「履修学生に向けた所感」を作成し委員会に提出するが、この「所感」は kyonet 上に一定期間開示される。これと同時に、教員から「授業アンケートに対する意見・要望」が聴取され、授業評価アンケート改善の資料となっている。

専門教育科目は、担当している講義科目、演習科目、実験・実習科目からそれぞれ 1 科目以上について、その終了時に配付されるアンケート用紙に記入する形式で行われている。設問は授業形態毎に作成されており、学生自身の受講態度に関する項目と授業に関する項目で構成されている。集計処理は、短期大学 FD 委員会で行い、学科別授業形態毎の結果は短期大学教授会で報告され、科目結果、アンケート原票が担当教員に返却される。平成 20 年度から、教員は具体的な改善努力、方策とその成果について報告書を作成し、委員会に提出することとなった。

(2) 短期大学全体の授業改善（ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動等）への組織的な取り組み状況について記述して下さい。また短期大学の責任者（以下「学長」という）は授業改善の現状について、どのように受け止めているかを記述して下さい。

従来、授業改善は教員の個人的レベルでの取り組みとして行われてきた。平成 14 年に短期大学 FD 委員会が、平成 20 年に大学・短期大学 FD 委員会が設置され、短期大学 FD 委員会は、授業に対する学生の率直な意見を聞き、授業の工夫、改善に役立てることを目的とし、学生による授業評価アンケートを実施することとなり、その結果を教員に返却してきた。しかし、具体的な授業の工夫、改善はこれまで通り教員個人の努力に帰された。平成 19 年度、それまで学科独自に編成されていた一般教育科目が全学共通教養教育科目として独立したことから、同年に全学共通教育科目授業アンケート実施委員会が設置され、授業改善の取り組みとして、授業アンケートが実施され、その結果に基づ

く「所感」が提出されることとなった。これを受けて、専門教育科目についても、平成20年度より授業評価アンケートの結果に基づく「報告書」が提出されることとなったが、ここでは、具体的な改善努力、方策とその成果を内容としており、授業改善の取り組みがより強く方向付けられたものとなっている。

文科では、教員相互の授業参観を実際に行った例がある。複数の学生から特定の授業に対する苦情や不満が報告された場合、複数の専任教員が当該科目を視察し、視察の結果と担当教員への助言を報告書としてまとめ、学科長に提出する。また、会議で改善策を検討し意見交換するなど、授業改善に向けて、担当教員だけでなく全教員が協力する体制を作っている。その他、文科の全学生に対して担任教員および助手が面談を行い、履修中の全ての授業についての不安、不満、希望などを詳細に聞き取り調査し、報告書にまとめ、担当教員が授業改善の参考にできるようにしている。成績評価基準の標準化についても、「基礎ゼミナール」など、文科の一部の授業では、科目担当者が集まって意見交換した上で、既に標準化を実現している。その他、文科英語・英米文学コースについては、プレースメントテストの結果に応じてレベル別のクラスを編成しているが、7月と12月に行うTOEIC IP試験の結果や授業での様子を見て、現在のクラスのレベルが合わないと思われる学生について担任教員が面談を行い、本人の希望によってはクラスを変更するなど、年間を通して一人ひとりの学生に対する細やかな対応を心がけている。

学長としては、授業改善の組織的取り組みは、まだ緒についたばかりであると認識しているが、これまでの個々の教員による取り組みが「所感」や「報告書」により共有化されることを期待している。特に、短期大学FD委員会に提出される「報告書」については、具体的な改善努力、方策とその成果が示されることから、先駆的な授業を取り上げたセミナーや教員相互の授業参観などに繋げていきたいと考えている。

(3) 担当授業について教員間の意思の疎通や協力体制、または兼任教員との意思の疎通について、学科長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

#### 生活科学科

生活科学科では、窓口となっている専任教員が非常勤講師に対応することになっていて、毎週のごとく両者は、専任教員の研究室でコミュニケーションをとっている。従って、授業内容に疑問や質問がある場合、互いに遠慮なく話し合いをしているので、両者の意思の疎通は良好である。

特に生活科学科が奨励している資格に係わるフードスペシャリストやインテリアプランナー関連授業の場合、専任教員と非常勤教員との間のミーティングは慎重に行っている。学年のはじめの打ち合わせ会で、各教員の担当教育内容の確認と、学年末の反省会では、資格取得の成果の検討を含めるレヴューを行っている。この打ち合わせと反省会は、オムニバスで行っている教科に関しても概ね同様である。

#### 文科

担当授業についての教員間の意思の疎通や協力は、各コースでの教員による専任者会議において適宜行われている。文科の現状ではそれぞれの専門分野の教員の数が少ない

ので、月に複数回は行われるそれぞれのコースでの専任者会議で充分であると考えている。同一科目で複数の専任教員が担当する授業である「基礎ゼミナール」の場合は、次年度のシラバス作成の際に担当者が集まって打ち合わせを行っている。兼任教員との意思の疎通については、同一科目で複数の兼任教員が担当している場合は、シラバス作成の際にその科目の評価方法や授業方法などについて打ち合わせを行っている（例えば「文章表現」）。それ以外での兼任教員との授業方針等の意思の疎通については、各コースの専任教員であるカリキュラム担当者が必要に応じて連絡をしている。以上であるが、特に兼任教員全員と専任教員とが一堂に会して意思疎通を図るという場を設けてはいない。文科としてそのような場を設ける必要性は感じている。

#### 看護学科

看護学科では、授業に関する教員間の意思の疎通や協力は重要である。特に専門領域においては実践科目として、演習および実習は複数の教員が関わるので、シラバス作成や演習計画及び実習計画の際に担当教員が頻繁に打ち合わせを行っている。また、専門基礎科目や専門科目の兼任教員の授業に関しても、各専門領域の担当者や教務委員が授業内容や進度、さらに授業態度などについて、情報交換を行って調整をしている。殊に実習は複数の施設を使用するので、開始前には指導体制や実習方法などの詳細な打ち合わせを実施し、高い成果が得られるようにしている。また、担当授業に関する議題が委員会や担任および個人から学科長に提出されると、学科長は必要に応じて臨時会議（教授会、全体会議、委員会）を招集し意思の疎通を図っている。

#### 【特記事項について】

(1) この《 教育の内容 》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、他の教育機関との単位互換制度、習熟度別授業、情報・メディア教育、国際理解教育、海外研修制度、インターンシップ、女子教育の伝統継承と発展への取り組み等、学科等において努力していることがあれば記述して下さい。

各学科共通の取り組みとしては、単位互換制度がある。単位互換制度は東京都私立短期大学協会に属する22の短期大学間で単位互換が出来る制度を作っており、本学もその制度に参加している。この制度の利用実績は、平成18年度が本学への受け入れ1名、他の短期大学での履修者0名、平成19年度が受け入れ、他の短期大学での履修者とも0名、平成20年度が受け入れ1名、他の短期大学での履修者2名となっている。

習熟度別授業については、共通の教養教育において、1年次必修の「英語」が、大学・短期大学全学で行われる英語のプレイスメントテストの結果を受け、その点数によって習熟度別に学部学科の区別無くクラス分けされることになっている。また情報・メディア教育についても、共通の教養教育の「情報リテラシー」「情報の管理と活用」の科目で対応している。海外研修制度は、本学主催による短期海外研修制度（3週間）がある。

その他の各学科での取り組みは以下の通りである。

## 生活科学科

情報・メディア教育では、CAD、CG、DTP、Web デザイン等の教科を用意してある。インターンシップとしては、春休みを利用して、企業や自治体で研修している。女子教育の伝統継承と発展では、日本の伝統芸術のものづくりとして、アパレル・ファッション、生活デザイン、染色工芸、手芸等の教育の充実を図っている。

## 文科

習熟度別授業については、文科の専門科目である英語・英米文学コースの基礎スキルを学ぶ科目が共通教育の英語のプレースメントテストの結果を参考にして、習熟度別のクラス分けを行っている。情報・メディア教育についても、文科共通の「資格・サポート科目」の中の「ワープロとインターネット」「ビジネス情報処理」の科目において対応している。

## 看護学科

海外研修制度では、モナッシュ大学研修（オーストラリア）があり、本学が認定した海外語学研修のプログラムを修了し、かつ渡航前に単位付与の条件として決められた科目について、単位認定を希望した学生は帰国後に所定の手続きを行うことによって、認定を受けている。平成 19 年度は 4 名の学生が参加した。情報・メディア教育では、専門基礎科目に「医療と情報」を配当し、情報処理演習室に現在実習病院に導入されている医療情報システム「オーダリングシステム」と同じものを導入し演習を行っている。国際理解に関する教育では、特別講義を次のように実施した。平成 17 年度に、モナッシュ大学（オーストラリア）から講師を招聘し、「オーストラリアにおける緩和ケアの実際」について、平成 18 年度はハワイ大学（アメリカ）から講師を招き「精神疾患患者の医療従事者への暴力防御体策」について、平成 20 年度は聖母女子大学から講師を招き「アフリカにおけるエイズ対策の実際と課題」について実施した。学生は毎年 1 学年から 3 学年まで 9 割以上が出席している。学生のレポートからは国際理解を深める良い機会となったことがうかがえた。

(2) 特別の事由や事情があり、この《 教育の内容》の評価項目や評価の観点を求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

### 【添付資料】

- ・ 学生便覧等、学習等について学生に配付している印刷物等  
添付資料 3（履修ガイド）を参照
- ・ シラバスあるいは講義要項  
7 授業概要

## 教育の実施体制

### 【教員組織について】

(1) 現在の専任教員数を下表を例にして作成して下さい。

下表の通り、設置基準の定める専任教員数を上回る教員組織となっている。

#### 専任教員等の人数

(平成21年5月1日現在)

学科等名	専任教員数					設置基準で定める教員数		助手	〔八〕	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	〔イ〕	〔ロ〕			
生活科学科	9	2	1	0	12	7(3)	-	11	0	適用分野：家政関係
文科	7	4	2	0	13	7(3)	-	6	0	適用分野：文学関係
看護学科	4	5	7	0	16	10(3)	-	7	0	適用分野：保健衛生学関係（看護学関係）
(小計)	20	11	10	0	41	24(9)	-	24	0	
〔ロ〕	-	-	-	-	-	-	6(2)	-	0	
(合計)	20	11	10	0	41	24(9)	6(2)	24	0	

( )内は、教授数。

(2) 短期大学の教員にふさわしい資格と資質の有無については、訪問調査の際に、教員の個人調書（履歴書、研究業績書、担当授業科目名、その他）を提示していただきます。したがって個人調書をこの報告書に添付する必要はありません。

訪問調査時に、教員個人調書を提示。

(3) 教員の採用、昇任が適切に行われている状況を記述して下さい。その際、選考基準等を示した規程等があれば訪問調査の際にご準備をお願いいたします。

教員の採用については、欠員が生じた場合、各学科で採用案の計画が作られ、学園全体の採用計画との調整を図った上で、採用計画が実施に移される。手続きとしては、採用する学科の選考委員会によって、選考規程の基準に則り候補者が絞られ、候補者の決定後、学科の正教授会（教授のみによる教授会）による審議と承認を経て、短期大学の正教授会に諮り承認を受ける。その後学長、理事との面接を経て、理事会の承認を受けて候補者の採用決定となる。

昇任については、各学科において候補者が推薦され、各学科での昇任人事に関する委員会において、昇任の基準に則り承認を受ける。つづいて、各学科の正教授会、短期大学の正教授会の承認を受けた後、理事会の承認を受けて昇任が決定する。本学での採用と昇任は全てこの手続に従って行われている。

(4) 教員の年齢構成について下表を例に現状を記載して下さい。

専任教員等の年齢構成表（短期大学全体で作成）

（平成 21 年 5 月 1 日現在）

区分	年齢ごとの専任教員数（助教以上）						平均年齢	助手等の平均年齢	備考
	70以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29以下			
合計人数 (41人)	1	15	10	10	5	0	54.2	26.3	
割合	2.4%	36.6%	24.4%	24.4%	12.2%	0.0%			

(5) 専任教員は、(a) 授業、(b) 研究、(c) 学生指導、(d) その他教育研究上の業務に対して意欲的に取り組んでいるか。また上記 4 つの分野の業務取り組み状況にはどのような傾向があるかを学長等が記述して下さい。その際、過去 3 ヶ年（平成 18 年度～20 年度）程度の教員の担当コマ数（担当コマ基準、平均担当コマ数等を含む）、教員の研究業績、教員が参画する学生指導の業務、教員が参画するその他の教育研究上の業務概要を示して下さい。

(a) 授業について

専任教員の授業について、平成 18 年度から 20 年度にかけての専任教員 1 人当たりの年間担当授業時間数の推移をまとめると下表の通りとなる。担当授業時間数については、年間 24 時間を基準として運用しているところであるが、全体的に漸減傾向にある。これは、文科においては、平成 19 年度から 20 年度にかけて、健康上の理由で休職や減コマ措置を講じた教員がいたこと、また、看護学科においては、臨地実習について、看護職の派遣職員を雇用して対応したことなどが事由として考えられる。なお、看護学科については、臨地実習の巡回指導など、見かけの授業時間数以上に教育負担を伴うものがあり、実体把握が課題となっている。また、授業アンケート調査や授業改善への取り組み等の FD 活動の推進によって、教員の授業へ取り組む姿勢もより真剣なものになりつつあると認識している。

専任教員 1 人当たりの年間担当授業時間数（平成 18 年度～20 年度）

（単位：時間）

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
生活科学科	26.4	26.6	26.0
文科	22.1	21.0	19.1
看護学科	27.6	24.4	19.9
短期大学全体	25.2	24.0	21.4

(b) 研究について

研究については、専門領域の違いによってその取り組み方や成果は異なる。生活科学科では津田淑江教授が平成 20 年度の日本調理学会賞を受賞し、また、山口庸子准教授が研究代表者である研究プロジェクトは日本学術振興会の科学研究費補助金を取得している。田中直義教授は中国西南地域や東南アジアにおける発酵食品の実地調査研究を続けており、また文科の岡部隆志教授も中国西南地域の少数民族文化調査を続けている。看護学科でも看護の専門分野における幾つかの研究が行われている。以上のようにその研究は多岐にわたるが、教員はそれぞれ意欲的に取り組んでいる。

(c) 学生指導について

専任教員の学生指導について、平成 18 年度から 20 年度にかけてのクラス担任(専任教員が務めている)の配置状況をまとめると下表の通りとなり、学生数 33~34 人につき、クラス担任 1 人が配置され、履修上や学生生活上の指導に当たっている。また、指導にあたっては、学生との面談を積極的に行うなど各学科においてそれぞれ工夫しながらよく努力している。

クラス担任の配置状況(平成 18 年度~20 年度)

(単位:人)

学科	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
	担任数	学生数	担任1人あたり学生数	担任数	学生数	担任1人あたり学生数	担任数	学生数	担任1人あたり学生数
生活科学科	11	371	34	10	372	37	11	389	35
文科	16	486	30	16	464	29	17	441	26
看護学科	7	282	40	6	290	48	6	277	46
短大全体	34	1,139	34	32	1,126	35	34	1,107	33

(d) その他教育研究上の業務について

その他教育研究上の業務については、FD 委員を中心に授業改善への研究に取り組んでいる。また、看護学科では「新設看護学科に入学した学生の職業意識の変化」というテーマでの共同研究を続けている。

(上記 4 分野の取り組み状況)

以上のように、本学の専任教員は、おおむね授業、研究、学生指導、その他教育研究上について意欲的に取り組んでいるが、しかし、教育や学生指導にたくさんの時間を割かざるを得ないという事情もあり、研究の方での業績が必ずしも多くない教員も存在する。研究意欲を実際の研究業績につなげて行くような体制作りも今後の検討課題である。



(6) 助手、副手、補助職員、技術職員等を十分に、あるいは可能な限り配置しているか、また助手等が教育研究活動等において適切に機能しているかを学長等が現状を記述して下さい。

本学では助手制度があり、各学科とも助手をおいている。助手の業務は、教員の教育業務の補佐、学生の学習及び生活支援等である。任期制であり最長5年まで勤めることができる。各学科の助手の人数は、平成20年度において生活科学科は13名(1名は非常勤助手)、文科は6名、看護学科は6名(4名は非常勤助手)である。各学科の助手の数が違うのは、それぞれの学科の専門領域の違いによる。生活科学科は実験や実習の授業が多くその分助手の果たす役割も多くなり、相当数の人数が必要となる。看護学科も授業補助の他に臨地実習指導があり、相当数の助手が必要となる。実習系の授業の少ない文科では他学科ほどの助手の数を必要としない。

生活科学科、文科において助手は適切に配置され機能しているが、看護学科の助手は看護師の資格を持つ専門職であり、近年退職が続いたり、募集に対する応募が不調な状況もあり、安定的な確保が課題となっている。

(7) 2以上の校地(校地が隣接していないものの極めて近接しており、学生に対する日常的な学習相談、進路指導、厚生補導等が支障なく行うことができる体制にある場合など例外的な場合以外)において教育研究を行う場合においては、それぞれの校地の専任教員の配置状況について記述してください。

本学は、併設の共立女子大学とともに神田一ツ橋キャンパスと八王子キャンパスの2キャンパスを有している。短期大学は、専ら神田一ツ橋キャンパスにおいて教育研究を行っている。八王子キャンパスにおいては、運動場、図書館、体育館を学習や課外活動で利用することができることとなっている。2キャンパス利用となる際は、八王子キャンパスにおけるスクールバスの運行等、学生・教職員の移動に支障の無いように配慮している。

#### 【教育環境について】

(1) 校舎・校地一覧表を下の表を例に作成して下さい。校舎について、まず短期大学設置基準第31条の規定による短期大学全体の基準面積(基準面積を算出する計算式を含む)を示して下さい。また校舎を法人が設置する他の学校等と共用している場合は、他の学校の校舎の基準面積を記載して下さい。さらに校舎の配置図、用途(室名)、専用・共用の別を示した各階の図面を準備しておいて下さい。なお主要校舎については訪問調査の際にご案内いただきます。

次頁へ

校地・校舎一覧表

(平成21年5月1日現在)

区分	収容定員	校地			校舎				
		基準面積	現有面積	差異	基準面積	現有面積			差異
						専用	共用	計	
共立女子短期大学	980名	9,800㎡	203,252㎡	154,452㎡	7,450㎡	4,150㎡	42,753㎡	77,230㎡	46,519㎡
共立女子大学	3,900名	39,000㎡			23,261㎡	30,327㎡			
計	4,880名	48,800㎡	203,252㎡	154,452㎡	30,711㎡	34,477㎡	42,753㎡	77,230㎡	46,519㎡

基準校地面積（短期大学設置基準第30条及び大学設置基準第37条より）

収容定員上の学生1人当たり10平方メートルとして算出した面積 48,800㎡

基準校舎面積（短期大学設置基準第31条及び大学設置基準第37条の2より）

学校名	学科・学部名	学科・学部の種類	収容定員	基準校舎面積	加算校舎面積	合計面積
共立女子短期大学	生活科学科	家政関係	340名	3,100㎡	-	7,450㎡
	文科	文学関係	340名	-	2,300㎡	
	看護学科	保健衛生学関係	300名	-	2,050㎡	
共立女子大学	家政学部	家政関係	1,120名	7,776㎡	-	23,261㎡
		美術関係	180名	1,612㎡	-	
		教育学・保育学関係	200名	970㎡	-	
	文芸学部	文学関係	700名	-	2,893㎡	
		美術関係	700名	-	5,537㎡	
	国際学部	文学関係	334名	-	1,491㎡	
		法学関係	334名	-	1,491㎡	
		経済学関係	334名	-	1,491㎡	

(2) 校地・校舎について、他の学校等との共用部分がある場合は、教育研究上の支障が生じないように、どのような処置をとっているかについても記述してください。

神田一ツ橋キャンパスには、本学のほか共立女子大学・共立女子中学高等学校の学生・生徒あわせて約7,500名が学んでいる。短期大学では、本館・2号館・3号館・4号館（図書館棟）・講堂・グラウンドを使用しており、各講義室・図書館・講堂などを大学と共用している。

各学科の配置について、生活科学科は本館5階・6階、文科は本館15階、看護学科は3号館1階から3階までにそれぞれの演習室・実験実習室・教員研究室などの各機能を集約することにより、教育研究上の支障が生じない形で大学と共用している。また、生活科学科・文科のある本館では、講義室を地下1階から4階を中心とした低層階に、情報処理演習室を12階・13階に集約して配置することにより、学生の移動が軽減するよう配慮した。看護学科のある3号館は、前述の専用施設のほか講義室・情報処理演習

室・図書室・食堂などを具備しており、学生が他の建物へ移動するための時間的負担が軽減され、教育研究活動に集中できる環境となっている。

なお、講義室として収容人数 200 人以上を 4 室、100～200 人を 9 室、100 人以下を 58 室用意しており、教科やその授業内容に合わせた講義が可能となっている。

本学ではこれまで神田一ツ橋キャンパス再構築計画を実施し、本館の建設、神田一ツ橋キャンパス集中化計画に連動した既存校舎の改修を行い、教育研究環境の向上に努めてきた。当該再構築計画はひとまず終了しているが、今後、教育研究環境の維持向上に向けて、新たな施設設備の維持保全計画を策定していく。

(3) 教育研究に使用する情報機器を設置するパソコン室、マルチメディア室、学内 LAN、LL 教室及び学生自習室の整備状況(機種、台数等を含む)について記述して下さい。またその使用状況(使用頻度等)についても記述して下さい。なお、2 以上の校地において教育研究を行う場合においては、校地ごとに記述してください。

情報処理演習室は総数で 14 室あり、そのうち CALL 演習室は 3 室(コンピュータの台数 120 台)、Macintosh 演習室は 2 室(同 76 台)、それ以外は全て Windows 演習室(同 316 台)となっている。Windows 演習室のうち 2 教室は多言語仕様になっており、留学生をはじめ国際的なコンピュータの利用環境も整えている。CALL 演習室は、語学系の授業に対応するのはもちろんのこと、各視聴覚機器が完備されておりマルチメディアに対応した演習室となっている。

情報処理演習室のほか、各建物の 1 階ロビーおよびフロアラウンジにコンピュータ 50 台、また、図書館ラウンジにもコンピュータ 7 台、貸出し用ノートパソコン 13 台を用意し、合計 582 台のコンピュータを備えている。

情報処理演習室の開室時間は、平日は 9 時から 21 時、土曜日は 9 時から 16 時 40 分までとなっている。授業での使用率は 53%(平成 20 年度実績)で、授業以外では課外講習やガイダンスなどでも利用されており、それ以外の時間帯で学生が自由に使えるようになっている。また、開室時間内は、情報センター管理スタッフが常駐し、利用に不慣れな学生の支援などにあたっている。

情報機器の配備について、神田一ツ橋キャンパスは物理的制約などもあり、情報処理演習室の増設は難しい状況である。したがって、利用環境の向上(特に混雑の緩和)には、まず使用時間帯の分散などによる運用面での改善が必要である。また、アプリケーションの統一化を進めることで、フレキシブルな運用に耐えられる情報インフラを構築する計画である。

(4) 授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム(管理の状況、整備計画等を含む)について、その概要を記述して下さい。なお、2 以上の校地において教育研究を行う場合においては、校地ごとに記述してください。なお機器・備品の整備状況については訪問調査の際に校舎等をご案内いただく際にご説明いただきます。

各講義室については、ビデオプロジェクター/TV モニター、OHC・VHS/DVD 等の視聴覚機器が整備されており、管理は教務課が行っている。今後、デジタル化の進展に伴う視聴覚資料の多様化も予想されるため、これらに対応した機器への移行が検討課

題となる。

各専門教育科目で使用する実験実習室の機器・備品は、各学科で管理し、整備計画については、各学科において計画し、予算の調整の元で整備している。機器の修繕については、管財課が対応している。

生活科学科のデザイン関連の各演習では、Macintosh による Illustrator・Photoshop・Flash など最新のデジタルデザインツール等が整備された情報処理演習室を利用している。食物学、食品学、調理学関係の実験実習では、ドラフトチャンバー・ガスクロマトグラフ・液体クロマトグラフ・分光光度計・比色計・顕微鏡・天秤などの分析機器や測定機器を整備し、教育研究活動に利用している。ただし、耐用年数を過ぎてなお使用している機器・備品等の更新の計画については今後の検討課題となる。

文科の英語関連の授業では、語学の実践的な演習に最新の CALL 演習室を利用している。また学生、教員が選書した図書を配架し、学科の運営による読書室は、リテラシー教育の一環として整備している。

看護学科では、モデル人形・ベッド・給湯設備を備えた沐浴できる洗面台・洗髪台など病院内を再現した設備や、浴室設備・畳敷きの部屋・テーブル・座卓など家庭内を再現した設備を整備している。実習に必要な用具や人体模型などの備品は物品庫や専用の倉庫に収納し、必要に応じて適宜利用できるようにしている。これらの機器・備品は平成 16 年度の学科開設時に購入したものであり、現在のところ老朽化などの問題はない。

(5) 校地、校舎の安全性、障害者への対応、運動場、体育館、学生の休息場所等について記述して下さい。訪問調査の際にご案内いただき、ご説明願います。

平成 13 年度から平成 17 年度にかけての神田一ツ橋キャンパス再構築計画、それに引き続いた神田一ツ橋キャンパス集中化計画に基づき、新校舎(本館)の建設後、2号館・3号館・4号館および講堂の耐震補強などを含む大規模改修工事が平成 19 年度までに行われた。その結果、神田一ツ橋キャンパスのすべての建物が耐震基準を充たすものとなった。

また、社会的要請でもあるバリアフリー化に係る工事については、各建物の入口へのスロープの設置・点字ブロックやサインの敷設・エレベータ内の音声案内・講義室やトイレの車椅子対応などを適宜行った。ただし、点字ブロックやサインの敷設や点字シールの貼付は本館の一部に留まっており、各号館の車椅子対応のトイレなどまだ充分ではないといえる。なお、障害を持つ学生が不自由なく各施設を利用できることが理想ではあるものの、その対応も様々なことが予想されるため、学園の財政を勘案し、中・長期修繕計画に合わせて整備していく。

2号館・3号館にはそれぞれ体育室があり、ピラティスや器械体操またはバレーボールやバスケットボールなどの体育実技の授業に利用されている。また、2号館体育室にはトレーニング室も併設しており、学生が基礎体力の向上のため利用している。神田一ツ橋キャンパスには 3,000m<sup>2</sup>、八王子キャンパスには 29,000m<sup>2</sup>のグラウンドを有しており、主に学内公認サークルなどの課外活動で使用されている。

学生の休息場所については第 4 章で詳しく述べるが、本館各階のラウンジ・6号館学生サロン・本館及び3号館学生食堂・ビオトープが整備された本館屋上・2号館中庭ウ

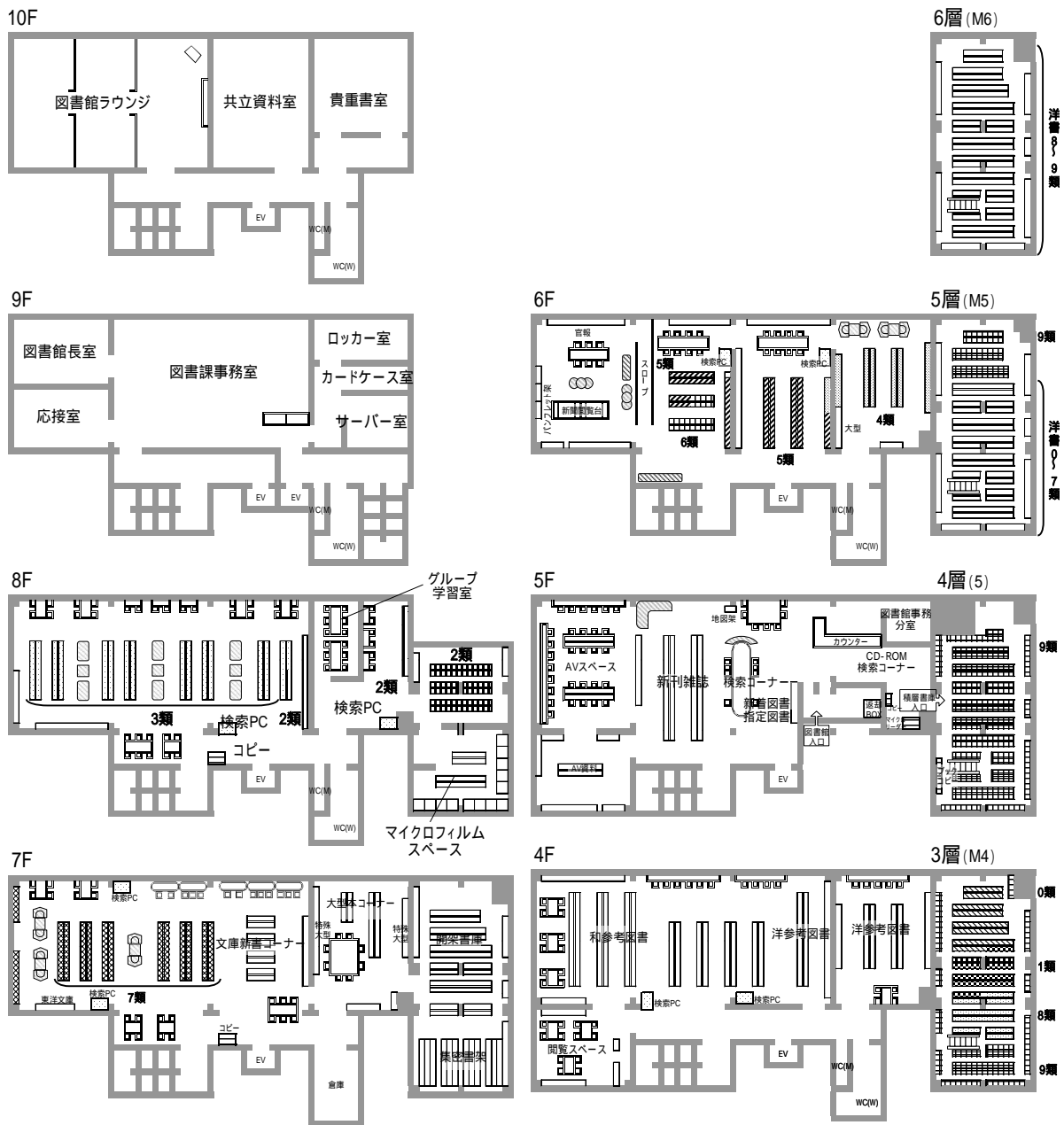
ツドデッキなどは学生同士及び学生と教員の触れあう場として活用されている。

【図書館・学習資源センター等（以下「図書館等」という。）について】

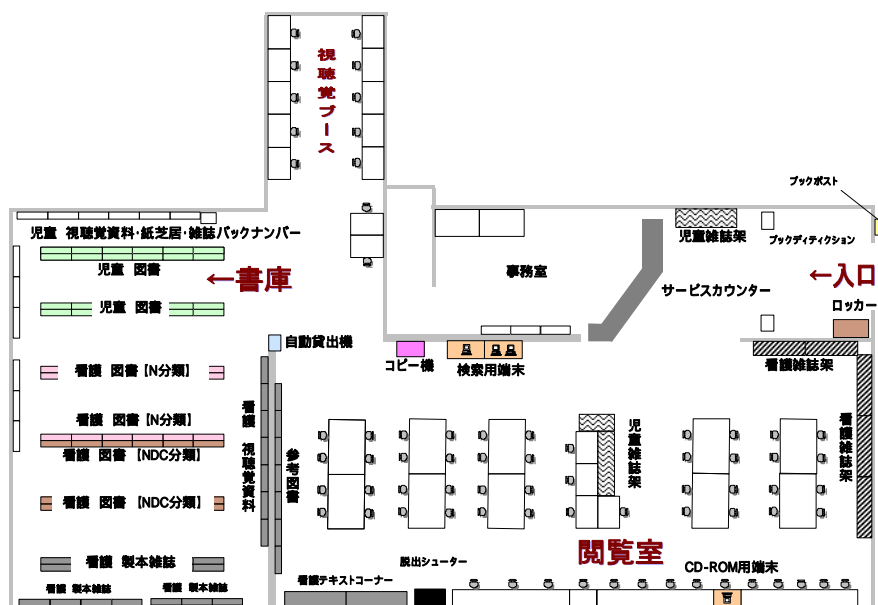
（１）図書館等の概要について、全体の配置図、座席数、年間図書館予算、購入図書等選定システム、図書等廃棄システム、司書数、情報化の進捗状況等を含めて記述して下さい。なお図書館等には訪問調査の際にご案内いただきます。

全体の配置図

中央図書館（４号館４階～１０階）



### 中央図書館分室（3号館6階）



中央図書館は平成 16 年 4 月に 4 号館から本館 11・12F に移転し、平成 19 年 1 月より神田一ツ橋キャンパスに大学機能を集約化する際に本館より 4 号館に再度移転した。八王子図書館については、主として保存書庫として利用している。

#### 座席数等

座席数を含め、図書館の施設設備の状況は、下表の通りとなっている。

図書館の施設設備の状況

施設・設備	中央図書館 (4号館4階～10階)	中央図書館分室 (3号館6階)	八王子図書館 (保存書庫)	合計
専有床面積 (㎡)	3,270	325	3,815	7,410
書架棚総延長 (m)	7,694	509	13,023	21,226
図書収容能力 (冊)	213,725	14,150	359,397	587,272
座席数 (席)	340	85	123	548
視聴覚ブース (席)	30	12	0	42
検索用パソコン (台)	17	3	1	21
CD-ROM用PC (台)	4	1	0	5
ラウンジ用PC (台)	7	0	0	7
貸出用ノートPC (台)	13	0	0	13

#### 年間図書館予算

資料購入予算は図書館として大学と合同で編成し、下表の通りここ 3 年間は比較的安定的な予算となっている。学生 1 人あたりの資料費予算は、17,478 円 (収容定員で計算) となっている。当面は、現状を確保していく予定である。

## 年間資料費予算の推移

(単位：円)

予算項目	平成19年度	平成20年度	平成21年度
図書資料費	69,629,000	70,229,000	70,229,000
福原麟太郎基金図書	24,940,000	24,940,000	12,634,400
資料費合計	94,569,000	95,169,000	82,863,400
学生1人当り資料費	19,375	19,802	17,478

### 購入図書選定システム

利用者である学生・教職員の要求を基本とし、教育研究に資する学術的資料を収集することを選定方針としている。図書の選定は、各学科の専任教員から選出される選書委員を通じて行っている。具体的には、選書委員を通じて年間2回提出される学科単位の購入希望リストに基づき、図書館で収書受入する方式をとっている。また学生からのリクエストによる選書購入も実施している。

### 図書等廃棄システム

除籍については、図書館資料管理規程第17条により、紛失図書、汚損・破損が甚だしく利用に耐えないもの、その他館長が除籍を適当と認めたものについては、除籍の手続きをとるが、直ちに廃棄せず、再利用可能なものは希望する教員や学生に提供したり、海外の日本語教育施設に寄贈している。雑誌等の保存年限については、受入した時点で、個別に保存年限を定めている。保存年限経過後は、同様に再利用の手続きを取り、再利用できないものについては廃棄する。

### 職員の構成

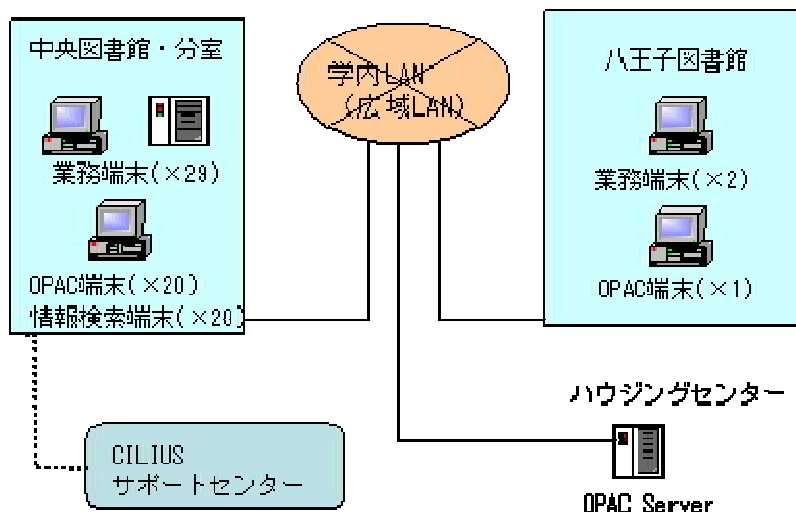
職員数は、専任職員11名(うち司書有資格者3名)、業務委託職員17名(有資格者)、派遣職員3名(有資格者)で、サービス業務に多くの人員をあてている。

### 情報化の進捗状況

図書館システムは、平成16年4月より日本事務器株式会社のNeo CILIUSを使用している。収書、目録、図書管理、予算管理、閲覧、利用者管理、ILL、マスターメンテナンス、ユーティリティ、帳票メニューといったサブシステムを有している。NACSIS-CAT NACSIS-ILLは、平成5年12月以降利用している。またWeb-OPACにより、本学図書館目録を公開している。図書館ホームページからのリンクにより、学術ポータル、国会図書館、その他データベース、電子ジャーナルが、利用可能になっている。

中央図書館には、閲覧室内検索用端末および図書館ラウンジのパソコン等、40台の利用者端末を設置し、開館中常時利用できる。平成20年12月から利用者サービスを更新し、MyLibrary機能から貸出更新、予約、ブックセルフ(検索資料・方法の保管)の利用が可能となっている。一部の機能は携帯電話からも利用可能となった。

### 図書システム構成図



(2) 図書館等に備えられている蔵書数(和書、洋書、学術雑誌数、AV 資料数等)を下表を例に作成して下さい。

現在の蔵書冊数は、大学と共用で合計約 48 万 5 千冊である。学生 1 人あたりの蔵書冊数は 99 冊である。

年間受入冊数は、約 6,100 程度である。学生の主体的な学修支援のため、各学部・学科の人材養成目的に沿った形で選書に力点を置いた蔵書構築をしている。

### 図書館等蔵書数一覧

(平成 21 年 5 月 1 日現在)

蔵書数(冊)		雑誌(種)		視聴覚資料(点)
総数	(洋書)	総数	(洋雑誌)	総数
480,997	134,539	5,542	1,010	21,614

大学と共用

(3) 図書館等には学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等は整備されているか。また学生の図書館等の利用は活発かを、図書館等の責任者(図書館長等)が現状をどのように捉えているかを記述して下さい。

#### 図書資料の整備

現在の時点でシラバスに関連する図書資料は、質・量とも十分に整備できているものと判断する。学生用の一般図書については図書館で整備しているが、図書システムを通じて学生の多様な要望に対応できるよう、利用購入のリクエストを受けている。特殊なケース以外、リクエストはすべて受入れている。また、近年は電子資料の充実に力点を置き、学内であれば図書館以外の場所からでも利用できるよう整備している。

#### 図書館の利用状況

近年、入館者数は減少傾向にあるが、貸出量は増減がなく、短期大学の貸出者数は



増加傾向にある。入館者数減少の要因としては、この数年間でキャンパス集中化、それに伴う図書館移転による学生の動線変化や、インターネットの利用による電子資料ならびに図書館システムの充実により、来館する機会が減ったことが挙げられる。学生の図書館利目的が多様化しているなかで、貸出者数が増加傾向にあるのは、学修のための利用が増え、それ以外の来館が減っているといえよう。利用者サービスについては、選書を中心とした資料の充実、リテラシー教育を中心とした利用者教育についての展開など、利用者の満足度向上を目指した効果的な図書館利用を可能とするための措置を講じていく。

図書館の利用状況（平成18年度～20年度）

項目		平成18年度	平成19年度	平成20年度
開館状況	総日数	262	272	275
	うち土曜開館日数	38	38	40
年間入館者数		147,826	106,862	99,825
館外貸出冊数	総数	40,771	42,969	43,179
	うち教職員	7,570	8,647	8,370
	うち学生	32,055	33,251	33,471
	うち学外者	1,146	1,071	1,338
短期大学生の貸出冊数		9,186	8,228	9,259
短期大学生の貸出者数		2,289	4,604	4,583
短期大学生1人あたりの平均貸出冊数		9.8	7.6	8.3

開館は、平日9:00～21:00、土曜日9:00～17:00（平成19年度までは21:00まで）

（4）図書館等からの学内外への情報発信、他の図書館等との連携等、現在の図書館活動について、図書館長等がどのように受け止めているかを記述して下さい。

#### 利用者教育

平成19年度よりリテラシー教育の一環として教養教育の「基礎ゼミナール」という授業で、コンピュータの利用を中心とした情報検索の部分を担っている。この他にも随時、利用者ガイダンスを行っている。今後も図書館資料の有効な活用を促進するために利用者教育については重点的に取り組んでいく。

#### 広報活動（学内外への情報発信）

学内新生向けにパンフレット『図書館のしおり』を作成配布している。また、学内外向けのポータルサイト（ホームページ）を作成し、資料検索用にOPACも公開している。その他に、図書館セミナー、資料展示や上映会等も適時実施している他、貴重書を含む学園資料等の取材調査・貸出依頼にも応じている。

現在、教育研究成果を社会に還元し公開するため、機関リポジトリといった形で積極的に社会へ情報発信していくために、紀要の電子化を中心にしたデータベースの公開を検討している。学内外への情報発信やPR活動は、地域や社会、学内外のステークホルダーとの良好な関係を築き、学校の社会的責任を果たす意味が大きいと認識しており、今後も広報活動を展開していく。

#### 他の図書館との連携

資料についてはNIIのILL中心に相互貸借を行っているが、主に文献複写中心に各学校および研究機関と協力して、必要な資料を相互に補完している。

また大学と共用であるため、電子ジャーナル・データベースの利用環境の拡充及びそれに伴う契約交渉の効率化や負担軽減のためPULC(大学図書館コンソーシアム)に加盟している。

#### 地域への利用開放

本学は都心の女子大学・短期大学という環境であるため、セキュリティの関係上、積極的な利用開放は行っていない。ただし、資料の利用については、公共図書館・教育研究機関の紹介状を条件として、資料閲覧・複写は開放している。施設設備や警備体制の制約上、当面は現行の対応のままで利用開放をしていく。

#### 【特記事項について】

(1) この《教育の実施体制》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば外国人教員の採用、授業の公開、学習評価活動等、努力していることがあれば記述して下さい。

文科では英語・英米文学コースに外国人の教員が2名(平成20年度まで)いた。英語教育のためにはネイティブの教員の必要性を感じているが、現在のところ英語の専任教員数は十分なため、外国人の採用計画はない。ただ、兼任教員の場合、積極的に英語のネイティブの教員の採用を心がけている。

授業の公開については、短期大学として現在特に試みてはいない。その必要性を感じており、平成21年度前期に、約一週間父母の授業見学という形で授業の公開を全学的に行う予定である。

(2) 特別の事由や事情があり、この《教育の実施体制》の評価項目や評価の観点に求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

教育目標の達成度と教育の効果

【単位認定について】

(1) 次の「単位認定の状況表」を例に、単位認定の方法と評価の実態を記載して下さい。なお、この表は平成20年度卒業生が入学時より卒業までに履修した科目について作成して下さい。

生活科学科の単位認定の状況表

(平成20年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法				単位取得状況(%)			最終の評価(%)					
				筆記試験	レポート等	平常点	その他	本試	再試等	計	A	B	C	P	D	X
教養教育 (一般教育)科目	基礎ゼミナール	演習	157					99.4%	0.0%	99.4%	73.2%	16.6%	9.6%	0.0%	0.0%	0.6%
	自己表現演習	演習	4					75.0%	0.0%	75.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%
	表現技法Ⅰ(作文・論文)	演習	21					90.5%	0.0%	90.5%	19.0%	66.7%	4.8%	0.0%	0.0%	9.5%
	表現技法Ⅱ(読解・分析)	演習	5					80.0%	0.0%	80.0%	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%
	英語	演習	5					60.0%	0.0%	60.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	40.0%
	基礎英語	演習	157					99.4%	0.0%	99.4%	46.5%	40.1%	12.7%	0.0%	0.0%	0.6%
	英語	演習	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	応用英語	演習	21					71.4%	0.0%	71.4%	33.3%	28.6%	9.5%	0.0%	9.5%	19.0%
	基礎ビジネス英語	演習	2					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	基礎フランス語(入門)	演習	10					70.0%	0.0%	70.0%	20.0%	10.0%	40.0%	0.0%	10.0%	20.0%
	基礎フランス語(表現)	演習	2					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	基礎中国語(入門)	演習	20					90.0%	0.0%	90.0%	75.0%	15.0%	0.0%	0.0%	5.0%	5.0%
	中国語	演習	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	基礎中国語(表現)	演習	9					77.8%	0.0%	77.8%	55.6%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%
	基礎ドイツ語(入門)	演習	2					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	基礎スペイン語(入門)	演習	1					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	基礎イタリア語(入門)	演習	7					71.4%	0.0%	71.4%	42.9%	14.3%	14.3%	0.0%	14.3%	14.3%
	応用イタリア語(総合)	演習	2					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	基礎コリア語(入門)	演習	18					72.2%	0.0%	72.2%	38.9%	27.8%	5.6%	0.0%	5.6%	22.2%
	コンピュータ基礎論	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	情報基礎	講義	61					93.4%	0.0%	93.4%	52.5%	27.9%	11.5%	1.6%	1.6%	4.9%
	コンピュータ基礎演習	演習	3					100.0%	0.0%	100.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	情報処理	演習	67					95.5%	0.0%	95.5%	76.1%	16.4%	1.5%	1.5%	0.0%	4.5%
	データベース演習	演習	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	情報活用法(データベース)	演習	12					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	情報活用法(ネットワーク)	演習	28					92.9%	0.0%	92.9%	85.7%	3.6%	3.6%	0.0%	3.6%	3.6%
	統計基礎	演習	4					100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	統計情報処理	演習	2					100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	体育	実習	30					86.7%	0.0%	86.7%	43.3%	26.7%	16.7%	0.0%	0.0%	13.3%
	教養講座	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	比較文化の視点	講義	18					83.3%	0.0%	83.3%	72.2%	5.6%	5.6%	0.0%	0.0%	16.7%
	メディアと文化	講義	38					89.5%	0.0%	89.5%	21.1%	57.9%	10.5%	0.0%	2.6%	7.9%
	文学の世界	講義	11					100.0%	0.0%	100.0%	54.5%	45.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	芸術の世界	講義	63					74.6%	0.0%	74.6%	36.5%	22.2%	15.9%	0.0%	3.2%	22.2%
	デザインの現在	講義	118					89.0%	0.0%	89.0%	34.7%	39.0%	15.3%	0.0%	5.1%	5.9%
	衣食住の文化	講義	29					75.9%	0.0%	75.9%	58.6%	17.2%	0.0%	0.0%	3.4%	20.7%
生活環境とアメニティ	講義	64					100.0%	0.0%	100.0%	40.6%	45.3%	14.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
健康の科学	講義	29					86.2%	0.0%	86.2%	31.0%	31.0%	20.7%	3.4%	6.9%	6.9%	
介護・ケアと生活	講義	9					77.8%	0.0%	77.8%	33.3%	22.2%	22.2%	0.0%	0.0%	22.2%	

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法				単位取得状況(%)			最終の評価(%)					
				筆記試験	レポート等	平常点	その他	本試	再試等	計	A	B	C	P	D	X
教養教育(一般教育)科目	政治・社会の諸課題	講義	5					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	経済・産業の諸課題	講義	2					100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	国際関係の諸課題	講義	7					28.6%	0.0%	28.6%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%	14.3%	57.1%
	環境・科学の諸課題	講義	36					80.6%	0.0%	80.6%	38.9%	36.1%	5.6%	0.0%	8.3%	11.1%
	生活環境論	講義	2					50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	人間とは何か	講義	6					100.0%	0.0%	100.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	人間関係と自己表現	講義	23					87.0%	0.0%	87.0%	65.2%	8.7%	13.0%	0.0%	4.3%	8.7%
	家族と社会	講義	6					50.0%	0.0%	50.0%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	現代の家族	講義	56					83.9%	1.8%	85.7%	37.5%	21.4%	26.8%	0.0%	5.4%	8.9%
	地域社会と福祉	講義	23					78.3%	0.0%	78.3%	34.8%	26.1%	13.0%	4.3%	0.0%	21.7%
	福祉社会論	講義	3					100.0%	0.0%	100.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	女性と社会	講義	22					90.9%	0.0%	90.9%	31.8%	50.0%	9.1%	0.0%	0.0%	9.1%
	マーケティング	講義	83					91.6%	0.0%	91.6%	33.7%	25.3%	32.5%	0.0%	2.4%	6.0%
	生活とマーケティング	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	ライフプランとキャリアプラン	講義	44					79.5%	0.0%	79.5%	25.0%	38.6%	15.9%	0.0%	6.8%	13.6%
	企業・組織の仕組み	講義	3					66.7%	0.0%	66.7%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
	自己開発	実習	2					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	文学	講義	11					63.6%	0.0%	63.6%	18.2%	36.4%	9.1%	0.0%	9.1%	27.3%
	哲学	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	哲学概論	講義	2					50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	倫理学	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	倫理学概論	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	言語学概論	講義	5					100.0%	0.0%	100.0%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	心理学	講義	36					97.2%	0.0%	97.2%	8.3%	41.7%	44.4%	2.8%	2.8%	0.0%
	心理学	講義	2					100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	教育学	講義	13					100.0%	0.0%	100.0%	30.8%	53.8%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	社会学	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	社会学概論	講義	3					66.7%	0.0%	66.7%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
	文化人類学	講義	50					90.0%	0.0%	90.0%	40.0%	30.0%	20.0%	0.0%	6.0%	4.0%
	民俗学	講義	14					71.4%	0.0%	71.4%	7.1%	42.9%	21.4%	0.0%	14.3%	14.3%
	人文地理学	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	自然地理学	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	地誌学概論	講義	2					100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	法学概論	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	法学(日本国憲法)	講義	2					50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	政治学概論	講義	2					50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	経済学	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	経済学概論	講義	7					100.0%	0.0%	100.0%	71.4%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%
	国際関係概論	講義	3					66.7%	0.0%	66.7%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
	国際関係論	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	世界史概論	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	日本史概論	講義	7					100.0%	0.0%	100.0%	85.7%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
地域史	講義	3					33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	
数学	講義	7					57.1%	0.0%	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	42.9%	
物理学	講義	2					100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	
化学	講義	14					78.6%	0.0%	78.6%	50.0%	14.3%	7.1%	7.1%	7.1%	14.3%	
生物学	講義	14					100.0%	0.0%	100.0%	64.3%	21.4%	7.1%	7.1%	0.0%	0.0%	
生命活動の科学	講義	2					50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	
文学I	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
哲学II	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
環境の化学	講義	3					33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%	

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法				単位取得状況(%)			最終の評価(%)					
				筆記試験	レポート等	平常点	その他	本試	再試等	計	A	B	C	P	D	X
専門 教育 科目	心の健康	講義	135					97.8%	0.0%	97.8%	68.9%	27.4%	1.5%	0.0%	0.0%	2.2%
	発達心理学	講義	29					100.0%	0.0%	100.0%	79.3%	13.8%	6.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	ウェルネス論	講義	51					86.3%	0.0%	86.3%	66.7%	17.6%	2.0%	0.0%	0.0%	13.7%
	環境と消費	講義	30					63.3%	0.0%	63.3%	33.3%	16.7%	13.3%	0.0%	10.0%	26.7%
	生活科学概論	講義	159					100.0%	0.0%	100.0%	73.6%	25.2%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	健康科学	講義	30					90.0%	0.0%	90.0%	30.0%	46.7%	13.3%	0.0%	0.0%	10.0%
	食生活論	講義	125					92.8%	0.0%	92.8%	67.2%	20.8%	4.8%	0.0%	0.8%	6.4%
	衣生活論	講義	68					91.2%	0.0%	91.2%	44.1%	32.4%	14.7%	0.0%	0.0%	8.8%
	住生活論	講義	99					98.0%	0.0%	98.0%	57.6%	30.3%	10.1%	0.0%	0.0%	2.0%
	コミュニケーション文化論	講義	24					95.8%	0.0%	95.8%	58.3%	25.0%	12.5%	0.0%	0.0%	2.2%
	社会心理学	講義	47					93.6%	0.0%	93.6%	53.2%	31.9%	8.5%	0.0%	4.3%	4.1%
	ボランティア行動論	講義	21					85.7%	0.0%	85.7%	61.9%	23.8%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%
	Webデザイン基礎演習	演習	49					93.9%	0.0%	93.9%	79.6%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	6.1%
	Webデザイン応用演習	演習	34					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	生活デザイン演習	演習	51					94.1%	0.0%	94.1%	72.5%	17.6%	3.9%	0.0%	3.9%	2.0%
	DTP演習	演習	45					100.0%	0.0%	100.0%	86.7%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	メディア社会論	講義	33					93.9%	0.0%	93.9%	21.2%	63.6%	9.1%	0.0%	0.0%	6.1%
	CG演習	演習	83					95.2%	0.0%	95.2%	77.1%	10.8%	7.2%	0.0%	0.0%	4.8%
	CAD基礎演習	演習	2					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	アニメーション論	講義	2					50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	コンピュータ応用演習	演習	2					50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	プログラミング演習	演習	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	基礎ゼミナール	演習	2					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	卒業研究・卒業制作	演習	69					94.2%	0.0%	94.2%	89.9%	1.4%	2.9%	0.0%	0.0%	5.8%
	食物学	講義	67					98.5%	0.0%	98.5%	68.7%	22.4%	7.5%	0.0%	0.0%	1.5%
	食物基礎科学	講義	78					87.2%	0.0%	87.2%	17.9%	26.9%	42.3%	0.0%	10.3%	2.6%
	食物栄養学	講義	75					86.7%	0.0%	86.7%	44.0%	28.0%	14.7%	0.0%	6.7%	6.7%
	食品保蔵学	講義	55					92.7%	0.0%	92.7%	76.4%	7.3%	9.1%	0.0%	3.6%	3.6%
	環境調理学	講義	72					84.7%	0.0%	84.7%	47.2%	22.2%	15.3%	0.0%	9.7%	5.6%
	食料経済論	講義	59					96.6%	0.0%	96.6%	37.3%	32.2%	27.1%	0.0%	3.4%	0.0%
	フードスペシャリスト論	講義	46					93.5%	0.0%	93.5%	37.0%	34.8%	21.7%	0.0%	6.5%	0.0%
	食品衛生学	講義	56					98.2%	0.0%	98.2%	48.2%	46.4%	3.6%	0.0%	1.8%	0.0%
	生活基礎演習	演習	53					94.3%	0.0%	94.3%	49.1%	17.0%	28.3%	0.0%	0.0%	5.7%
	食品学実験	実習	58					98.3%	0.0%	98.3%	77.6%	6.9%	13.8%	0.0%	0.0%	1.7%
	調理学実験	実習	57					89.5%	0.0%	89.5%	56.1%	15.8%	17.5%	0.0%	0.0%	10.5%
	調理学実習	実習	67					97.0%	0.0%	97.0%	56.7%	22.4%	17.9%	0.0%	1.5%	1.5%
	調理学実習II	実習	54					98.1%	0.0%	98.1%	68.5%	14.8%	14.8%	0.0%	0.0%	1.9%
	食品加工・保蔵演習	演習	44					97.7%	0.0%	97.7%	81.8%	13.6%	2.3%	0.0%	2.3%	0.0%
	食行動学演習	演習	60					93.3%	0.0%	93.3%	63.3%	25.0%	5.0%	0.0%	3.3%	3.3%
	嗜好評価処理演習	演習	64					95.3%	0.0%	95.3%	62.5%	25.0%	7.8%	0.0%	1.6%	3.1%
	健康コーディネート論	講義	61					96.7%	0.0%	96.7%	68.9%	24.6%	3.3%	0.0%	0.0%	3.3%
	健康コーディネート演習	演習	21					90.5%	0.0%	90.5%	76.2%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	9.5%
	ライフステージ栄養演習	演習	62					96.8%	0.0%	96.8%	67.7%	21.0%	8.1%	0.0%	0.0%	3.2%
	生活マネジメント演習	演習	70					91.4%	0.0%	91.4%	74.3%	15.7%	1.4%	0.0%	0.0%	8.6%
	ペアレンティング論	講義	78					96.2%	0.0%	96.2%	48.7%	41.0%	6.4%	0.0%	0.0%	3.8%
	ライフステージ栄養学	講義	57					82.5%	0.0%	82.5%	40.4%	38.6%	3.5%	0.0%	0.0%	17.5%
	健康栄養実習	実習	35					91.4%	0.0%	91.4%	57.1%	31.4%	2.9%	0.0%	0.0%	8.6%
	フードコーディネート論	講義	58					98.3%	0.0%	98.3%	48.3%	32.8%	17.2%	0.0%	1.7%	0.0%
	グラフィックソフト演習	演習	25					88.0%	0.0%	88.0%	76.0%	8.0%	4.0%	0.0%	0.0%	12.0%
	アート・デザイン論	講義	67					91.0%	0.0%	91.0%	50.7%	37.3%	3.0%	0.0%	0.0%	9.0%
アパレル論	講義	37					81.1%	2.7%	83.8%	51.4%	18.9%	13.5%	0.0%	5.4%	10.8%	
アパレルデザイン実習	実習	30					100.0%	0.0%	100.0%	86.7%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
染色工芸実習	実習	22					100.0%	0.0%	100.0%	81.8%	13.6%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	
手芸実習	実習	39					94.9%	0.0%	94.9%	71.8%	17.9%	5.1%	0.0%	0.0%	5.1%	
彫金実習	実習	44					95.5%	0.0%	95.5%	68.2%	22.7%	4.5%	0.0%	0.0%	4.5%	
ファッションデザイン論	講義	46					87.0%	0.0%	87.0%	43.5%	32.6%	10.9%	0.0%	0.0%	13.0%	
快適住環境論	講義	53					98.1%	0.0%	98.1%	43.4%	43.4%	11.3%	0.0%	0.0%	1.9%	
インテリア製図演習I	演習	36					94.4%	0.0%	94.4%	58.3%	16.7%	19.4%	0.0%	2.8%	2.8%	
インテリア製図演習II	演習	24					91.7%	0.0%	91.7%	41.7%	41.7%	8.3%	0.0%	0.0%	8.3%	
CAD応用演習	演習	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
デッサン(実習)	実習	38					86.8%	0.0%	86.8%	42.1%	34.2%	10.5%	0.0%	0.0%	13.2%	
総合造形実習	実習	14					92.9%	0.0%	92.9%	92.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	
カラーコーディネート演習	演習	66					93.9%	0.0%	93.9%	48.5%	34.8%	10.6%	0.0%	1.5%	4.5%	

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法				単位取得状況(%)			最終の評価(%)					
				筆記試験	レポート等	平常点	その他	本試	再試等	計	A	B	C	P	D	X
専門 教育 科目	インテリア構成論	講義	57					91.2%	1.8%	93.0%	64.9%	26.3%	1.8%	0.0%	1.8%	5.3%
	集住デザイン論	講義	28					92.9%	0.0%	92.9%	42.9%	46.4%	3.6%	0.0%	0.0%	7.1%
	インテリア設計演習	演習	48					97.9%	0.0%	97.9%	50.0%	31.3%	16.7%	0.0%	0.0%	2.1%
	インテリア製図演習II	演習	19					78.9%	0.0%	78.9%	47.4%	31.6%	0.0%	0.0%	0.0%	21.1%
	CAD入門演習	演習	82					96.3%	0.0%	96.3%	91.5%	4.9%	0.0%	0.0%	2.4%	1.2%
	インテリアCAD基礎演習	演習	56					87.5%	0.0%	87.5%	87.5%	0.0%	0.0%	0.0%	8.9%	3.6%
	インテリアCAD応用演習	演習	26					96.2%	0.0%	96.2%	57.7%	23.1%	15.4%	0.0%	0.0%	3.8%
	ゼミナール	演習	32					100.0%	0.0%	100.0%	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	生活と環境	講義	37					83.8%	2.7%	86.5%	45.9%	18.9%	21.6%	0.0%	13.5%	0.0%
	環境と情報	講義	44					97.7%	0.0%	97.7%	61.4%	25.0%	11.4%	0.0%	0.0%	2.3%
	都市と環境	講義	26					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	環境情報デザイン論	講義	33					97.0%	0.0%	97.0%	78.8%	3.0%	15.2%	0.0%	0.0%	3.0%
	環境メディア演習	演習	38					97.4%	0.0%	97.4%	63.2%	31.6%	2.6%	0.0%	0.0%	2.6%
	環境心理学	講義	27					96.3%	0.0%	96.3%	77.8%	18.5%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%
	CAD利用演習	演習	33					97.0%	0.0%	97.0%	24.2%	60.6%	12.1%	0.0%	0.0%	3.0%
	消費者の心理	講義	59					88.1%	0.0%	88.1%	37.3%	22.0%	28.8%	0.0%	8.5%	3.4%
	心理・調査解析演習	演習	28					100.0%	0.0%	100.0%	92.9%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	社会調査演習	演習	22					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	デザインの心理	講義	58					89.7%	0.0%	89.7%	74.1%	13.8%	1.7%	0.0%	0.0%	10.3%
	子ども文化論	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	地域文化I(英米事情)	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
現代女性論	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
秘書実務を学ぶI	講義	49					100.0%	0.0%	100.0%	63.3%	28.6%	8.2%	0.0%	0.0%	0.0%	
秘書実務を学ぶII	講義	30					93.3%	0.0%	93.3%	53.3%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	

文科の単位認定の状況表

(平成20年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法				単位取得状況(%)			最終の評価(%)					
				筆記試験	レポート等	平常点	その他	本試	再試等	計	A	B	C	P	D	X
教養 教育 (一般 教育) 科目	(互換科目)美学概論	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	基礎ゼミナール	演習	191					100.0%	0.0%	100.0%	71.2%	25.7%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	表現技法I(作文・論文)	演習	14					92.9%	0.0%	92.9%	42.9%	35.7%	14.3%	0.0%	0.0%	7.1%
	表現技法II(読解・分析)	演習	3					100.0%	0.0%	100.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	表現技法(企画立案・発表討論)	演習	7					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	基礎英語	演習	100					96.0%	0.0%	96.0%	48.0%	43.0%	5.0%	0.0%	0.0%	4.0%
	応用英語	演習	17					88.2%	0.0%	88.2%	17.6%	52.9%	17.6%	0.0%	11.8%	0.0%
	基礎ビジネス英語	演習	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	基礎フランス語(入門)	演習	42					90.5%	0.0%	90.5%	42.9%	26.2%	21.4%	0.0%	4.8%	4.8%
	基礎フランス語(表現)	演習	10					90.0%	9.1%	99.1%	70.0%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%	10.0%
	応用フランス語(総合)	演習	3					100.0%	0.0%	100.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	基礎中国語(入門)	演習	66					92.4%	0.0%	92.4%	43.9%	31.8%	16.7%	0.0%	4.5%	3.0%
	基礎中国語(表現)	演習	14					78.6%	0.0%	78.6%	50.0%	7.1%	21.4%	0.0%	7.1%	14.3%
	応用中国語(総合)	演習	6					16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	83.3%
	基礎ドイツ語(入門)	演習	4					100.0%	0.0%	100.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	基礎ドイツ語(表現)	演習	1					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	基礎スペイン語(入門)	演習	20					95.0%	0.0%	95.0%	20.0%	35.0%	40.0%	0.0%	0.0%	5.0%
	応用スペイン語(総合)	演習	4					50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%
	基礎イタリア語(入門)	演習	19					73.7%	0.0%	73.7%	21.1%	21.1%	31.6%	0.0%	15.8%	10.5%
	応用イタリア語(総合)	演習	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	基礎ロシア語(入門)	演習	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	基礎韓国語(入門)	演習	26					100.0%	0.0%	100.0%	42.3%	46.2%	11.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	応用韓国語(総合)	演習	4					75.0%	0.0%	75.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%
	情報基礎	講義	43					95.3%	0.0%	95.3%	37.2%	41.9%	16.3%	0.0%	0.0%	4.7%
	情報処理	演習	80					93.8%	0.0%	93.8%	72.5%	18.8%	2.5%	0.0%	1.3%	5.0%
	情報活用法(データベース)	演習	24					95.8%	0.0%	95.8%	75.0%	16.7%	4.2%	0.0%	0.0%	4.2%
	情報活用法(ネットワーク)	演習	18					94.4%	0.0%	94.4%	72.2%	16.7%	5.6%	0.0%	0.0%	5.6%

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法				単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)					
				筆記試験	レポート等	平常点	その他	本試	再試等	計	A	B	C	P	D	X
教養教育 (一般教育) 科目	統計基礎	演習	5					100.0%	0.0%	100.0%	80.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	統計情報処理	演習	6					100.0%	0.0%	100.0%	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	体育	実習	42					92.9%	0.0%	92.9%	54.8%	26.2%	9.5%	2.4%	0.0%	7.1%
	教養講座	講義	3					66.7%	0.0%	66.7%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
	比較文化の視点	講義	47					93.6%	0.0%	93.6%	68.1%	23.4%	2.1%	0.0%	0.0%	6.4%
	メディアと文化	講義	79					87.3%	0.0%	87.3%	27.8%	39.2%	20.3%	0.0%	2.5%	10.1%
	文学の世界	講義	44					86.4%	0.0%	86.4%	47.7%	36.4%	2.3%	0.0%	0.0%	13.6%
	芸術の世界	講義	94					87.2%	0.0%	87.2%	51.1%	22.3%	13.8%	0.0%	1.1%	11.7%
	デザインの現在	講義	30					80.0%	0.0%	80.0%	30.0%	30.0%	20.0%	0.0%	6.7%	13.3%
	衣食住の文化	講義	40					87.5%	0.0%	87.5%	50.0%	30.0%	7.5%	0.0%	5.0%	7.5%
	生活環境とアメニティ	講義	18					83.3%	5.6%	88.9%	38.9%	33.3%	11.1%	0.0%	5.6%	11.1%
	健康の科学	講義	61					95.1%	0.0%	95.1%	41.0%	26.2%	27.9%	0.0%	4.9%	0.0%
	介護・ケアと生活	講義	44					84.1%	0.0%	84.1%	52.3%	18.2%	13.6%	0.0%	4.5%	11.4%
	政治・社会の諸課題	講義	18					50.0%	0.0%	50.0%	22.2%	16.7%	11.1%	0.0%	27.8%	22.2%
	経済・産業の諸課題	講義	10					80.0%	0.0%	80.0%	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%
	国際関係の諸課題	講義	24					70.8%	0.0%	70.8%	16.7%	25.0%	29.2%	0.0%	0.0%	29.2%
	環境・科学の諸課題	講義	20					85.0%	0.0%	85.0%	40.0%	40.0%	5.0%	0.0%	5.0%	10.0%
	人間とは何か	講義	62					85.5%	0.0%	85.5%	33.9%	32.3%	19.4%	0.0%	3.2%	11.3%
	人間関係と自己表現	講義	85					88.2%	0.0%	88.2%	56.5%	9.4%	22.4%	0.0%	5.9%	5.9%
	現代の家族	講義	34					82.4%	0.0%	82.4%	55.9%	17.6%	8.8%	0.0%	2.9%	14.7%
	地域社会と福祉	講義	14					100.0%	0.0%	100.0%	35.7%	64.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	女性と社会	講義	58					82.8%	0.0%	82.8%	43.1%	34.5%	5.2%	0.0%	1.7%	15.5%
	マーケティング	講義	78					93.6%	0.0%	93.6%	51.3%	29.5%	12.8%	0.0%	0.0%	6.4%
	ライフプランとキャリアプラン	講義	65					84.6%	0.0%	84.6%	24.6%	40.0%	20.0%	0.0%	3.1%	12.3%
	企業・組織の仕組み	講義	54					94.4%	0.0%	94.4%	44.4%	44.4%	5.6%	0.0%	1.9%	3.7%
	自己開発	実習	12					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	文学	講義	60					80.0%	0.0%	80.0%	36.7%	36.7%	6.7%	0.0%	1.7%	18.3%
	哲学概論	講義	12					75.0%	0.0%	75.0%	41.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	25.0%
	倫理学概論	講義	8					87.5%	0.0%	87.5%	37.5%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	12.5%
	言語学概論	講義	11					81.8%	0.0%	81.8%	18.2%	27.3%	36.4%	0.0%	0.0%	18.2%
	心理学	講義	91					89.0%	0.0%	89.0%	39.6%	27.5%	22.0%	0.0%	3.3%	7.7%
	教育学	講義	27					96.3%	0.0%	96.3%	55.6%	33.3%	7.4%	0.0%	3.7%	0.0%
	社会学概論	講義	13					92.3%	0.0%	92.3%	46.2%	23.1%	23.1%	0.0%	0.0%	7.7%
	文化人類学	講義	55					90.9%	0.0%	90.9%	56.4%	25.5%	9.1%	0.0%	0.0%	9.1%
	民俗学	講義	35					85.7%	0.0%	85.7%	25.7%	37.1%	22.9%	0.0%	2.9%	11.4%
	人文地理学	講義	3					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	自然地理学	講義	3					66.7%	0.0%	66.7%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
	地誌学概論	講義	2					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	法学概論	講義	16					56.3%	0.0%	56.3%	18.8%	6.3%	31.3%	0.0%	31.3%	12.5%
	法学(日本国憲法)	講義	25					80.0%	0.0%	80.0%	44.0%	24.0%	12.0%	0.0%	4.0%	16.0%
	政治学概論	講義	11					81.8%	0.0%	81.8%	72.7%	9.1%	0.0%	0.0%	9.1%	9.1%
	経済学概論	講義	21					81.0%	4.8%	85.7%	71.4%	4.8%	4.8%	0.0%	0.0%	19.0%
	国際関係概論	講義	11					54.5%	0.0%	54.5%	36.4%	9.1%	9.1%	0.0%	9.1%	36.4%
世界史概論	講義	20					80.0%	0.0%	80.0%	45.0%	25.0%	10.0%	0.0%	5.0%	15.0%	
日本史概論	講義	42					97.6%	0.0%	97.6%	54.8%	33.3%	9.5%	0.0%	0.0%	2.4%	
地域史	講義	15					93.3%	0.0%	93.3%	60.0%	13.3%	20.0%	0.0%	0.0%	6.7%	
数学	講義	9					88.9%	0.0%	88.9%	33.3%	44.4%	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	
物理学	講義	2					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
化学	講義	5					100.0%	0.0%	100.0%	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
生物学	講義	16					87.5%	0.0%	87.5%	68.8%	6.3%	12.5%	0.0%	0.0%	12.5%	
専門教育 科目	発達心理学	講義	36					100.0%	0.0%	100.0%	80.6%	16.7%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	社会心理学	講義	46					89.1%	0.0%	89.1%	58.7%	19.6%	10.9%	0.0%	4.3%	6.5%
	消費者の心理	講義	45					91.1%	0.0%	91.1%	57.8%	28.9%	4.4%	0.0%	0.0%	8.9%
	心理・調査解析演習	演習	9					100.0%	0.0%	100.0%	88.9%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	文章表現	講義	199					96.0%	0.0%	96.0%	63.8%	27.1%	5.0%	0.0%	0.0%	4.0%
	コミュニケーション論	講義	50					94.0%	0.0%	94.0%	54.0%	30.0%	10.0%	0.0%	0.0%	6.0%
	プレゼンテーション論	演習	27					96.3%	0.0%	96.3%	85.2%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%
	文章表現	演習	106					98.1%	0.0%	98.1%	80.2%	10.4%	7.5%	0.0%	0.0%	1.9%
	コミュニケーション論	講義	61					93.4%	0.0%	93.4%	72.1%	11.5%	9.8%	0.0%	0.0%	6.6%
	プレゼンテーション論	演習	30					93.3%	0.0%	93.3%	83.3%	6.7%	3.3%	0.0%	0.0%	6.7%
古典文学の歴史	講義	28					96.4%	0.0%	96.4%	89.3%	7.1%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%	
近代文学の歴史	講義	39					92.3%	2.5%	94.8%	33.3%	41.0%	17.9%	0.0%	5.1%	2.6%	

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法				単位取得状況(%)			最終の評価(%)					
				筆記試験	レポート等	平常点	その他	本試	再試等	計	A	B	C	P	D	X
専門 教育科目	児童文学	講義	60					98.3%	0.0%	98.3%	73.3%	21.7%	3.3%	0.0%	0.0%	1.7%
	映画・演劇論	講義	41					100.0%	0.0%	100.0%	75.6%	24.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	サブカルチャー論	講義	91					94.5%	0.0%	94.5%	73.6%	19.8%	1.1%	0.0%	0.0%	5.5%
	文学を歩く	講義	13					84.6%	0.0%	84.6%	61.5%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%	15.4%
	文学を創るI	講義	15					86.7%	0.0%	86.7%	86.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	13.3%
	文学を創るII	演習	31					96.8%	0.0%	96.8%	90.3%	6.5%	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%
	伝統文化論	講義	11					100.0%	0.0%	100.0%	63.6%	36.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	地域文化論	講義	52					88.5%	0.0%	88.5%	69.2%	13.5%	3.8%	1.9%	0.0%	11.5%
	子ども文化論	講義	99					93.9%	0.0%	93.9%	62.6%	23.2%	8.1%	0.0%	0.0%	6.1%
	ことばの仕組み	講義	55					96.4%	0.0%	96.4%	87.3%	7.3%	1.8%	0.0%	0.0%	3.6%
	ことばの仕組み	講義	48					97.9%	0.0%	97.9%	29.2%	68.8%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%
	現代のことば	講義	68					91.2%	0.0%	91.2%	38.2%	50.0%	2.9%	0.0%	1.5%	7.4%
	現代のことば	講義	48					91.7%	0.0%	91.7%	64.6%	20.8%	6.3%	0.0%	2.1%	6.3%
	古典文学を読む	講義	44					95.5%	0.0%	95.5%	68.2%	25.0%	2.3%	0.0%	0.0%	4.5%
	古典文学を読む	講義	24					91.7%	0.0%	91.7%	62.5%	12.5%	16.7%	0.0%	4.2%	4.2%
	近代現代文学を読む	講義	49					95.9%	0.0%	95.9%	57.1%	14.3%	24.5%	0.0%	2.0%	2.0%
	近代現代文学を読む	講義	66					93.9%	0.0%	93.9%	56.1%	22.7%	15.2%	0.0%	1.5%	4.5%
	古典文学の研究	講義	39					100.0%	0.0%	100.0%	87.2%	12.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	古典文学の研究	講義	29					100.0%	0.0%	100.0%	82.8%	13.8%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	近代現代文学の研究	講義	52					98.1%	0.0%	98.1%	59.6%	28.8%	9.6%	0.0%	0.0%	1.9%
	近代現代文学の研究	講義	36					100.0%	0.0%	100.0%	69.4%	22.2%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	文学とことばのセミナー	講義	72					98.6%	0.0%	98.6%	80.6%	12.5%	5.6%	0.0%	0.0%	1.4%
	文学とことばの卒業セミナー	演習	71					100.0%	0.0%	100.0%	97.2%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	英文法	講義	98					85.7%	2.9%	88.7%	42.9%	24.5%	18.4%	0.0%	14.3%	0.0%
	英語学演習	演習	62					95.2%	0.0%	95.2%	32.3%	22.6%	40.3%	0.0%	0.0%	4.8%
	英語学特殊講義	講義	22					81.8%	0.0%	81.8%	27.3%	36.4%	18.2%	0.0%	0.0%	18.2%
	日英語対照研究	講義	35					100.0%	0.0%	100.0%	45.7%	51.4%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	英米文学特殊講義	講義	29					96.6%	3.3%	99.9%	17.2%	51.7%	27.6%	0.0%	0.0%	3.4%
	翻訳文化論	講義	13					92.3%	0.0%	92.3%	30.8%	30.8%	30.8%	0.0%	0.0%	7.7%
	TOEIC基礎演習(読解・文法)	演習	88					98.9%	0.0%	98.9%	47.7%	34.1%	17.0%	0.0%	1.1%	0.0%
	TOEIC基礎演習(リスニング)	演習	87					100.0%	0.0%	100.0%	55.2%	40.2%	4.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	英語音声学	講義	51					94.1%	1.9%	96.0%	47.1%	31.4%	15.7%	0.0%	5.9%	0.0%
	Basic Oral English	演習	45					100.0%	0.0%	100.0%	15.6%	75.6%	6.7%	2.2%	0.0%	0.0%
	Oral English 1	演習	67					97.0%	0.0%	97.0%	44.8%	50.7%	1.5%	0.0%	0.0%	3.0%
	English Composition 1	演習	83					90.4%	0.0%	90.4%	25.3%	36.1%	28.9%	0.0%	8.4%	1.2%
	Listening Comprehension 1	演習	83					97.6%	0.0%	97.6%	43.4%	44.6%	9.6%	0.0%	0.0%	2.4%
	Oral English 2	演習	63					98.4%	0.0%	98.4%	39.7%	41.3%	17.5%	0.0%	0.0%	1.6%
	English Composition 2	演習	70					95.7%	0.0%	95.7%	18.6%	30.0%	47.1%	0.0%	2.9%	1.4%
	Listening Comprehension 2	演習	83					90.4%	0.0%	90.4%	47.0%	33.7%	9.6%	0.0%	8.4%	1.2%
	Oral English 3	演習	48					81.3%	0.0%	81.3%	35.4%	25.0%	20.8%	0.0%	0.0%	18.8%
	English Composition 3	演習	36					86.1%	0.0%	86.1%	47.2%	19.4%	19.4%	0.0%	0.0%	13.9%
	Listening Comprehension 3	演習	71					90.1%	0.0%	90.1%	42.3%	36.6%	11.3%	0.0%	0.0%	9.9%
	英語学概論	講義	32					93.8%	0.0%	93.8%	56.3%	25.0%	12.5%	0.0%	6.3%	0.0%
	英米文学概論	講義	61					100.0%	0.0%	100.0%	63.9%	18.0%	18.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	英米文学演習	演習	59					93.2%	0.0%	93.2%	28.8%	45.8%	18.6%	0.0%	1.7%	5.1%
	英語学研究	講義	22					95.5%	0.0%	95.5%	18.2%	18.2%	59.1%	0.0%	4.5%	0.0%
	英米文学研究	講義	34					100.0%	0.0%	100.0%	47.1%	32.4%	20.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	日英比較文学	講義	64					100.0%	0.0%	100.0%	56.3%	43.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	TOEIC総合演習1	演習	74					98.6%	0.0%	98.6%	37.8%	50.0%	10.8%	0.0%	0.0%	1.4%
	TOEIC総合演習2	演習	55					100.0%	0.0%	100.0%	45.5%	25.5%	29.1%	0.0%	0.0%	0.0%
TOEIC総合演習3	演習	49					77.6%	0.0%	77.6%	53.1%	14.3%	10.2%	0.0%	6.1%	16.3%	
商業英語	講義	19					100.0%	0.0%	100.0%	31.6%	42.1%	26.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
商業英語	講義	12					100.0%	0.0%	100.0%	41.7%	58.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
通訳法	講義	18					88.9%	0.0%	88.9%	50.0%	33.3%	5.6%	0.0%	5.6%	5.6%	
通訳法	講義	12					100.0%	0.0%	100.0%	91.7%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
翻訳法	講義	14					100.0%	0.0%	100.0%	35.7%	42.9%	21.4%	0.0%	0.0%	0.0%	
翻訳法	講義	2					100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
英語文書処理演習	演習	46					100.0%	0.0%	100.0%	47.8%	47.8%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
英語文書処理演習	演習	37					97.3%	0.0%	97.3%	40.5%	48.6%	8.1%	0.0%	2.7%	0.0%	
貿易実務	講義	12					100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
貿易実務	講義	8					100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
時事英語	講義	53					92.5%	0.0%	92.5%	28.3%	43.4%	20.8%	0.0%	3.8%	3.8%	
時事英語	講義	26					96.2%	0.0%	96.2%	30.8%	42.3%	23.1%	0.0%	0.0%	3.8%	



種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法				単位取得状況(%)			最終の評価(%)						
				筆記試験	レポート等	平常点	その他	本試	再試等	計	A	B	C	P	D	X	
専門教育科目	英語情報処理演習	演習	25					96.0%	0.0%	96.0%	48.0%	44.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%
	英語情報処理演習	演習	12					91.7%	0.0%	91.7%	75.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%
	卒業セミナー	演習	87					100.0%	0.0%	100.0%	65.5%	25.3%	9.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	映像メディア論	講義	46					97.8%	0.0%	97.8%	97.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%
	出版メディア論	講義	42					92.9%	0.0%	92.9%	40.5%	45.2%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%
	ワープロとインターネット	演習	98					100.0%	0.0%	100.0%	63.3%	32.7%	4.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	ビジネス情報処理	演習	67					89.6%	0.0%	89.6%	41.8%	41.8%	6.0%	0.0%	1.5%	9.0%	
	編集・出版の情報処理	演習	36					80.6%	0.0%	80.6%	41.7%	33.3%	5.6%	0.0%	0.0%	19.4%	
	情報リテラシー入門	演習	6					100.0%	0.0%	100.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	漢字を学ぶ	講義	52					86.5%	1.9%	88.4%	53.8%	15.4%	17.3%	0.0%	9.6%	3.8%	
	観光英語を学ぶI	講義	72					97.2%	0.0%	97.2%	56.9%	30.6%	9.7%	0.0%	0.0%	2.8%	
	観光英語を学ぶII	講義	67					92.5%	0.0%	92.5%	56.7%	31.3%	4.5%	0.0%	0.0%	7.5%	
	秘書実務を学ぶI	講義	99					94.9%	0.0%	94.9%	66.7%	22.2%	6.1%	0.0%	0.0%	5.1%	
	秘書実務を学ぶII	講義	72					93.1%	2.7%	95.7%	58.3%	30.6%	4.2%	0.0%	2.8%	4.2%	
	日英比較文化論	講義	17					88.2%	0.0%	88.2%	58.8%	23.5%	0.0%	5.9%	0.0%	11.8%	
	現代英米事情	講義	14					100.0%	0.0%	100.0%	78.6%	14.3%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	
	アジアと日本	講義	20					100.0%	0.0%	100.0%	55.0%	35.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	ジェンダー論	講義	80					90.0%	0.0%	90.0%	66.3%	16.3%	7.5%	0.0%	1.3%	8.8%	
	民俗文化の世界	講義	58					96.6%	0.0%	96.6%	69.0%	24.1%	3.4%	0.0%	0.0%	3.4%	
	からだと健康	講義	36					100.0%	0.0%	100.0%	86.1%	13.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	日本の歴史と文化	講義	11					100.0%	0.0%	100.0%	72.7%	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	自己開発トレーニング	演習	33					100.0%	0.0%	100.0%	97.0%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	心理学概論	講義	33					100.0%	0.0%	100.0%	78.8%	18.2%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	臨床心理学	講義	52					100.0%	0.0%	100.0%	98.1%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	健康心理学	講義	27					92.6%	0.0%	92.6%	66.7%	25.9%	0.0%	0.0%	7.4%	0.0%	
	カウンセリング論	講義	38					100.0%	0.0%	100.0%	92.1%	5.3%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	
	コミュニケーション心理	講義	20					100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	こころと行動	講義	43					97.7%	0.0%	97.7%	69.8%	25.6%	2.3%	0.0%	0.0%	2.3%	
	性格とは何か	講義	45					91.1%	0.0%	91.1%	68.9%	20.0%	2.2%	0.0%	2.2%	6.7%	
	アートと心理	講義	47					97.9%	0.0%	97.9%	97.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	
	音楽とこころ	講義	84					90.5%	0.0%	90.5%	44.0%	36.9%	9.5%	0.0%	0.0%	9.5%	
	文学に見る行動心理	講義	36					88.9%	0.0%	88.9%	55.6%	22.2%	11.1%	0.0%	2.8%	8.3%	
	心理学卒業演習	演習	33					100.0%	0.0%	100.0%	75.8%	18.2%	6.1%	0.0%	0.0%	0.0%	

文科第一部の単位認定の状況表

(平成20年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法				単位取得状況(%)			最終の評価(%)					
				筆記試験	レポート等	平常点	その他	本試	再試等	計	A	B	C	D	X	
教養教育(一般教育)科目	仏語	演習	2					50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	中国語	演習	4					50.0%	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%	
	体育	実習	6					50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	16.7%	33.3%	0.0%	50.0%	
	世界市民論	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	文学(英文学)	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	美術	講義	4					50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	50.0%	
	社会学	講義	2					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	
	経済学	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	生活環境論	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	文学(仏文学)	講義	3					50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	
	哲学	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	倫理学	講義	3					100.0%	0.0%	100.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
	心理学	講義	5					40.0%	0.0%	40.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	60.0%	
	社会学	講義	2					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	文化人類学	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	自然と人間	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	地誌学概論	講義	2					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	法学(日本国憲法を含む)	講義	2					50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法			単位取得状況(%)			最終の評価(%)					
				筆記試験	レポート等	平常点	その他	本試	再試等	計	A	B	C	D	X
教養教育(一般教育)科目	経済学	講義	3					50.0%	0.0%	50.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%
	国際関係論	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	地域史	講義	2					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	生命活動の科学	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	文学I	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	発達心理学	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	哲学II	講義	2					50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	倫理学II	講義	3					66.7%	0.0%	66.7%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
	美術II	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	日本史I	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	日本史II	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	心理学II	講義	2					50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	自然と人間II	講義	2					50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	生物学	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	ウェルネス論	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	健康科学	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	食生活論	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	社会心理学	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
ことばの技術I(文章表現)	講義	2					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	
ことばの技術II	講義	2					100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
プレゼンテーション論	演習	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
プレゼンテーション論	演習	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
ことばの仕組み	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
現代のことば	講義	2					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
コミュニケーション論	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
古典文学を読む	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
近代現代文学を読む	講義	2					100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	
古典文学の研究	講義	2					100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	
近代現代文学の研究	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
古典文学の歴史	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
近代文学の歴史	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
文学とことばのセミナーI	講義	2					100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
文学とことばのセミナーII	演習	2					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	
児童文学	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
映画・演劇論	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
サブカルチャー論	講義	3					66.7%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	
文学を歩く	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
文学を創るI	講義	3					33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	
文学を創るII	演習	1					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
伝統文化論	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
地域文化論	講義	2					50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	
民俗学	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
女性論	講義	2					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	
子ども文化論	講義	5					60.0%	0.0%	60.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	40.0%	
ことばの仕組み	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
卒業研究	演習	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
英文法	講義	2					50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	
時事英語	講義	2					50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	
TOEIC(R)リスニング総合演習(リスニングを含む)	演習	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
TOEIC(R)テスト基礎演習(読解・文法)	演習	2					50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	
TOEIC(R)テスト基礎演習(読解・文法)II	演習	2					50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	
TOEIC(R)テスト基礎演習(リスニング)	演習	2					50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	
TOEIC(R)テスト基礎演習(リスニング)II	演習	2					50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	
スピーチ&ディベートI	演習	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
スピーチ&ディベートII	演習	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
英米文学史概説I	講義	2					50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	
英米文学史概説II	講義	2					50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	
英語学概説I	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
英語学演習I	演習	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
英米文学特殊講義	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
日英語対照研究I	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
日英比較文学I	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
オーラル・イングリッシュIII	演習	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
オーラル・イングリッシュIV	演習	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法				単位取得状況(%)			最終の評価(%)				
				筆記試験	レポート等	平常点	その他	本試	再試等	計	A	B	C	D	X
専門 教育科目	地域文化I(英米事情)	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	地域文化II(英米事情)	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	国際事情II	講義	2					50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	現代女性論	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	翻訳文化論	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	貿易実務	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	英語音声学基礎	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	英米文学研究	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	卒業セミナー	演習	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	映像メディア論	講義	2					33.3%	0.0%	33.3%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	出版メディア論	講義	3					50.0%	0.0%	50.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%
	ビジネス情報処理	演習	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	編集・出版の情報処理	演習	3					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	漢字をまなぶ	講義	2					100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	観光英語をまなぶI	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	観光英語をまなぶII	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	女性論	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	健康科学	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	行動の心理学	講義	1					100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	ことばの仕組み	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	英語学概説II	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	オーラル・イングリッシュI	演習	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	オーラル・イングリッシュII	演習	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
国際事情I	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
現代女性論	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
時事英語	講義	1					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	

看護学科の単位認定の状況表

(平成20年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法				単位取得状況(%)			最終の評価(%)					
				筆記試験	レポート等	平常点	その他	本試	再試等	計	A	B	C	P	D	X
総合 教育科目	生命科学	講義	14					100.0%	0.0%	100.0%	92.9%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%
	生命倫理	講義	19					100.0%	0.0%	100.0%	47.4%	52.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	心理学	講義	31					96.8%	0.0%	96.8%	90.3%	0.0%	0.0%	6.5%	0.0%	3.2%
	発達心理学	講義	50					100.0%	0.0%	100.0%	52.0%	42.0%	6.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	哲学	講義	37					97.3%	0.0%	97.3%	48.7%	43.2%	5.4%	0.0%	0.0%	2.7%
	文学の世界	講義	24					100.0%	0.0%	100.0%	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	芸術の世界	講義	23					100.0%	0.0%	100.0%	47.8%	47.8%	4.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	教育学	講義	10					100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	社会学	講義	27					100.0%	0.0%	100.0%	77.8%	18.5%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%
	法学	講義	10					100.0%	0.0%	100.0%	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	経済学	講義	11					100.0%	0.0%	100.0%	90.9%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	国際関係論	講義	56					100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	情報処理論	演習	80					100.0%	0.0%	100.0%	50.6%	40.5%	7.6%	1.3%	0.0%	0.0%
	統計学入門	演習	40					87.5%	0.0%	87.5%	65.0%	15.0%	7.5%	0.0%	0.0%	12.5%
	英会話	演習	80					98.7%	0.0%	98.7%	36.2%	58.7%	2.5%	1.3%	0.0%	1.3%
	英会話	演習	11					45.5%	0.0%	45.5%	9.1%	9.1%	27.3%	0.0%	0.0%	54.5%
	英語文献講読	講義	8					87.5%	0.0%	87.5%	62.5%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%
	身体と栄養	講義	25					100.0%	0.0%	100.0%	96.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	身体と運動	講義	33					100.0%	0.0%	100.0%	57.6%	39.4%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%
	障害教育と手話	講義	39					100.0%	0.0%	100.0%	17.9%	66.7%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	自己啓発演習	演習	80					98.8%	0.0%	98.8%	82.5%	11.3%	5.0%	0.0%	0.0%	1.2%
	自己啓発演習	演習	4					100.0%	0.0%	100.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法				単位取得状況(%)			最終の評価(%)					
				筆記試験	レポート等	平常点	その他	本試	再試等	計	A	B	C	P	D	X
専門基礎科目	解剖学	講義	80					73.8%	25.0%	98.8%	32.5%	8.8%	57.5%	0.0%	0.0%	1.2%
	生理学	講義	80					81.3%	17.5%	98.8%	25.0%	37.5%	36.3%	0.0%	0.0%	1.2%
	生化学	講義	80					98.8%	0.0%	98.8%	40.0%	20.0%	38.8%	0.0%	0.0%	1.2%
	病理学	講義	80					91.3%	7.5%	98.8%	43.8%	23.8%	31.2%	0.0%	0.0%	1.2%
	病態心理学	講義	80					98.8%	1.2%	100.0%	78.5%	15.2%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	微生物学	講義	80					78.8%	20.0%	98.8%	6.3%	25.0%	67.5%	0.0%	0.0%	1.2%
	栄養学	講義	80					97.6%	1.2%	98.8%	7.5%	82.5%	8.8%	0.0%	0.0%	1.2%
	薬理学	講義	79					100.0%	0.0%	100.0%	82.3%	12.7%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	リハビリテーション	講義	79					100.0%	0.0%	100.0%	98.7%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	カウンセリング	講義	79					98.7%	1.3%	100.0%	67.0%	24.1%	8.9%	0.0%	0.0%	0.0%
専門基礎科目	母性への医学的対応	講義	79					78.5%	21.5%	100.0%	1.3%	25.3%	73.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	小児への医学的対応	講義	79					82.3%	17.7%	100.0%	21.5%	26.6%	51.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	成人への医学的対応	講義	79					62.0%	38.0%	100.0%	2.5%	22.8%	74.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	高齢者への医学的対応	講義	80					87.5%	11.3%	98.8%	15.0%	28.8%	55.0%	0.0%	1.2%	0.0%
	医療・福祉概論	講義	79					100.0%	0.0%	100.0%	44.3%	48.1%	7.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	医療と情報	講義	79					98.7%	1.3%	100.0%	43.0%	49.4%	7.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	関係法規	講義	79					100.0%	0.0%	100.0%	94.9%	5.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	医療と経済	講義	70					98.6%	0.0%	98.6%	47.1%	51.5%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%
	障害者福祉論	講義	79					100.0%	0.0%	100.0%	25.3%	48.1%	26.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	ケースマネジメント	講義	25					56.0%	0.0%	56.0%	56.0%	0.0%	0.0%	0.0%	44.0%	0.0%
専門科目	看護学概論	講義	79					100.0%	0.0%	100.0%	49.4%	43.0%	7.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	共通看護技術論	講義	79					86.1%	13.9%	100.0%	27.9%	39.2%	32.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	日常生活援助技術論	講義	79					92.4%	7.6%	100.0%	16.5%	65.8%	17.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	回復促進援助技術論	講義	79					91.1%	8.9%	100.0%	53.2%	32.9%	13.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	総合判断育成演習	演習	80					98.8%	0.0%	98.8%	60.0%	35.0%	3.8%	0.0%	0.0%	1.2%
	基礎看護学実習Ⅰ	実習	79					97.5%	2.5%	100.0%	64.6%	31.6%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	基礎看護学実習Ⅱ	実習	79					100.0%	0.0%	100.0%	50.6%	35.5%	13.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	精神看護学概論	講義	79					98.7%	1.3%	100.0%	69.6%	25.3%	5.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	精神看護活動論	講義	79					100.0%	0.0%	100.0%	72.2%	27.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	精神看護活動演習	演習	79					100.0%	0.0%	100.0%	88.6%	8.9%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	精神看護学実習	実習	79					100.0%	0.0%	100.0%	38.0%	51.9%	10.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	精神看護学実習Ⅱ	実習	79					100.0%	0.0%	100.0%	45.6%	48.1%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	在宅看護概論	講義	79					81.0%	19.0%	100.0%	35.5%	17.7%	46.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	在宅看護活動論	講義	79					100.0%	0.0%	100.0%	51.9%	46.8%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	在宅看護活動演習	演習	79					100.0%	0.0%	100.0%	10.1%	38.0%	51.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	在宅看護論実習Ⅰ	実習	79					100.0%	0.0%	100.0%	81.0%	16.5%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	在宅看護論実習Ⅱ	実習	79					100.0%	0.0%	100.0%	89.9%	6.3%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	母子看護学概論	講義	79					97.5%	1.3%	98.8%	12.5%	33.8%	52.5%	0.0%	1.2%	0.0%
	母子保健総論	講義	79					94.9%	5.1%	100.0%	10.1%	30.4%	59.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	母性看護活動論	講義	79					63.3%	36.7%	100.0%	12.6%	38.0%	49.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	母性看護活動演習	講義	79					100.0%	0.0%	100.0%	10.0%	38.0%	52.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	母性看護学実習	講義	79					100.0%	0.0%	100.0%	7.6%	55.7%	36.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	小児看護活動論	講義	79					70.9%	29.1%	100.0%	5.1%	16.5%	78.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	小児看護活動演習	演習	79					78.5%	21.5%	100.0%	38.0%	24.0%	38.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小児看護学実習Ⅰ	実習	79					100.0%	0.0%	100.0%	88.6%	10.1%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	小児看護学実習Ⅱ	実習	79					100.0%	0.0%	100.0%	72.2%	26.6%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	成人看護学概論	講義	80					98.8%	0.0%	98.8%	6.3%	32.5%	60.0%	0.0%	0.0%	1.2%
	成人看護活動論	講義	79					63.3%	36.7%	100.0%	0.0%	2.5%	97.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	成人看護活動演習	演習	79					100.0%	0.0%	100.0%	16.5%	78.5%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	成人看護学実習Ⅰ	実習	79					100.0%	0.0%	100.0%	20.3%	54.4%	25.3%	0.0%	0.0%	0.0%
成人看護学実習Ⅱ	実習	79					100.0%	0.0%	100.0%	12.7%	62.0%	25.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
成人看護学実習Ⅲ	実習	79					100.0%	0.0%	100.0%	22.8%	51.9%	25.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
高齢者看護学概論	講義	79					97.5%	2.5%	100.0%	60.8%	29.1%	10.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
高齢者看護活動論	講義	79					100.0%	0.0%	100.0%	59.5%	31.6%	8.9%	0.0%	0.0%	0.0%	
高齢者看護活動演習	演習	79					100.0%	0.0%	100.0%	79.7%	19.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
高齢者看護学実習Ⅰ	実習	79					100.0%	0.0%	100.0%	96.2%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
高齢者看護学実習Ⅱ	実習	79					100.0%	0.0%	100.0%	93.7%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
高齢者看護学実習Ⅲ	実習	79					100.0%	0.0%	100.0%	65.8%	26.6%	7.6%	0.0%	0.0%	0.0%	

授業科目の評価は、試験の結果と出席状況によって判定され、その点数に応じ、100～80点：  
A、79～70点：B、69～60点：C、59点以下：Dとなり、D評価は不合格となる。評価Pは、単位認定をさし、単位取得状況においては「本試」に含んでいる。評価Xは、受験資格のない場合、試験を放棄した場合、レポート・作品未提出の場合等をさす。

(2) 学科長等がそれぞれの学科について、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状についてどのように受け止めているかを記述して下さい。

単位認定の全学的な基準は、まず原則として出席が3分の2以上あること、そして期末試験の成績、出席状況、授業態度等を総合的に評価して単位認定を行っている。出席状況については、平成21年度より、学生証のICカード化に伴い出欠管理システムを導入し、把握している。単位認定の評価方法はシラバスにおいてあらかじめ公開されている。実際の評価については、「英語」が全学的な統一テストを期末に実施し、その点数を一定の割合で成績に反映させることが義務づけられているが、それ以外は、個々の教員のそれぞれの評価方法や評価基準に基づいた判断に任されている。

なお、大学・短期大学将来構想を受け、FD委員会において、適正な成績評価の実現のために、成績評価基準のあり方について検討を行っている。

#### 生活科学科

生活科学科では、本学の基準である3分の2以上の出席がなければ受験資格を失うという基準を遵守している。ただし、演習や実習のクラスでは、毎回授業後にレポート提出させるクラスが多く、更に厳格なルールを採用している教員が多い。また、評価については、全学的な評価基準を遵守して行っている。

#### 文科

単位認定の方法について、文科の教員は全学的な基準を遵守しており適切に行っていると認識している。単位の取得状況については、特に変化があるというわけではなく、例年このような状況である。その意味では、単位を取得出来ない学生の数に一定数いることをどう改善していくのか、それが文科の課題となっている。

#### 看護学科

看護学科では、卒業見込みの学生が看護師国家試験を受験することから、配当したすべての科目の出欠状況を確認した上で受験資格を与えている。また、学生が医療現場で臨地実習を行うことや看護師国家試験を受験することを考慮し、出席時間数は厳格な規定を設けている。履修ガイドに専門教育科目と学科スキル科目は出席時間数が看護学科の定める基準(出席時間数が実質総授業時間の5分の4以上あること)を満たしていること、遅刻・早退は3回をもって欠席1回に換算すると規定されている。また、このことはシラバスにも記入されており、初回の授業で説明しているので問題はない。成績評価は学則に定められ、履修ガイドやシラバスにも明示され公開している。成績評価の方法は講義、演習、実習などによって異なるが、試験、レポート、実技テスト、実習記録、欠席状況等のいずれか、あるいは、それらを組み合わせて評価している。しかし、実際には科目によって担当教員の評価に偏りがみられていることから、今後は、公正、公平、妥当性のある評価方法について、教員間で教育評価の方法について、相互研鑽できる機会を確立することが必要である。

(3) 学長等は、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状について、短期大学全体の状況をどのように受け止めているかを記述して下さい。

まず、3学科の単位認定の方法の現状であるが、いずれもシラバスに評価方法や評価基準、試験の方法を明記しており、全体として公正かつ客観的な単位認定の方法であると考えている。単位の取得状況及び担当教員による評価の現状についてであるが、国家試験を抱えた看護学科の評価は当然国家資格の取得という目標を持つものであるために、教員も学生も明確な目的意識を持っており、単位取得状況も評価も、教育の現状として満足すべきものである。生活科学科と文科については、看護学科のような性格を持たない分、一部の学生にモチベーションの低下や喪失が見られ、単位が取得できないケースが看護学科より多く見受けられる。この数を少なくしていくことが今後生活科学科や文科に課せられた課題であろう。担当教員による評価の現状であるが、科目によってA、B、C 評価の割合にばらつきがあるが、これは、それぞれの授業の達成度目標とそれに対する教育努力の結果の問題であり、その割合が統一されることはありえず、一概にばらつきが悪いとは言えない。本来なら 100%A 評価をめざすのが教育の目的である。重要なのは、評価方法と評価基準が明確でありそれに従って評価されていることである。評価の現状としては、おおむね問題はないと認識している。

#### 【授業に対する学生の満足度について】

(1) 各授業について、終了後に「学生の満足度」の調査を実施していればその調査の概要を記述して下さい。また調査票の様式等を訪問調査の際にご準備下さい。

FD 委員会による、前期・後期 2 回の授業評価アンケート調査を行っている。その調査内容の項目は「意欲的に講義に取り組めたか」「内容に興味をもてたか」、演習や実習の項目では「積極的に取り組めたか」「自分の意見が述べられるよう配慮を受けたか」などである。

例えば平成 20 年度の後期の結果をみると「授業に対する興味」「実習への自らの積極的な取組」は以下の通りである。授業や実習への取り組みの状況から、概ね満足は得られていると考えられる一方、低値ではあるが、興味を持たない学生がいることやアンケートの自由記載欄の内容も合わせながら、授業や実習内容などを自らに問い一層の改善が必要である。

#### 「授業に対する興味」

学科	非常に興味をもてた	まあまあ興味をもてた	あまり興味が持てなかった	興味が持てなかった
生活科学科	30.5%	58.9%	9.1%	1.4%
文科	38.4%	49.7%	9.5%	2.3%
看護学科	50.8%	39.1%	7.6%	2.5%

#### 「実習への自らの積極的な取組」

学科	非常に積極的に取組んだ	まあまあ積極的に取組んだ	あまり積極的に取組めなかった
生活科学科	37.5%	59.1%	3.4%
看護学科	52.6%	45.2%	2.2%

(2) 担当教員が授業終了後の学生の満足度に配慮しているかについて、学科長等が現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

まず、短期大学全体としては、学生の授業アンケートについてはすでに実施しており、その都度その結果を教員に返している。個々の教員はその結果を受け、改善すべき所があれば改善している。これまで、個々の教員が、授業終了後の学生の満足度にどう配慮しているかについては、個々の教員の改善の努力に任せていたが、FD 委員会では、平成 20 年度後期から、学生のアンケートの結果に対して、個々の教員が、自分の授業の改善点をレポートにして FD 委員会に提出することを義務づけた。そして、平成 21 年度からは、前回レポートしたその課題がどのように改善されたのかそのことをレポートすることも義務づけた。このような FD 活動により、授業終了後の学生の満足度に教員がより配慮するようになり、その結果としての学生の満足度を上げていくことにつながっていくと考えている。各学科の現状については、以下の通り。

#### 生活科学科

生活科学科の学生の満足度には高いものがみられる。それは、生活科学という学問が、生活と密着しているため、興味がわき理解ができるという特質によるものと考えている。さらに、実験を通してその原理を体験し、実習・演習を通してものを作り上げることで、満足感を得ているということも、一因となっているようである。

#### 文科

文科の教員は、より充実した授業を行うようそれぞれ努力している。だが、個人差があり、中には教員に対して学生の側からクレームがつくケースも希にだがないわけではない。そういう場合には、学科長や関連する科目の教員と当事者の教員が話し合い、改善点について話し合うようにしている。以前と違って、学生の授業の質への要求は高くなってきており、不満があればアンケートだけでなく、それを様々な方法で教員の側に伝える努力を惜しまない。その意味では、教員の側も授業終了後の学生の満足度に配慮しなければならなくなってきているのが現状である。

#### 看護学科

看護学科の教員は学生に看護に必要な専門的な知識・技術・態度の修得が高まるよう努力している。授業修了後にミニテストや出席カードを作成し、授業の理解状況を確認し、学んだこと、理解できなかった点、質問事項、授業への感想等を記述してもらっている。教員個々のさまざまな工夫により学生の授業の満足度を知り、より満足度が高められるよう配慮している。また、オフィスアワーを利用して研究室を訪れて、講義についての質問や意見交換をしていることから、教員は学生の学習意欲を知ることできる。しかし、少ないケースではあるが教員に対する不満を聞くこともある。その場合は、学科長が調整し、専門領域の責任者と科目担当者および当事者で話し合いを持ち問題点を明らかにし、改善するようにしている。非常勤講師に対しては主に教務委員長が学生の声を届けて改善してもらうように働きかけている。

(3) 学長等は短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

学生の授業に対する満足度については、おおむね悪くはないという認識である。ただし課題も残されている。一部の教員の授業への不満の声が学生から寄せられるという例もある。FD 活動に対する教員全体の意識が積極的かと言えばまだそこまでは至っていない。教員の授業の方法は工夫次第でいくらでも改善されるものだが、残念ながら、旧来の自分流の授業方法に頼り、改善のきっかけや方法を積極的に持とうとしない教員も存在する。その意味では、短期大学全体として、FD 活動を今後積極的に実施して行かねばならないと考えている。

【退学、休学、留年等の状況について】

(1) 過去3ヶ年(平成18年度~20年度)の退学、休学、留年等の数を、次の表を例にして学科等ごとに記載し、学科等の状況を明らかにして下さい。

生活科学科の退学者等一覧

(平成21年3月31日現在)

区分	18年度入学	19年度入学	20年度入学	備考
入学者数	187	180	209	
うち退学者数	8	14	6	
うち休学者数	2	2	2	
休学者のうちの復学者数	2	1	2	
うち留年者数	6	7	-	
卒業者数	173	159		

文科の退学者等一覧

(平成21年3月31日現在)

区分	18年度入学	19年度入学	20年度入学	備考
入学者数	214	215	231	
うち退学者数	16	10	6	
うち休学者数	2	1	-	
休学者のうちの復学者数	-	-	-	
うち留年者数	7	14	-	
卒業者数	191	191		



## 看護学科の退学者等一覧

(平成21年3月31日現在)

区分	18年度入学	19年度入学	20年度入学	備考
入学者数	91	100	90	
うち退学者数	8	7	4	
うち休学者数	4	2	1	
休学者のうちの復学者数	2	1	-	
うち留年者数	-	-	-	
卒業生数	77			

(2) 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者(復学者を含む)及び留年者に対する指導(ケア)の現状について学科等ごとに記述して下さい。

### 生活科学科

生活科学科では、入学者数に対して退学者数が、ここ3年間で数パーセント(2.8~7.7%)となっている。退学の理由は、主として進路変更であり、少数例として健康を損ねたという理由と、経済的理由がある。この中で健康を損ねたというのは、多くが精神的問題を抱え、登校できない学生である。しかし、進路変更という学生の中にも、実は精神的問題を抱えている学生がいると思われる。前期並びに後期の授業開始数週間後の一定の時期に、教務課が欠席の多い学生の調査を実施する。その結果を受けて、担任、時には学科長や主任が電話で家族と連絡を取る。ケースによっては父母と教員との二者(又は三者)面談を行っている。学年末に判明する留年者や休学者に対しても同様の取組を行っている。これらの学生に対するケアとしては、精神的な問題で登校できない学生には「学生相談室」と連携をとって対応するとともに、単に寝坊で遅刻や欠席を繰り返す学生には、本人と保護者に対し自覚と対策をとるよう口頭で厳しく指導している。

### 文科

近年の傾向として、退学理由の中で経済的な理由や精神面を含めた健康上の理由が多くなってきている。経済的な理由については、学内の奨学金制度などをすすめることで支援はしているが、それだけでは解決できないケースが多い。精神面を含めた健康問題については、問題を抱えた学生を早期に察知し担任や助手が面談を行うことにしている。保護者とも連携をとりながら、就学が無理な場合は休学して療養し復帰することをすすめている。留年者については、すでに単位不足で留年が想定されることを前提に担任が指導を行ってきたものがほとんどである。結果としてその指導が実を結ばなかったわけであるが、単位不足の理由は個人によって様々であり、留年者に対しては、その個々の事情を踏まえて、卒業要件の単位を早く取得できるように指導している。

### 看護学科

看護学科の退学理由として、看護師になりたいという目的意識が曖昧であること、精

精神的な問題をもっていること、基礎学力が低いこと、授業内容が理解できないことから興味や関心がもてない、経済的問題などがあげられる。看護学科では看護師への動機付けができていない学生も入学しているため、担任が入学早期より面接を行い学生の気持ちを知るようにしている。進路変更をする学生には学科、あるいは他の学科と連携をとりながら学生の進路をサポートしている。また、事情で退学、休学、留年等を余儀なくされる学生には、学生の気持ちを十分に聞いたうえで、保護者と連絡をとり学生にとって相応しい方向性が見出せるよう、支援している。復学に際しては、履修について教務委員が説明し、また、クラス担任がサポートしているが、現状ではこのような学生へのケアには教員数や対応に要する時間等から限界があり、なんらかの対策が必要である。

(3) 退学、休学、留年等の現状を、学科長等がどのように受け止めているかを学科等ごとに記述して下さい。

#### 生活科学科

一昨年に増加した退学者（入学者に対する退学者の割合 7.7%）を減少するため努力した結果、昨年は退学者の数が半減（同上 2.8%）した。これは、クラス担任の教員が1年生を対象に面接をし、各教員の研究室を開放し、相談したい学生はいつでも教員と相談できる態勢をとったことと関係があると考えている。退学理由は、進路変更と一身上の理由が多いが、その中には、1年の入学時から欠席がちな学生も含まれている。各学期開始数週間後、欠席がちな学生に対し家庭へ連絡をとる。本学には学生相談室があり、登校困難な学生への対応を行っている。保護者と電話で話し合ったり、場合により保護者に来校してもらい教員との面談を実施している。

#### 文科

退学者の数は決して少なくない。理由は一身上の都合や進路変更が主だが、特に一身上の都合が多くなってきている。その中でも特に目立つのが経済的な事情による退学者が増えてきていることである。学内のいくつかの奨学金制度の活用をすすめているが、それでも退学するケースがある。学習意欲を失ったという理由の退学者もいるが数は多くない。それに代わって増えているのが精神的もしくは健康上の理由で退学する者である。休学者にもこのケースが多い。また、健康上の理由も精神的な問題と関わっている場合が多い。留年者の中にも、心の問題を抱えているために授業に出られず、あるいは登校出来ず留年するケースがある。心の問題を抱えた学生を文科としてどうケアしていくのか、対策が必要となっている。

#### 看護学科

看護学科の退学者数は多いと認識している。退学理由として、目的意識が薄いこと、基礎学力が低いこと、心の問題、経済的事情などである。経済的な問題に対しては、本学にある奨学金制度の利用を促し、学生課と連絡をとり問題解決している学生もいる。また、心の問題を抱えその上に体調を崩し学習意欲が低下してしまう学生には、担任や保健室や学校医、さらに保護者が協力し、繰り返し支援しても、遅刻や欠席が改善しないケースは留年や休学となっている。このような学生への体策は今後の検討すべき課題

である。

(4) 学長等は、短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

退学者、休学者、留年者については、対策を取ることが必要であると認識している。短期大学では、特に生活科学科や文科では、第一志望でない入学生が多いが、大半の学生は入学後、学生生活を通じて徐々に目的意識を持ち、友人とのコミュニケーションも活発となる。しかし、一部にはこうしたモチベーションを持たないまま学生生活を続ける者もあり、このような学生がやはり退学しやすい。そのような学生を出さないためにも、教員による学生個人への丁寧な指導や、教育の質を高めることで本人のやる気を引き出していくような努力が必要である。そのための対策を一つのシステムとして構築する必要がある。文科では、教務課と連携し、学生の個人面談等で、悩みを抱えている学生を早期に察知し対策が講じられるような仕組みを試みているところであるが、そのような試みを全学的に拡大していきたいと考えている。

近年の経済的な理由による退学者の増加については、従来の経済的な理由による修学困難者に対する奨学金「共立女子学園貸与奨学金」、「共立女子大学・短期大学給付奨学金」の他に、「経済危機特別給付奨学金」を臨時に設け、経済的な理由で就学が困難になった学生に対し退学という選択を回避出来るように支援している。

#### 【資格取得の取組みについて】

(1) 《教育の内容》の【教育課程について】(3)(8ページ)で報告頂いた取得が可能な免許・資格、また教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況(取得をめざした学生数、取得者数、取得割合等)を学科等ごとに示して下さい。

《教育の内容》の【教育課程について】(3)において報告した、取得が可能な免許・資格のうち、取得状況が判明しているものについて、以下の通り。

#### 生活科学科の免許・資格の取得状況

資格等名称	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
	取得を目指した学生数	取得者数	取得割合(%)	取得を目指した学生数	取得者数	取得割合(%)	取得を目指した学生数	取得者数	取得割合(%)
フードスペシャリスト	32	27	84.4	43	33	76.7	25	17	68.0
インテリアプランナー	9	-	-	4	-	-	4	-	-
インテリアCAD(初級)	-	43	-	-	38	-	-	28	-
インテリアCAD(中上級)	-	11	-	-	15	-	-	16	-

「取得を目指した学生数」は、資格取得のために必要な規定のカリキュラム履修者数をさす。

インテリアプランナーは、資格取得のために卒業後4年の実務経験が必要なため、まだ資格取得者が出ていない。

インテリアCAD(初級、中上級)は、教員による学習内容の証明と学生が作成したCAD作品の審査によ

って認定されるため、「取得を目指した学生数」に該当する数値がない。

### 文科の免許・資格の取得状況

資格等名称	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
	取得を目指した学生数	取得者数	取得割合(%)	取得を目指した学生数	取得者数	取得割合(%)	取得を目指した学生数	取得者数	取得割合(%)
TOEIC	95	92	96.8	210	200	95.2	178	174	97.8

### 看護学科

資格等名称	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
	取得を目指した学生数	取得者数	取得割合(%)	取得を目指した学生数	取得者数	取得割合(%)	取得を目指した学生数	取得者数	取得割合(%)
看護師免許証	86	85	98.8	93	90	96.8	83	79	95.2

### 正課外における免許・資格等の取得状況

資格等名称	学科	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
		取得を目指した学生数	取得者数	取得割合(%)	取得を目指した学生数	取得者数	取得割合(%)	取得を目指した学生数	取得者数	取得割合(%)
秘書技能検定2級	生活科学科	44	19	43.2	24	16	66.7	36	16	44.4
	文科	7	3	42.9	11	5	45.5	5	3	60
	看護学科	2	1	50.0	0	0	-	2	1	50
秘書技能検定準1級	生活科学科	4	1	25	0	0	-	5	1	20
	文科	1	1	100	4	3	75	1	0	0
	看護学科	0	0	-	0	0	-	0	0	-
日商簿記検定3級	生活科学科	1	0	0	3	0	0	6	3	50
	文科	3	1	33.3	4	1	25	3	0	0
	看護学科	0	0	-	0	0	-	0	0	-
ファイナンシャルプランニング技能検定3級	生活科学科	1	0	0	4	4	100	3	0	0
	文科	1	0	0	0	0	-	0	0	-
	看護学科	0	0	-	0	0	-	0	0	-
東商カラーコーディネーター検定3級	生活科学科	37	20	54.1	16	9	56.3	23	12	52.2
	文科	2	0	0	0	0	-	2	0	0
	看護学科	0	0	-	0	0	-	0	0	-
東商カラーコーディネーター検定1級1分野	生活科学科	6	1	16.7	1	0	0	0	0	-
	文科	1	0	0	0	0	-	0	0	-
	看護学科	0	0	-	0	0	-	0	0	-
東商カラーコーディネーター検定1級2分野	生活科学科	4	0	0	2	0	0	0	0	-
	文科	0	0	-	0	0	-	0	0	-
	看護学科	0	0	-	0	0	-	0	0	-
MOS Word	生活科学科	11	11	100	26	25	96.2	13	11	84.6
	文科	1	1	100	10	10	100	4	3	75
	看護学科	0	0	-	0	0	-	0	0	-
MOS Excel	生活科学科	3	3	100	32	29	90.6	23	22	95.7
	文科	1	1	100	17	16	94.1	7	5	71.4
	看護学科	0	0	-	0	0	-	0	0	-

(2) 今後導入を検討している免許・資格があれば記述して下さい。

生活科学科では、自立する女性の育成へ向けて、教育内容の充実を図ることを第一に、付加できる資格について考えている。免許・資格については、社会的な認知度や需要の程度と、学生の時間的負担や経費、さらには担当教員及び設備との関係を考慮しながら検討している。平成 19 年には、「衣料管理士 (Textiles Advisor) 二級」資格の導入を検討し始めたが、新たな「人材養成目的」が定められるのを待って、あらためて検討する予定である。

【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】

(1) 学科等ごとに専門就職 (当該学科等で学習した分野に関連する就職) の状況 (専門就職数、割合等) について記述して下さい。また学科等ごとに専門就職先からの卒業生に対する評価について何か文書や資料があれば参考資料として準備して下さい。

専門就職の状況

<生活科学科>

生活科学科のコース専門教育を活かした就職先として、生活環境情報コース (平成 18 年度までは情報メディアコース) の学生が、IT・情報通信関係企業へ、平成 18 年度は 4 名、平成 19 年度は 3 名、平成 20 年度は 2 名が就職した。生活アートコースの学生は、建設・繊維・衣服等関係企業へ、平成 18 年度は 20 名、平成 19 年度は 15 名、平成 20 年度は 18 名就職した。食・健康コースは、食品関係企業へ、平成 18 年度は 6 名、平成 19 年度は 8 名、平成 20 年度は 5 名就職した。

<文科>

文科のコース専門教育を活かした就職として、英語・英米文学コースの学生は、メーカー・サービス業関係企業 (海外事業・輸出業務) へ、平成 18 年度は 2 名、平成 19 年度は 1 名就職した。心理学コースの学生は、病院 (心療内科) へ、平成 20 年度に 1 名就職した。

<看護学科>

看護学科の学生は、病院関係に看護師として平成 18 年度は 74 名、19 年度は 76 名、20 年度は 69 名が就職した。

専門就職先からの評価

本学の卒業生は、生活科学科・文科とも、各企業からは、真面目で明るく、前向きで協調性もありコミュニケーション能力、自己表現力に優れていると高い評価を受けている。

看護学科卒業生も 3 期生を社会に送り出すに至り、各病院から良い評価を受けている。しかし、一部には、社会性、積極性が低いとの厳しい指摘も受けている。このための支援策を教員・学生課等と連携をとり検討している。

(2) 卒業生に対する就職先(専門就職に限らない)及びその他の進路先(編入先等)からの評価をどのように受け止めているかについて、短期大学全体については学長等が、学科等については学科長等が記述して下さい。

本学の学生に対する就職先からの評価についてであるが、良い面としては、真面目で意欲的、能力もあり、協調性がありマナーも良いといった点、コミュニケーション能力もおおむね良い評価がされている。悪い面としては、やや内向きであるとか、協調性がありすぎて同調しすぎる、という指摘がある。本学は3学科があり、看護学科の卒業生に対する評価と他の2学科の卒業生への評価は違ってくる。看護学科は就職先がほとんど病院であり、人の命にかかわる職業であるから卒業生に対する評価はより厳しいものになっている。

編入する学生については、併設の共立女子大学への進学がほとんどであるが、他大学からの評価はおおむね良い。ただ、一部の学生について編入先での学習意欲に欠けるか、もしくは学力が不足しているという指摘がないわけではない。そういった学生は、編入試験が免除される編入学特別推薦制度によって編入した学生であるので、短期大学側が学生を推薦する際には学生の特性や学力をよりきめ細かに勘案する事が課題である。

本学の建学の精神である「女性の自立と自活」は、社会でいかに自分をいかし自立していくかということの精神でもある。その意味では、特に就職先から、本学の学生は精神的に自立している、という評価がより目立つような教育をしていかなければならない。そのような評価は一部いただいているが、十分ではない。高い評価が多く得られるような教育を目指すことが、本学のこれからの課題であると考えている。

#### 生活科学科

就職先に関しては、本学科で学んだ専門領域を生かせる食物関連とアパレル関連会社へ就職する学生が毎年少数ながら出ていることは評価できる。しかし多くの学生は、一般事務員として、金融、メーカー、不動産、商事、百貨店・スーパー等へと進路先は多様である。専門に勉強した領域と直結する職場に就職が決まりにくい、という現実が存在する。ただし、生活環境情報コースと生活アートコースの学生は、コンピュータ・リテラシーを身につけているので、職種や部門を問わず、コンピュータ技術を生かして活躍していることを、卒業生から報告を受けている。

#### 文科

文科ではリテラシー教育を柱に据えてカリキュラムを編成してきた。例えば、文章表現や、プレゼンテーションの授業等を増やす努力をしてきた。このような教育を目指した理由の一つとして、以前から、就職活動などにおいて文科の学生は大人しい、上手く自分を表現出来ないといった声があがっていたからである。しかし、リテラシー教育のカリキュラムによって、コミュニケーション能力が高まり、積極的に自己を主張できるようになったのではないかと、就職先からの評価から受け取ることができる。今後リテラシー教育をさらに充実させ、コミュニケーション能力、自己表現力を高め、進路先から高い評価を得るように努める所存である。

## 看護学科

看護学科は平成 20 年度までの卒業生総数は 254 名であり、それぞれ大学病院や地域支援病院等に就職し活躍している。また、進学者は 22 名で、助産師、保健師、養護教諭などの資格取得を目指している。看護学科卒業生の就職先である病院を対象に行われた卒業生採用先調査（就職進路課）によると、卒業生の良い点は「就職先の新人コース教育プログラムの目標に順調に進んでいる」、「こつこつと頑張り、看護に対しても真摯に取り組んでいる」、「純粋で大切に育てられた家庭環境があり、飛躍的に成長している」である。悪い点は「おとなしい、積極性が出て欲しい」、「社会性に乏しい」などである。進学者は「他の学生と協調しながら、前向きに学習に取り組んでいる」である。これらのことから、看護学科の卒業生が職場や進学先で真面目に看護や学習に取り組んでいることについては、建学の理念や看護学科の教育目標などが実践で役立ち反映されていると思われる。反面、社会性や積極性に乏しい点が教育上の課題であることから、今後は、この課題を教員間で共有し、学生の生活指導や授業にフィードバックできるように取り組んでいきたいと思う。

(3) 卒業生に対して「学生時代についてのアンケート（卒業後評価等）」等を実施している場合はその概要とその結果を記述して下さい。また教育の実績や効果を確認するための卒業生との接触、同窓会等との連携等を行っている場合もその取組みの概要と結果について記述して下さい。

卒業生に対しては、「卒業後状況調査アンケート」を平成 20 年 3 月に実施している。調査対象者は、平成 15 年度および平成 5 年度の大学院、大学、短期大学卒業生である（回答対象延卒業生数 2,912 名、回答数 301、回答率 10.3%）。調査目的は、卒業生の状況を調査することにより、就職支援に役立てることであるが、設問項目に、「後輩学生へのアドバイス」を設け、「学生時代にやっておけばよかったこと」、「取得しておく役立つ資格」、「今後の大学教育に必要なと思われる教育カリキュラム」について記述式で設問している。

当該設問について、短期大学生の回答の傾向は以下の通りである。「学生時代にやっておけばよかったこと」については、「資格取得」、「英語など語学の習得」、「留学」などが多く挙げられた。「取得しておく役立つ資格」については、「英語に関する資格（TOEIC・英語検定など）」、「情報関連の資格（MOS など）」、「簿記」が多く挙げられている。「今後の大学教育に必要なと思われる教育カリキュラム」については、「情報関連（パソコン）のスキル」、「マナー・礼儀」、「コミュニケーション能力」、「英語力」についての教育が多く挙げられた。

今後、短期大学教育を充実させるための、卒業生とのコミュニケーションの充実およびそのための同窓会との連携の促進が課題である。

(4) 卒業生が社会からどのように評価されているか、学科長等、学長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

卒業生採用先へのアンケートや、就職説明会等で人事担当者に本学の学生への印象を聞くと、本学の学生はとても真面目であるという一定の社会的評価を得ていると感じる。

本学の建学の精神である「女性の自立と自活」は、本学の教育理念や教育そのものにおのずと反映し、また社会の本学の学生を見る一つの判断基準としても作用し、このような社会的評価につながっているのではないかと考えられる。このような評価は、一朝一夕で得られるものではなく、伝統と言っていいものであり、本学の長所の一つである。一方、多くの短期大学の現状として、少子化の到来とそれに伴う志願者の減少という事態の中で、入学者の学力の幅が大きくなってきており、以前のように卒業生に対する一定の学力を確保することが困難になってきている。本学でも例外ではなく、卒業生に対する一定の教育の質の確保へ向けた努力を怠ると、これまでに得てきた本学の卒業生に対する肯定的評価を失ってしまう結果になる。その意味では伝統に甘えてはられないより厳しい時代になってきていると認識している。(学長)

#### 生活科学科

様々な企業の人事担当者から生活科学科の卒業生についての印象を聞くと、素直で地道に頑張る、柔軟な思考ができるとの評価となっている。特に、生活アートコースの学生は、もともと「もの作り・手作り」の得意な学生が集まってきているのでクリエイティブで、そのため柔軟な思考を持っていることを、われわれ教員が実感しているところである。

#### 文科

文科の卒業生への社会的評価を特に調査したことがないので確定的なことは言えないが、企業の人事担当者から話を聞く機会があり、それによると、大人しく真面目であるというのが文科の卒業生に対する評価のようである。文科の中でも、英語・英米文学コースの卒業生は、語学が得意であるということもあり、より積極的な面が評価されていると考えられるが、日本語・日本文学コースの卒業生は、どちらかといえば文学が好きな内向的な傾向を持つので、積極性という面では評価は高くないであろう。心理学コースも似たところがあるので、積極的に自分を表現していけるような教育を、特に日本語・日本文学コースと心理学コースの学生に施していくことが今後の課題である。

#### 看護学科

看護学科の卒業生への社会的評価は、短期大学全体の評価とほぼ同じであり、真面目である。また、事例として病院へお見舞いに行った人から看護学科の卒業生の対応が親切であったという匿名のメールをもらっている。看護学科の卒業生の特色として、患者や家族に親切で真面目であることから、卒業生が社会において良好な評価を得ていると認識している。このことは、看護学科での3年間の教育期間を通して、常に問われていたことであり、臨床現場で活かされていることが評価されていると考える。一方、看護師として臨床では最も重要なアセスメント能力、判断能力が弱い点が指摘されていることは、今後、学生にフィードバックできるようにするためにも、看護学科全体で一層の努力が必要であると認識している。



【特記事項について】

(1) この《 教育目標の達成度と教育の効果》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教育目標の達成度と教育の効果について努力していることがあれば記述して下さい。

看護学科は卒業生が勤務する病院にアンケートを送り、教育目標の達成度と教育の効果について調査している。その概要は以下の通りである。

看護学科は平成 16 年に 4 月に開学し、平成 21 年 3 月に 3 回目の卒業生を社会に送り出した。2 回目の卒業生を送り出した後、勤務している 5 箇所の病院宛に「看護学科卒業生の教育効果」を評価するため、アンケートを実施した。

結果の概要については、以下に述べる通りである。まず、病院の人材ニーズや期待に応えているかどうかについては、「十分応えている」「どちらかといえば応えている」で施設側より満足度の高い評価を得ている。

次に、卒業生の意識や身につけている能力に関しては、仕事上の課題等に責任感・倫理観をもって取り組む姿勢を持っているとの回答が多く見られる。また、円滑なチームワーク、人間関係を築くことができているとの評価も高い。同時に、身だしなみや言葉づかいなど社会常識を身につけているとの評価も多く寄せられている。人としての誠実性・勤勉性・友愛といった共立女子学園の徳目が、卒業後、医療の現場で発揮されているといえる。

本看護学科の教育理念・教育目標に掲げている「科学的根拠に基づく看護 (EBN)」や看護実践能力育成の面では、アンケートの実施時期が卒業間もなくであるためか、「どちらかといえば効果が十分にでているとはいえない」という声が寄せられている。卒業直後、臨床においては学内と異なり、多様な業務を覚える必要性が高く、また環境に適応することが先決問題であり、こういう声があるということはやむを得ないと考える。この点は、卒業後 3 年目、5 年目、7 年目といった追跡調査をする必要があると考える。

この調査結果を受けて、今後も質の高い看護師教育の実現に向けて努力を重ねていく必要があると考える。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点求められることが実現 (達成) できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

## 学生支援

### 【入学に関する支援について】

(1) 入学志願者に対し、短期大学は建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像をどのような方法、手段で明示しているかを記述して下さい。なおそれらが記載されている短期大学案内等の印刷物を添付して下さい。

本学の建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像等は、学校案内パンフレット、ウェブサイト、受験生向け雑誌に記載し明示している。パンフレットは、オープンキャンパス、進学相談会や高校内説明会等で広く配付して説明を行っているほか、資料請求者には郵送している。また、高校教員対象説明会を毎年開催し、以上の項目について説明を行っている。

(2) 入学志願者に対し、入学者選抜の方針、選抜方法（推薦、一般、AO 入試等）をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。なおそれらが記載されている募集要項等の印刷物を参考資料としてご準備下さい。

入学者選抜の方針、選抜方法については、入試情報パンフレット、ウェブサイト、受験生向け雑誌に記載し明示しているほか、選抜方法ごとに学生募集要項を作成している。

また、オープンキャンパスや各種進学相談会での相談や、志願者・保護者からのE-mail や電話での問い合わせに対して、詳細に説明している。

(3) 広報及び入試事務についての体制（組織等）の概要を記述して下さい。また入学志願者、受験生等からの問い合わせにはどのような体制で応じているかを記述して下さい。

学生募集に関する広報については、入試事務室、入学生対策プロジェクトなどが企画立案し、入学試験委員会が総括した上で、学部長・科長会や教授会および事務局各部署と協同し全学協力体制で実施している。入試関連業務の作業プロセス全体については、入学試験委員会の管轄下で入試事務室での一元管理が実行できており、教員・事務職員等関係者が一体となった体制が確立されている。なお、ほとんどの活動を短期大学と併設している大学とで連携して実施している。

志願者や受験生からの問い合わせなどへの対応は、入試事務室で日常的に行っている。その対応如何では影響が大きい重要な活動であるため、関連部署との連携を図っている。見学予定については学内ネットワークに情報を流して周知を図ったり、対応スタッフの目的や方法を共有するなどして、対応している。志願者が本学に興味を持ち学校案内や願書を請求した場合、入試事務室に電話で直接請求があれば翌日、インターネットからの請求であれば最短2日～3日で、手元に届けられるように迅速に対応している。

なお、志願状況や合格状況に関する情報提供にあたっては、本学ホームページも活用している。

(4) 願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れについて、選抜方法ごとにその概要を記述して下さい。また多様な選抜を公正かつ正確に実施しているかどうか、入試事務の責任者は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。入学願書等を参考資料としてご準備下さい。

## 入学試験の流れの概要

### 一般入試

出願受け付け、受験票返送  
調査書審査、入学試験実施  
採点および採点結果システムへ入力(試験当日)  
入試問題の第三者評価を実施  
合否判定資料の作成および判定案の検討  
判定会(教授会) 学長承認 学園長承認  
合否発表

### 大学入試センター試験利用選抜

大学入試センター試験実施  
出願受け付け、受験票返送  
調査書審査、  
大学入試センターに志願者の成績請求、成績データをシステムへ取り込み  
合否判定資料の作成および判定案の検討  
判定会(教授会) 学長承認 学園長承認  
合否発表

### AOタイプ入試

AOタイプ入試エントリー  
模擬授業、感想文またはレポート、専任教員との面談  
出願可否通知(出願可と判断された者に出願書類送付)  
出願受け付け、受験票返送  
選考(書類審査、面接) 面接は生活科学科のみ  
採点および採点結果システムへ入力  
合否判定資料の作成および判定案の検討  
判定会(教授会) 学長承認 学園長承認  
合否発表

### 指定校制推薦入試

指定校の推薦基準・依頼人数決定  
高等学校長宛推薦依頼  
各高等学校から出願受け付け、受験票返送  
選考(書類審査、面接、作文または小論文)  
採点および採点結果システムへ入力(試験当日)  
合否判定資料の作成および判定案の検討  
判定会(教授会) 学長承認 学園長承認  
合否発表

### 公募制推薦入試

出願受け付け、受験票返送  
選考(調査書および各種資格・高校時の諸活動、小論文、面接)  
採点および採点結果システムへ入力(選考当日)  
合否判定資料の作成および判定案の検討  
判定会(教授会) 学長承認 学園長承認  
合否発表

### 卒業生子女推薦・海外帰国子女特別選抜・社会人特別選抜

出願受け付け、受験票返送  
選考（調査書、小論文、面接）  
採点および採点結果システムへ入力（選考当日）  
合否判定資料の作成および判定案の検討  
判定会（教授会） 学長承認 学園長承認  
合否発表

入学者選抜方法については、入学試験委員会の責任のもと各教授会で検討している。それぞれの受け入れ方針に沿って選抜方法・募集人数および判定基準などを決定している。いずれの入学者選抜の実施にあたっては、監督要綱を含む実施要項を作成し、担当者および関係部署へ配付し、注意を徹底し、万全の体制で実施している。

A0 入試、推薦入学者選抜や特別選抜などで実施する小論文や面接においても、その実施と採点には複数の教員が担当することにより、正確性や公正性を失わないよう配慮している。全体としては、入学者選抜方法のそれぞれの目的を逸脱することなく、適切な学生の受け入れが実行できているといえる。

受験生から受験に際しての特別措置（身体障害者等）の申し出等があった場合は、入学試験委員会や教授会で検討し、大学入試センター試験と同様に適切な受験対応ができていると考えている。

（5）合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供を行っているかを記述して下さい。なおそのための印刷物等があれば参考資料としてご準備下さい。

合格者に対しては合格通知書と入学手続書類等を合格発表当日に速達郵便で送付している。推薦入試等秋期入試の合格者に対しては、入学までの準備として学科ごとに事前学習課題を示し、進路決定後も学習意欲を継続させ、入学後に生かされるようにしている。

入学手続き者に対しては、入学前の準備としての情報をまとめ「入学のしおり」として郵送している。その中で入学式直前に実施する「英語プレイスメントテスト」についても通知している。

（6）入学後（入学直前を含む）、入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要を示して下さい。

入学式当日から授業開始前日までの8日間をオリエンテーション期間としており、担任ガイダンス、コースガイダンス、情報ガイダンス（情報処理演習室や学内ネットワークの利用方法についてのガイダンス）、学生課ガイダンス、海外研修・留学ガイダンス、就職進路課ガイダンス、図書館ツアー、新入生歓迎会などの一連のガイダンスを行っている。

### 【学習支援について】

(1) 入学時もしくは学期ごとに行っている学習や科目選択のためのガイダンス等の概要を示して下さい。

入学式当日から授業開始前日までの8日間をオリエンテーション期間としており、前述の学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要とも一部重なるが、教務課ガイダンス、担任ガイダンス、コースガイダンス、教務課履修相談、卒業研究・制作ガイダンスなどの一連のガイダンスを行っている。

本学では、科目履修登録をkyonet(以下(4)に記載)によって行うため、当該ネットワークの利用方法の周知を図りつつ、科目選択のためのガイダンスを行っている。

(2) 学習や科目選択のための印刷物(学生便覧等を除く)があれば参考資料としてご準備下さい。

印刷物として「履修ガイド」及び「講義概要」を学生に配付し、学習や科目選択の便を図っている。また、シラバスは、印刷はしておらず、学内ネットワークから閲覧可能である。

(3) 基礎学力不足の学生に対し補習授業等の取組みを行っている場合は、その概要を記述して下さい。

短期大学全体として特に基礎学力不足の学生に対する補習授業は行っていないが、各学科で取組みを行っている。文科では、入学前教育として、推薦試験で合格した入学予定者に対して、1月に学力到達度テストを行い、その結果を受け、基礎学力が不足していると判断した学生に高校基礎レベルの問題集(英語・国語)を送付し、入学までに行うように指導している。また、看護学科でも、入学前教育として、推薦入学者に対して入学手続き案内の中に学習課題を同封し発送している。主な課題は高校の生物、化学の復習、闘病記を読んで感想文を書くことであり、入学時に提出してもらい、教員が学習内容を確認している。こういった指導によって基礎学力不足という問題はある程度解決されると考えているが、入学後の学力調査やそれに対する補習等の対策は実施しておらず、今後検討しなければならないと考えている。

(4) 学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取組みや体制があれば、記述して下さい。通信教育学科を置く場合には、添削等などによる指導の学習支援、教育相談の体制及び運営状況を記述してください。

生活科学科では、実験、実習、演習の授業科目に授業担当助手が配置されており、学生の学習上の問題に対し、きめ細かく指導助言を行い、よく理解できるように対応している。講義科目については、主として教員へ積極的に質問等をすることを指導助言している。

文科では、毎年度、1年次、2年次の学生全員に対して教員と助手が協力の上面談を行い、学習についての不安や状況などについて聞くことにしている。それらの情報は学習カルテに記入し、学生の学習指導に役立てている。

看護学科では新学期のガイダンス期間を利用して、担任がクラスアワーを設け学生同

士の自己紹介を行っている。また、授業開始後早期に担任が分担して、面接を行い学習面や学生生活および経済面の状況を聴き、不安や心配ごとについて把握している。学生の状況によって早い対応が必要であると判断した場合には、学生の許可を得て関係部署と連絡をとり早期に解決を図っている。また、担任は随時学生の求めに応じて面接や相談に丁寧に対応している。後期にもクラス全員の面接を実施している。学生の面接記録は担任がノートに整理し保管している。また、看護学科は教員や助手が臨床実習で不在の場合があるので、学科ガイダンスで悩みや相談等については、いつでも、どの教員にでも、相談が可能であることを伝えている。このことは学生にも理解されこれまでに効果を上げている。

事務局においては、学習上の指導助言は主として教務課が担っている。教務課は、質の高い教育提供を支援し、学生を育むこと及び教員の教育研究活動を支援することを目的として、学生の履修行動の支援、学生の履修成果や基礎情報の管理、各種資格取得の支援などを行っている。また、本学には学生相談室を置いており、学習上の問題や悩み等の相談に、教務課等と連携して対応している。

また、平成19年度より共立女子大学・短期大学教育ネットワークシステム(kyonet)を導入した。Webを利用した学生の個人ポータルを通じて必要な情報をやりとりし、学習支援を行うシステムである。Kyonetには、履修登録や授業資料の配付など行う機能の他に、学生からの質問や相談に個別に回答する機能が備わっている。これを有効に活用することで、きめ細かな学習支援を実現してゆくこととしている。

(5) 進度の速い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行ってあれば、記述してください。

特に進度の速い学生に対する学習上の配慮としては、文科の次のケースがあてはまる。文科の英語・英米文学コースでの「TOEIC 演習 ~ 」の授業を行っているが、この授業はTOEIC 演習 が300点、演習 が500点取得を目標にした授業である。従って、すでにTOEIC500点以上を取得している学生であれば、TOEIC 演習 ~ 演習 の単位全てをA評価で認定することとしている。また全学共通教養教育の「英語」「英語」においても、TOEIC700点以上取得の場合およびTOEFL520点以上取得の場合、または実用英語技能検定準一級を取得の場合は、履修前もしくは履修中に本人から申請があれば単位を認定しその評価はA評価となる。それ以外では特に学習進度の早い学生に対する配慮や支援は行っていない。

#### 【学生生活支援体制について】

(1) 学生生活を支援するための組織や体制(教員組織、事務組織のいずれも)の現状を示して下さい。

##### 基礎ゼミナール

全学生が1年次の前期に全員が受講しなければならない演習形式の科目で、学科別に30名程度のクラスを設け専任教員が担当する。本学の学生として知っておくべきこと、自覚すべきことなど、学生生活全般の心構えやルールについて学び、自らの学習計画を立て、修学するための基本的な知識を身に付ける。

各種委員会（学生委員会、学生相談室運営委員会）

学生生活全般に関する重要事項を協議するために、学生委員会、学生相談室運営委員会を設置している。委員会の構成メンバーは、学長、各科教員、職員からなる。

学生課

学生生活全般の支援を行い、個別相談窓口となるのが学生課である。学生課には、保健室、学生相談室が所属し、学生の身体面、精神面の相談に専任職員が個別に対応している。

保健室

学内に2ヶ所設置され、4名の看護師が身体面・精神面の相談業務を行っている。学校医が週2日勤務し、学生との面談・診察や医療機関への紹介を行っている。

学生相談室

各科から推薦された教員3名、非常勤カウンセラー3名、専任職員2名がスタッフとして精神面の相談業務を行っている。

各学科での体制

生活科学科や文科では、クラス担任制を実施しており、クラス担任およびクラス担任助手が配置されている。学生生活において困難な問題が生じそうな場合にどのような支援ができるかについて1年次、2年次のクラス担任による定期的面接で説明し、困難な状態の時には、早急に対応できるように体制を整えている。

例えば生活科学科では、1年生を対象として5月に担任による個人面談を行っている。学校に馴染めたか、友人はできたか、卒業後の進路は考えているか等を質問する。2年時には、就職活動をどのように行っているかを中心に質問する。編入学希望者の場合は、どの大学のどの学部を希望しているか、そのためにどのような準備をしているか等を質問して、学生自身の自覚とやる気を起こすようにしている。

文科では、4月下旬に寮などで生活している地方出身の新生と教員との懇談会を開催している。同じ境遇の学生同士が知りあい友人を作るきっかけになればいいと考えている。

看護学科でも生活科学科や文科と同様にクラス担任制を実施している。各学年に専任教員2名と助手1名を配置し、クラスアワー、定期的面接や臨時面接を実施し、問題解決を図っている。また、必要時には関連部署と連携し支援している。

(2) クラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事（学園祭、短期大学祭等）の実施の状況を、その指導体制及び学生の活動状況を含めて記述して下さい。

クラブ活動の現状

本学のクラブ活動は、併設する大学と合同で活動しており、文化系 18 団体、稽古伝統芸能系 11 団体、音楽系 7 団体、体育系 15 団体が学内公認団体として登録されている。

各学内公認団体には、専任教員による顧問を置き、それぞれの団体運営等について支援している。また日常の支援は、学生課が窓口となり、活動における相談や、施設・設備・備品等の貸し出し、助成金による経済的支援等を行っている。また対外的活動は、原則として許可制としており、これは学生課が事前に活動内容を把握することで、活動に対するリスクの回避や適切な支援・助言を行うことに主眼をおいている。

公認団体が持ち回りで、構成員の中から1年任期で6名の役員を選出し、学内公認団体連合会を組織している。この連合会は、各公認団体の意見の取り纏めや調整を行い、また学生課と連携して新入生勧誘等の行事を実施している。

#### 学友会の現状

本学においては、学友会またはそれに類する学生活動は行われていない。

#### 学園行事の実施状況

本学における学園祭は、共立祭と称し毎年10月下旬、同一キャンパス内で併設している大学及び中学・高等学校と同日開催をしている。そのうち大学・短期大学エリアについての運営は、公認団体の構成員の中から持ち回りに1年任期で選出される10名程度の役員と有志の参加者とが協力して共立祭運営委員会を組織し、自主的な運営を行っている。

内容は、学内公認団体や有志団体による展示、研究発表、模擬店等のほか運営委員会企画として卒業生である桂由美先生の協力によるブライダルショーや芸能人によるトークショーなどを行っている。

実施支援の窓口は学生課が担い、共立祭運営委員会と協力しての運営支援、各団体への備品等の貸し出しやその他実施に係る相談、食品を扱う団体への衛生指導などを行っている。

(3) 学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要について記述して下さい。なお訪問調査の際にご案内いただきます。

#### 学生の休息のための施設・空間

##### ・学生ラウンジ

本館各階に12箇所、20~30名収容(テーブル・椅子を配置)授業の休み時間、空き時間、昼休みに自習・談話・食事等に利用されている。

##### ・学生サロン

2号館1階に2室、各室約65㎡(テーブル・椅子を配置)パソコン(web対応)、テレビ、無料コピー機、輪転印刷機、湯沸しポットを設置。授業の空き時間、昼休み等にネット検索・自習・談話・食事等に利用されている。

##### ・本館屋上庭園

低木、草花を植栽し小さい池を配置した庭園が屋上(約500㎡)にあり、ベンチを配置。気候の良い時には休息の場として利用されている。

##### ・2号館中庭

全体にウッドデッキを敷きパラソル付テーブルとベンチを配置(約200㎡)晴



れた日には食事や休息に利用されている。

#### 保健室

本館1階にベッド4床・折りたたみベッド1台、3号館2階にベッド2床・折りたたみベッド1台の保健室を設置し、学生の病気やけがの応急処置・休息に利用されている。必要に応じ近隣の医療機関を紹介、また健康相談にも応じている。

#### 食堂・売店

食堂は本館4階に約380名収容と3号館地階に約120名収容(軽食堂)がある。営業に関しては食堂業者に委託している。管理運営に関しては学生課と食堂業者が担当している。また、メニュー・価格等について学生等の意見を検討し可能な限り反映している。なお、4月当初の混雑時にはスムーズに食事が出るよう学生課課員が学生の誘導を行なっている。売店は本館4階食堂の一角(約50㎡)に設置している。販売品目は食品、文具、日曜雑貨と自家製パンを扱っており、レトルト食品・即席めん用の電子レンジ・湯沸しポットを設置している。

(4) 短期大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舍の斡旋の体制、通学のための便宜(通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等)の概要を示して下さい。

平成17年4月より、東京都杉並区に下記の通り学生寮を開設した。これは、用地を50年の一般定期借地権を付けて事業主に提供、施設整備と運営を委託して運営する形態をとっている。

- ・所在地：東京都杉並区成田東
- ・キャンパスまでの所要時間：電車と徒歩で約50分
- ・収容人数：243名
- ・食事：希望制
- ・併設する大学と共通に設置

学生寮以外の下宿・アパート等の宿舍の斡旋については、女子学生専用の寮・アパートを中心とする、住まいの紹介業務を、指定業者に委託している。

通学のための便宜については、本学は都心の東京都千代田区に位置し、複数の地下鉄の駅から徒歩1~5分以内であり、アクセスが非常に良いため、電車または徒歩での通学を原則とし、駐輪場、駐車場の設置はない。

ただし、健康上、その他の特別な事情がある学生より申し出があれば、面談の上、自転車または自動車での通学を許可し、駐輪・駐車のエリアを確保するなどの対応を行っている。

(5) 平成 20 年度の日本学生支援機構等の外部奨学金の取得状況を記述して下さい。また短期大学独自の奨学金等があればその概要を記述して下さい。

#### 外部奨学金の取得状況

日本学生支援機構奨学金の実績は 319 名で、利用者は在籍学生の約 28% である。また、平成 17 年度に施行された三井記念病院奨学金は本学看護学科 2・3 年次に在籍し、臨床看護師をめざす学生を対象とする。利用者は 24 名で、対象学生の約 13% である。

奨学金名称	種別	奨学生数
日本学生支援機構奨学金	貸与	319
東京都看護師等修学資金	貸与	3
大田区奨学金	貸与	1
岩手県看護職員修学資金	貸与	1
三井記念病院奨学金	貸与	24

#### 本学独自の奨学金状況

共立女子大学・短期大学給付奨学金は平成 18 年 12 月に施行され、在学中に家計が急変し、修学の継続が困難になった学生を対象とする。20 年度は該当者なし。

廣川シゲ給付奨学金は平成 19 年度に施行され、学内外における諸活動に成果をあげた学生に褒賞金を授与し、かつ顕彰することを目的とする。平成 20 年度の実績は東京都私立短期大学協会学生英語スピーチコンテスト入賞者 1 名である。

共立女子大学・短期大学国際交流奨学金は平成 18 年 10 月に施行され、留学および海外研修を奨励し、国際理解を深め国際交流を振興することを目的とする。平成 20 年度は該当者なし。

(6) 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要を示して下さい。

学生の健康管理について、定期健康診断を年 1 回実施し学校医と連携して対応している。また、学校医が週 2 日在勤して、学生の面談・診察、医療機関への紹介をおこなっている。健康相談に関しては、学内外の関連部署との効果的な連携で継続的な支援体制を図っている。応急処置は 2 箇所の保健室でシフト制を導入し、月曜日～金曜日は 9 時～19 時、土曜日は 9 時～13 時まで看護師が対応している。その上、緊急の医療機関受診時の付添いや、場合によって居住地まで搬送することも日常業務として行い、学生の健康と安全を最優先している。

メンタルケアやカウンセリングについては学生相談室が対応している。月～金曜日は 9 時～18 時、土曜日は 9 時～12 時 30 分まで専門職員が常駐している。

メンタルケアについては、平成 18 年 9 月から精神科医が配置され、学生のこころのケアへの対応が強化された。平成 19 年、20 年には同精神科医による教職員対象のワークショップを開催、「教職員のための学生対応ハンドブック」を作成するなどして、教職員の学生へのかかわり方についてのスキルアップを図っている。さらに予防教育の一環として、新入生対象にストレスについての出前講義を実施している。

カウンセリングについては、心理カウンセラー（非常勤）を 3 名配置し（40 時間 /

週) 学生の心理相談に当たっている。また、相談員(教員、心理カウンセラー、専任職員)連絡会を年2回開催し情報交換を行っている。発行物は、「学生相談室報告」(教職員向け)を年1回、「学生相談室だより」(学生向け)を年2回、「学生相談室あんない」(新入生向け)を年1回発行し配付している。

(7) 学生支援のために学生個々の情報等を記録していれば、それらはどのように保管・保護されているかを記述して下さい。

学籍簿、現住所等確認・登録票等を入学式翌日に提出させる。

学籍簿は、全て教務課で保管している。在籍時は、耐火庫に保管。卒業後は、施錠できる部屋(学籍資料室)に保管している。

現住所等確認・登録票等については、学生課で施錠できる書庫に保管している。

現住所等確認・登録票はデータベース化し、システム管理を行っている。登録票はデータベースとの相違が無いことを確認した上、全てシュレッダーにかけ、処分している。

システム管理については、限られた職員で行い、ID及びパスワードで閲覧制限を掛け、厳重に管理している。

また、学生の個人情報も Kyonet に保管されている。Kyonet にアクセスするには ID とパスワードが必要である。また、個人情報の中でもプライバシーに関する個人情報については、担任教員や学科長にしか閲覧出来ない仕組みになっている。

生活科学科では、従来学生に提出させていた学生票(学生の個人情報が記載されたカード)を廃止し、上記の通り Kyonet を活用している。

文科では学習カルテを作成し、学生個人の学生生活や学習上の情報をそこに記載し、学生生活や学習指導に役立てている。学習カルテのファイルに入れ、文科長室の鍵のかかる書庫に保管してある。ファイルの書き込み閲覧は、担任の教員と担当の助手、学科長、学科長の許可を受けた者以外は出来ない。ファイルの出し入れは文科長室の許可を受け、出し入れ記録を必ずつけなければならない、出したら必ず当日に戻さなければならないようになっている。また、学習カルテは学生が卒業後3年間保存し廃棄することになっている。

看護学科では学生の個人情報の取り扱いは、学園全体の規定に従って実施している。学生名簿の作成は教員が個々に行うことは禁止されている。学生に連絡する場合は教務課から連絡してもらう。写真撮影が必要な場合には本人の同意を得てから行う。学生の面接記録は学科長室の鍵のかかる戸棚に保管し管理している。

【進路支援について】

(1) 下の進路状況表を例に、過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の就職状況を学科等ごとに記載して下さい。また進路一覧表等の印刷物があれば参考資料としてご準備下さい。

平成18年度～20年度 生活科学科の進路状況表

(平成21年3月31日現在)

区分	18年度	19年度	20年度
a 卒業者数	172人	174人	159人
b 就職希望者数 b/a	113人 65.7%	123人 70.7%	102人 64.2%
c うち学校で斡旋した就職者数 c/b	69人 61.1%	73人 59.3%	61人 59.8%
d うち自己開拓分就職者数 d/b	32人 28.3%	38人 30.9%	29人 28.4%
e 就職未定者 e/b	12人 10.6%	12人 9.8%	12人 11.8%
f 進学・留学希望者数 f/a	49人 28.5%	45人 25.9%	34人 21.4%
g 進学・留学者 g/f	45人 91.8%	43人 95.6%	33人 97.1%
h 進学・留学準備中 h/f	4人 8.2%	2人 4.4%	1人 2.9%
i その他進路決定者 i/a	8人 4.7%	6人 3.4%	15人 9.4%
j 不明・無業者数 j/a	2人 1.2%	0人 0.0%	8人 5.0%

平成18年度～20年度 文科(文科第一部)の進路状況表

(平成21年3月31日現在)

区分	18年度	19年度	20年度
a 卒業者数	191人	191人	194人
b 就職希望者数 b/a	141人 73.8%	113人 59.2%	112人 57.7%
c うち学校で斡旋した就職者数 c/b	71人 50.4%	68人 60.2%	59人 52.7%
d うち自己開拓分就職者数 d/b	43人 30.5%	29人 25.7%	34人 30.3%
e 就職未定者 e/b	27人 19.1%	16人 14.1%	19人 17.0%
f 進学・留学希望者数 f/a	37人 19.4%	53人 27.7%	55人 28.4%
g 進学・留学者 g/f	35人 94.6%	50人 94.3%	54人 98.2%
h 進学・留学準備中 h/f	2人 5.4%	3人 5.7%	1人 1.8%
i その他進路決定者 i/a	11人 5.8%	16人 8.4%	17人 8.8%
j 不明・無業者数 j/a	2人 1.1%	9人 4.7%	10人 5.2%

文科第一部は、平成19年度より文科に名称変更

平成 18 年度～20 年度 文科第二部の進路状況表

(平成 21 年 3 月 31 日現在)

区分	18年度	19年度
a 卒業者数	29人	25人
b 就職希望者数 b/a	8人 27.6%	5人 20.0%
c うち学校で斡旋した就職者数 c/b	1人 12.5%	2人 40.0%
d うち自己開拓分就職者数 d/b	5人 62.5%	1人 20.0%
e 就職未定者 e/b	2人 25.0%	2人 40.0%
f 進学・留学希望者数 f/a	9人 31.0%	9人 36.0%
g 進学・留学者 g/f	9人 100.0%	8人 88.9%
h 進学・留学準備中 h/f	0人 0.0%	1人 11.1%
i その他進路決定者 i/a	11人 37.9%	8人 32.0%
j 不明・無業者数 j/a	1人 3.4%	3人 12.0%

文科第二部は、平成 20 年 3 月に廃止

平成 18 年度～20 年度 看護学科の進路状況表

(平成 21 年 3 月 31 日現在)

区分	18年度		19年度		20年度	
a 卒業者数	84人		88人		79人	
b 就職希望者数 b/a	75人	89.3%	78人	88.6%	69人	87.3%
c うち学校で斡旋した就職者数 c/b	64人	85.3%	67人	85.9%	57人	82.6%
d うち自己開拓分就職者数 d/b	11人	14.7%	11人	14.1%	12人	17.4%
e 就職未定者 e/b	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%
f 進学・留学希望者数 f/a	8人	9.5%	8人	9.1%	7人	8.9%
g 進学・留学者 g/f	8人	100.0%	8人	100.0%	7人	100.0%
h 進学・留学準備中 h/f	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%
i その他進路決定者 i/a	1人	1.2%	2人	2.3%	2人	2.5%
j 不明・無業者数 j/a	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	1.3%

(2) 学生の就職を支援する組織や体制(教員組織、事務組織のいずれも)の現状を記述して下さい。

就職進路課は大学・短期大学担当として専任事務職員7名と派遣職員2名で構成されている。そのうち主に短期大学を担当する専任事務職員3名が、就職・進学全般にわたる卒業後の進路に向けてのサポートを行っており、各種ガイダンスの実施と個別対応を支援の柱としている。

入学後のオリエンテーション時に「キャリアデザインガイド」を配付し、進路決定が早期にできるように促している。また、1年生の前期に進路確認を主とした個別面談を

全員を対象に実施している。ガイダンスは、就職活動準備・筆記試験対策・自己分析・情報収集・履歴書対策・面接対策を中心に、講義と実践を取り入れたプログラムで構成している。

平成 21 年 4 月からは、キャリアカウンセラーの資格を有した職員 3 名（専任事務職員 1 名、派遣職員 2 名）による「相談コーナー」を設置し、相談業務の充実を図っている。

教員は、各学科において個別面談を行い、クラス担任を中心に支援する体制をとっている。教職員は、情報交換のための懇談会を設けるなど、年間を通して相互の協力・情報交換を行い、全学的な体制で学生をサポートしている。

(3) 就職支援室、就職資料室等の現状を示し、学生にどのように就職情報等を提供しているかを記述して下さい。

就職進路課には、書籍・個別相談コーナー、進路資料室 2 室を設置している。進路資料室 1 室は、個別相談ができる部屋になっており、もう 1 室には、2 年度分の企業求人情報、公務員の募集情報、会社概要・パンフレットをファイルし開示している。また、大学編入学情報、専門学校情報、Uターン情報、インターンシップ情報、求人票をそれぞれ掲示している。新聞、雑誌の閲覧もでき、パソコンを 4 台設置して進路関連情報やインターネット検索など学生が自由に閲覧できるように開放している。

学生への連絡（ガイダンスや各種情報など）は、掲示とともに kyonet 上へ配信し、該当する全学生へ漏れのないよう周知している。また、就職活動期の学生への求人に関しては、kyonet の求人検索システムにより、届いている全ての求人票を PDF ファイルで公開しており、自宅からも検索、確認できる環境を整えている。また、希望者にはメールマガジンとして、学校推薦や推奨求人の情報を配信するなど、短期大学に届く求人の活用を促している。

教職員ともに、学生には個別に電話やメールで連絡をとり、積極的に就職活動を支援している。

(4) 過去 3 ヶ年（平成 18 年度～20 年度）の就職状況について、就職率及び就職先を学長等、学科長等はどのように受け止めているかを記述して下さい。

就職希望者に対する就職者の割合の過去 3 ヶ年の傾向は、生活科学科と文科がほぼ 80%～90%を推移しており、看護学科は毎年度 100%となっている。平成 20 年度は、100 年に一度の不況と言われる経済状況の厳しさもあり就職未定者の割合が多く、その対策が課題である。看護学科をのぞいて、生活科学科と文科は卒業生に対する進学・留学希望者数が一定数存在する。生活科学科は、減少傾向にあるものの、20%台を推移し、文科は、平成 18 年度以降増加傾向にあり、平成 19 年度は 28.4%となっている。

就職先は、看護学科は殆どが病院であるが、生活科学科と文科はサービス業を中心とした様々な職種の企業となっている。短期大学の特徴として、就職先に事務・営業が多くなるのは以前からの傾向である。自分の希望する職業に正社員として就職できることが理想だが、一方で、様々な働き方があり、就職という進路を選択しない学生も増えている。ただ、派遣社員の一斉解雇やワーキングプアなどが社会問題化している現状を鑑

み、自立した社会生活と自己実現が可能となるような進路指導の充実が課題である。(学長)

#### 生活科学科

平成 20 年度は平成 19 年度に比べて就職率が若干減少した。これは、主として経済状況の悪化が原因だと思われる。生活科学科の学生の就職先はサービス業を中心に多岐にわたっており、その傾向に変化はない。生活科学科ではインターンシップを行い、学生の就職活動に対する意識を高める努力を行っているが、この努力をさらに強めていかなければならないと実感している。

#### 文科

文科の就職状況であるが、平成 18 年度に比べ平成 19 年度は良くなった。だが、平成 20 年度は経済状況の悪化もあり、就職率は厳しくなっている。かつて文科の就職先は、東京の中心に位置するという地の利と、歴史や伝統もあって、大手商社や大手銀行の事務職が目立ったが、さすがに最近では少なくなってきた。職種は事務や営業が中心であるが、現在は、様々な職種の企業が就職先になっている。大手企業への就職が減り、ベンチャー企業などを含む中小企業への就職が増加する傾向があるが、それは、実力の発揮ややりがいを求める志向が強いことのあらわれでもある。従って、学生が自ら企画し実現していく創造性や行動力を培う教育を今後よりいっそう行っていく必要がある。

#### 看護学科

看護学科の卒業生の就職率は看護職として、過去 3 年間では 97% 以上である。残り 3% は、卒業後家事や育児、健康に問題があり就職をしていない。就職先は東京都内の地域支援病院や大学病院が最も多く、次に関東圏内の大学病院や総合病院であり、新人教育や看護レベルも高く定評のある病院である。就職した卒業生全員は自らが希望した病院に就職できている。そのことを大切にして、共立女子学園の教育理念や看護学科の人材養成目的などを仕事の糧として、社会で活躍してくれることを期待したい。

(5) 過去 3 ヶ年(平成 18 年度～20 年度)の進学(四年制大学、専門学校等)及び海外留学の実績について、その支援はどのような方法、体制で行ったかを記述して下さい。

過去 3 ヶ年の各科における進学及び海外留学の実績は下表の通りとなっている。

四年制大学への編入学者数のうち、生活科学科は約 50～70%、文科は約 70～90%が併設の共立女子大学への編入学者となっている。特に文科では、共立女子大学への編入学者数が増加傾向にある。看護学科の学生は、共立女子大学への編入学者数は 0 である。看護学科の学生が進学する大学や専門学校は、看護学部や保健師、助産師学校、養護教諭課程である。

進学及び留学に対する支援・相談体制としては、他大学への編入学情報提供・相談、専門学校への進学情報提供・相談は、就職進路課で行い、留学相談は国際交流室が担当している。就職進路課では、編入学ガイダンス、編入学体験報告会、編入学試験対策講

座を実施している。また、共立女子大学への編入学についてのガイダンスや相談は、入試事務室が実施している。

支援・相談にあたっては、各学科教員と緊密に連絡を取り、個別に指導を行っている。また、編入学後の勉学や単位認定に備えて、外国語は4単位以上、関連専門科目もできるだけ多く履修するよう奨励している。

共立女子大学への編入学には特別推薦枠がある。推薦にあたっては1年次の成績が重視されることを周知しているが、その他には、編入先の学部の紹介や編入するに当たっての推薦の仕組みや編入試験の情報を伝えているのみである。これは、他大学の編入推薦や編入試験についても同様である。なお、生活科学科では、編入学希望の学生に対し、チャレンジゼミナールで指導している。

#### 進学及び海外留学の実績（平成18年度～20年度）

（単位：人）

学科	区分	平成18年度	平成19年度	平成20年度
生活科学科	四年制大学 編入学（共立女子大学）	17	17	13
	四年制大学 編入学（他大学）	10	7	14
	短期大学進学	0	2	1
	専門学校進学	18	14	5
	留学	0	3	0
文科	四年制大学 編入学（共立女子大学）	19	29	40
	四年制大学 編入学（他大学）	7	9	6
	短期大学進学	0	0	0
	専門学校進学	6	10	6
	留学	3	2	2
文科第二部	四年制大学 編入学（共立女子大学）	7	6	-
	四年制大学 編入学（他大学）	0	2	-
	短期大学進学	0	0	-
	専門学校進学	1	0	-
	留学	1	0	-
看護学科	四年制大学 編入学（共立女子大学）	0	0	0
	四年制大学 編入学（他大学）	6	7	7
	短期大学進学	1	1	0
	専門学校進学	1	0	0
	留学	0	0	0

#### 【多様な学生に対する支援について】

（1）過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の留学生・社会人・帰国子女・障害者・長期履修学生・科目等履修生の受け入れ状況を示し、その学習支援、生活支援はそれぞれどのような方法、体制で行っているかを記述して下さい。なお、学生数はいずれの年度も5月1日時点とします。

次頁へ



多様な学生の受入れ状況（平成 18 年度～20 年度）

種別	18 年度	19 年度	20 年度	計
留学生（人）	0	0	0	0
社会人（人）	11	8	10	29
帰国子女（人）	0	0	0	0
障害者（人）	1	1	1	3
長期履修学生(人)				
科目等履修生(人)	5	7	8	20

留学生とは日本国籍を有しない者で、勉学を目的として来日した者。

社会人の定義（受験資格）は入学時に満 22 歳以上で、高等学校を卒業した者あるいは通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者あるいは高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者。

帰国子女の定義（受験資格）は日本国籍を有し外国で教育を受け、入学時に満 18 歳以上で下記のいずれかに該当し、かつ日本語の講義を理解できる能力を持つ子女。

- 1) 外国の高等学校に最終学年を含め 2 年以上在籍し、卒業または卒業見込みの者（ただし卒業後 2 年以内であること）
- 2) 外国の中・高等学校を通じ継続して 2 年以上教育を受け、日本の高等学校の 2 年次以上

#### 留学生

留学生試験制度はなく受入れ実績はない。

#### 帰国子女

海外帰国子女選抜試験を実施し受け入れている。学習支援、生活支援は、一般の学生と同様の方法・体制で行っている。

#### 社会人

社会人特別選抜試験を実施し受け入れている。受入れ数の平成 18 年度は夜間部があり勤労学生を含む数になっている。学習支援、生活支援は、一般の学生と同様の方法・体制で行っている。

#### 障害者

過去 3 ヶ年の障害者は肢体不自由者のみである。

平成 18 年度の 1 名（2 年生）について、入学時に施設の配慮としてスロープ、専用駐車場を設けるとともに、エレベータ、トイレ、教室の机を改良した。また、学習支援として「体育実技」科目を講義科目に読み替えた。

平成 19 年度・20 年度について、各 1 名在籍したが、生活支援の申し出は無かった。

長期履修学生

長期履修学生の制度はない。

科目等履修生

科目等履修生制度により受け入れている。学習支援、生活支援は、一般の学生と同様の方法・体制で行っている。

#### 【特記事項について】

(1) この《 学生支援》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、学生の個人情報保護への取り組み、成績不良者への支援・長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していることがあれば記述して下さい。

生活科学科

学生の個人情報について、「KYORITSU OFFICIAL GUIDE」をはじめ、生活科学科独自で発行する「生活科学科ニュース」や「生活科学科卒業研究・卒業制作要旨集」等の紙上において、写真や個人名等が特定できない措置をとっている。どうしても顔が出てしまう写真の場合は、学生本人から事前に了承を得ることを義務付けている。

成績不良者と長期欠席者への支援・援助は、次の方法により対応している。成績不良者の場合、特に食・健康コースの学生には、数値の計算能力が問われるので、「生活基礎演習」という正規のクラスで、質量、体積、密度、濃度、溶液等計算を総復習させている。長期欠席者の場合、学期途中で教務課が学生を呼び出し注意する以外に、クラス担任教員が学生面談を行い、欠席が多い学生に口頭で注意をしている。学年末に留年が決定した学生に対しては、担任、あるいは、主任や科長が、学生本人、場合によっては保護者に来校してもらい面談で事情を明らかにしている。

学生に対する表彰制度は、生活科学科では特に行ってこなかった。しかし、教員によっては学生が作成した作品をコンテストに出品することを奨励し、複数年にわたり連続で受賞するという成果も出ている。

文科

文科では長期欠席者に対しては担任の教員が学生の呼び出しを行い、それに応じなければ自宅に連絡するなど対策を講じている。また、文科ではリテラシー教育をかかげており、正課以外でも、千字エッセイコンテスト(年2回)、英語スピーチコンテスト(年1回)を行い、優れた者を表彰している。それらの参加者や優秀な者にはリテラシーポイントを与え、また、文科読書室にある図書の読書レポートを提出したのものにもリテラシーポイントを与えている。この他にリテラシーポイントを一年で20点以上貯めたものには表彰し記念品を与えている。以上のように、学生が発表したり書いたりする機会を与え、また表彰される機会を多く与えることで、学習意欲が高まることをねらいとしている。

## 看護学科

看護学科での学生の個人情報保護への取組については、前述の学生生活支援体制の(7)で述べた。成績不良者への対応は教務委員長、担任、科目担当者などが面接をして、成績評価を提出する前までに、再度学習の機会を与え、レポートや再評価試験を実施している。改善されない場合には保護者へ連絡し、今後の対応について面接をしている。

長期欠席者に対しては、担任や教務課から連絡し学生の呼び出しを行っているが、なかなか応じない事例もある。その場合は保護者に連絡し、学生と一諸に来校してもらい主に担任が面接を行うが、場合によっては本人や保護者の許可を得て、教務委員長や学科長が面接に同席をしている。学生に対する表彰制度は設けていないが、学生が看護学科の過密なカリキュラムを乗り越えることができ、また、学生に学習意欲や学習する楽しさを与えるきっかけとなれば、表彰制度の導入も検討の余地があると思う。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

### 【添付資料】

#### ・短期大学案内

添付資料1 (KYORITSU OFFICIAL GUID) 、添付資料2 (KYORITSU GUIDE BOOK (入試情報・学びと生活情報・進路情報)) を参照。その他の短期大学案内は以下の通り。

- 8 KYORITSU STYLE
- 9 共立女子短期大学生生活科学科ニュース
- 10 共立女子短期大学文科パンフレット
- 11 Nursing (共立女子短期大学看護学科案内)

## 研究

### 【教員の研究活動全般について】

(1) 次の「専任教員の研究実績表」を例にして過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の専任教員の研究状況を記載し、その成果について記述して下さい。

平成18年度～20年度 専任教員の研究実績表（生活科学科）

学科等名	氏名	職名	研究業績				国際的 活動の 有無	社会的 活動の 有無	備考
			著作数	論文数	学会等 発表数	その他			
生活科学科	植木 武	教授		1	9	16	有	無	
	岡田 悟	教授	1	7	5	2	無	有	
	榎野 悦子	教授		6			無	無	
	黒澤 美智子	教授		2	1	1	無	有	
	児玉 好信	教授		4	3	1	無	有	
	巽 佐智江	教授	1				無	無	
	田中 直義	教授	3	4	7		有	有	
	津田 淑江	教授	2	15	23	6	有	有	
	山森 芳郎	教授	4	2	1	3	無	有	
	三ツ井 直樹	准教授				7	無	有	
	山口 庸子	准教授	3	5	15	7	有	有	
	渡辺 明日香	専任講師	1	10	11	6	無	有	

平成18年度～20年度 専任教員の研究実績表（文科）

学科等名	氏名	職名	研究業績				国際的 活動の 有無	社会的 活動の 有無	備考
			著作数	論文数	学会等 発表数	その他			
文科	岡部 隆志	教授	6	7	2	4	有	無	
	今井 佐智子	教授					無	無	
	大川 明	教授	1	1			無	無	
	下田 邦枝	教授		1			無	無	
	高橋 修	教授		1			無	無	
	浜田 一字	教授		3			無	無	
	J.S.プロディ	教授		1			無	無	
	前之園 亮一	教授		2			無	有	
	新井 洋二	准教授					無	無	
	植田 恭代	准教授		1		2	無	無	
	鶴田 達成	准教授	2				無	無	
	西村 厚子	准教授		1			無	無	
	C.A.ピッツ	准教授					無	無	
	上淵 真理江	専任講師		2		3	無	有	

平成 18 年度～20 年度 専任教員の研究実績表（看護学科）

学科等名	氏名	職名	研究業績				国際的 活動の有無	社会的 活動の有無	備考
			著作数	論文数	学会等 発表数	その他			
看護学科	矢野 章永	教授	3	6	10		無	有	
	真部 昌子	教授	3	9	12		無	有	
	廣瀬 信子	教授	1	4	6		無	有	
	福山なおみ	教授	4	8	7		無	有	
	斉藤 孝子	准教授		4	5		無	有	
	菱刈美和子	准教授	1	8	6		無	有	
	藤井智恵美	准教授		2	5		無	有	
	石川 幸代	専任講師	3	6	5		無	有	
	小野智佐子	専任講師					無	有	平成20年4月採用
	佐野 望	専任講師	1	6	7		無	有	
	佐藤 和子	専任講師					無	有	平成19年4月採用
	武田 美和	専任講師		9	12		無	有	
	田崎知恵子	専任講師	1	9	12		無	有	
	中澤 明美	専任講師		9	10		無	有	
	西 留美子	専任講師		6	8		無	有	

研究の状況と成果については、生活科学科津田淑江教授の「食の関連課題の調理的視点からの研究」は平成 20 年度の日本調理学会賞を受賞した。また、山口庸子准教授が研究代表者である「LCA 思考に基づく家庭洗濯の環境負荷削減に関する研究及び教育支援プログラムの開発」は日本学術振興会の科学研究費補助金を取得している。田中直義教授は中国西南地域や東南アジアにおける発酵食品の実地調査研究を続けており成果を学会等で発表している。また文科の岡部隆志教授も中国西南地域の少数民族文化調査を続けその成果を学会等で発表している。看護学科でも「ケアリングと健康生成論」「在日外国人母子の育児支援の現状と課題」「高齢者の長寿信念行動と関連要因の検討」といったテーマによる研究が行われ、その成果を論文として発表している。

以上、研究成果をあげている教員は少なくはないが、教員によって研究業績の多寡に差異が見られる。ただし、この表は過去 3 年のものであり、現在研究の過程にあり成果がまだ発表できる段階でないケースもあることや、共同研究が多い理科系の教員が共同研究の少ない文系の教員よりも論文数が増える傾向にあることも考慮に入れなければならないだろう。

現在、教育や学校運営上の業務に時間をとられることが多くなり、個々の教員にとって、研究時間とのバランスをとることが課題となっている。そういった状況のなかで、研究成果をあげていく努力や工夫が学校側にもまた個々の教員にも求められている。

(2) 教員個人の研究活動の状況を公開していれば、その取組みの概要を記述し、公開している印刷物等を訪問調査の際にご準備下さい。

本学では下記の通り、研究活動の状況を公開している。

- ・各科発行の紀要に、専任教員の研究活動状況を記載。
- ・研究開発支援総合ディレクトリ (ReaD) に、研究活動状況を公開。
- ・ホームページの教員紹介欄において、研究テーマ等を公開。

- ・文科、看護学科においては、受験生向け広報誌においても専任教員自身が研究テーマ等を説明している。

(3) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の科学研究費補助金の申請・採択等、外部からの研究資金の調達状況(件数)を一覧表にして下さい。

外部研究資金の申請・採択状況(平成18年度～平成20年度)

(件数)

外部資金調達先等	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
	申請	採択	継続	申請	採択	継続	申請	採択	継続
科学研究費補助金	4	0	2	5	1	1	6	0	1

その他の外部研究資金については、当該年度における実績はない。

(4) 学科等ごとのグループ研究や共同研究、短期大学もしくは学科等の教育に係る研究の状況について記述して下さい。

共同研究については、本学の附属機関である総合文化研究所において、共同プロジェクトが実施されており、生活科学科と文科の教員が参加している。看護学科では「新設看護学科に入学した学生の職業意識の変化」という共同研究が現在も進行中である。また、現在、FD委員会が教育にかかわる研究活動を担っているが、この委員会は、授業評価等の作業を行うことが中心であり、まだ積極的に教育研究活動をする体制にはなっていない。教育研究にかかわる学会等のシンポジウムがあれば、FD委員が個人的に参加するという程度であり、この委員会を共同で行う教育研究活動の主体として積極的に位置づけて活動する必要がある。

【研究のための条件について】

(1) 研究費(研究旅費を含む)についての支給規程等(年間の支出限度額等が記載されているもの)を整備していれば訪問調査時に拝見します。なお規程等を整備していない場合は、過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の決算書から研究に係る経費を項目(研究費、研究旅費、研究に係る施設、機器・備品等の整備費、研究に係る図書費等)ごとに抽出し一覧表にして参考資料として準備して下さい。

現在、本学では、専任教員全員に対し、一律支給である「教員研究費」が予算化されている。この研究費(年額350,000円(研究旅費150,000円を含む。))については、特に支給規程等、成文化はされていないが、各学科ごとに次年度予算策定時に、各教員が計画書を策定し、各科長・学長承認のもと予算化され、これに基づき当該年度において執行している。以上とは別に、予備費として生活科学科、文科において各100万円を予算化し、助手等の学会参加費その他に、共同研究費として看護学科に250万円を予算化し、各科長の決裁により経費を支出している。

(2) 教員の研究成果を公表する機会(学内発表、研究紀要・論文集の発行等)の確保について、その概要を説明して下さい。なお過去3ヶ年(平成18年度~20年度)の研究紀要・論文集を訪問調査の際に拝見いたしますのでご準備下さい。

教員の研究成果を公表する機会として、各学科において「共立女子短期大学生活科学科紀要」、「共立女子短期大学文科紀要」、「共立女子短期大学看護学科紀要」を年1回発行している。さらに年に1回、共立女子大学総合文化研究所が発行している『文學藝術』、『共立女子大学総合文化研究所紀要』においても、研究成果を公表する機会を確保している。

(3) 教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況について、平成20年度の決算よりその支出状況を記述して下さい。また訪問調査の際の校舎等案内時に教員の研究に係る機器、備品、図書等の状況を説明して下さい。

#### 平成20年度教員研究費支出状況

(単位:円)

学科名	機器・備品	消耗品費	図書費	その他	旅費	合計
生活科学科	291,890	1,053,391	581,586	1,005,407	1,338,700	4,270,974
文科	674,750	620,495	1,540,065	299,580	974,504	4,109,394
看護学科	0	901,849	840,188	624,710	1,872,595	4,239,342
合計	966,640	2,575,735	2,961,839	1,929,697	4,185,799	12,619,710

(4) 教員の教員室、研究室または研修室、実験室等の状況を記述して下さい。なお訪問調査の際に研究室等をご案内願います。

教員の研究室は生活科学科及び文科においては1人1室を配置し、看護学科においては個人研究室10室、共同研究室を1室配置している。各研究室には机・椅子、パソコン・書架等が備え付けられている。

生活科学科では、研究室の大半には実験設備等が兼ね備えられており、文科と看護学科では1人用研究室には打合せ用テーブル・椅子等も備え付けている。

その他、更衣室、ミーティング室等を配置するなど、研究環境を整備している。

(5) 教員の研修日等、研究時間の確保の状況について記述して下さい。

現在、明確に成文化された規定は制定されていないが、原則、週3日以上出校、6コマ(12時間)以上の授業の担当を最低基準としている。

教員個人では異なるが、各種委員会委員としての活動、学生募集活動等、学内での活動もあり、十分な研究時間の確保には課題が残る。

【特記事項について】

(1) この《 研究》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教員の研究について努力していることがあれば記述して下さい。

教員の研究時間、研究環境を十分に確保することには困難を伴うが、教員個人への著しい負担を軽減するため、各種委員会委員選任を初め、学内での公的活動の平準化を図り、また科学研究費補助金や各種外部資金への応募・申請の奨励を行っている。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。



## 社会的活動

### 【社会的活動（国際的活動は別項で記述）への取組みについて】

(1) 社会的活動への取組みについて、その理念や方針等、教育・研究における位置づけについて、短期大学ではどのように考え、また今後どのように取組む予定かを記述して下さい。

高等教育機関である大学・短期大学の存在意義は社会の発展のために尽くすことにある。従って、その教育の場や研究機関としての役割において、社会に役立つ活動を行うことは、本学にとっての大事な使命である。またそういった活動は、学生に社会性を身につけさせることにつながり、学生への教育にとっても有意義であり、研究活動にも還元できる成果があると思われる。現在のところ、社会的活動への取組としては、共立女子大学・短期大学ボランティアセンターを通じたボランティア活動、公開講座を通じた市民向けの講演活動、千代田区や神田地域のイベントへの参加等がある。例えば生活科学科では、かねてより地域と連携した活動の充実を目指しており、数年前に神保町フェスティバルで学生主体の料理ブースを開いて好評を得た。平成19年には、地元お茶の水小学校の父母会役員の申し出から、生活科学科教員が仲介者となり、文芸学部の教授に依頼して特別講演を本学で開催した。テーマは「浄瑠璃と歌舞伎」であったが、これも大変に良い評判を得た。これらの活動をこれからも充実していかなければならないと考えるが、むろん、これだけで十分な社会的活動をおこなっているとは言えないだろう。3学科を抱える本学らしい社会的活動とは具体的にどのようなものであるべきか検討していく。

(2) 社会人受け入れの状況について、生涯学習の観点から短期大学では社会人の受け入れを今後どのように考えているかを記述して下さい。

本学では社会人の受け入れは平成18年度11名、平成19年度8名、平成20年度10名である。文科では2年前まで二部があり、実際には社会人の受け入れは文科第二部が担っていたが、学科として維持するほどの学生数が確保出来ず、やむなく平成19年度に募集停止にいたった。現在、入学している社会人は、主にキャリアアップを目指しており、そのような社会人を受け入れることは生涯学習への対応の一環である。また、本学には、課外講座として「共立アカデミー」があり、その中で市民講座としての教養講座を開いている。そこでは社会人が多く参加している。共立アカデミーは課外講座であり、市民講座としての性格も併せ持つ。この共立アカデミーと短期大学が連携することでも生涯学習への取り組みが可能になるのではないかと考えている。例えば、現在、本学の教員が、文科の卒業生や、あるいはかつて学んでいた二部の社会人の卒業生などを対象に教養講座を開いている。このように自由な時間帯に自由に学べる「共立アカデミー」の教養講座を発展させ、社会人や短期大学の卒業生の生涯学習の拠点にしていくことも今後の検討課題である。

(3) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）に短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況を記述して下さい。

本学においては、地域社会に向けて公開している授業や講座として、「共立アカデミー」と「公開講座」を実施している。また、学則に基づいて科目等履修生の受け入れを行っており、過去3カ年の実績は、平成18年度5名、平成19年度7名、平成20年度4名となっている。

共立アカデミーは、正課外講習として実施する講座を一般に開放するものである。平成19年度より公開を実施しており、通年にわたり資格取得、趣味・教養におよぶ多くの講座から選択受講可能となっている。学生だけではなく、一般人も平成19年度には364名、平成20年度には616名受講し、全受講者の約21%が一般人となっている。

公開講座は、9月中旬から10月中旬の土曜日を利用し、毎年度開講している。毎年テーマを設定し、このテーマに沿った講座を設けている。平成20年度からは、研修センター杉並寮においても開講している。平成18年度から平成20年度に実施された講座は、以下の表のとおり。

公開講座実施状況（平成18年度～20年度）

年度	テーマ	開催地	講演名	講演者	参加者数
平成18年度	日本の女性はどうか「生きたか」 - 共立女子学園120周年記念 -	神田一ツ橋キャンパス	女性の着物とファッション	家政学部教授 長崎 巖	739名
			女性の顔と化粧と髪型の変遷	大阪樟蔭女子大学教授 村澤 博人	
			メディアと女性の生き方	テレビ朝日プロデューサー 田原 敦子	
			新結婚論 - 私の辿った道 桂由美の世界 -	ブライダルデザイナー 桂 由美	
平成19年度	明日への扉 - 四つの鍵でひらく -	神田一ツ橋キャンパス	映画にみるそれぞれの人生	映画評論家 渡辺 祥子	357名
			心の扉を開く	看護学科教授 川野 雅資	
			絵本の中の子どもの世界 - 未来への扉を開く鍵 -	家政学部教授 入江 礼子	
			東アジア共同体	国際学部教授 吉竹 広次	
平成20年度	「未来につながる古典」 - 『源氏物語』とシェイクスピア -	神田一ツ橋キャンパス	王朝時代の服飾と『源氏物語』の意匠	家政学部教授 長崎 巖	1,205名
			源氏物語の贈答歌 - 恋の行方	文芸学部准教授 岡田ひろみ	
			福原麟太郎とシェイクスピア	東京学芸大学名誉教授 岡本 靖正	
			シェイクスピアの出来上るまで（実際の稽古風景）	シェイクスピア・シアター 主宰・演出家 出口 典雄	
			時をこえる『源氏物語』 - 読み継がれる古典の魅力 -	文科准教授 植田 恭代	
			シェイクスピアにおける「古典」	文芸学部教授・文芸学部長 入江 和生	
	-	研修センター杉並寮	絵本を読む - 子どもと読み手の関係 -	家政学部教授 入江 礼子	26名
-	研修センター杉並寮	見つけて防ごう！子どもの身近な危険 - 家庭での安全教育と応急処置 -	看護学科専任講師 佐藤 和子	16名	

(4) 過去3ヶ年(平成18年度~20年度)の短期大学と地域社会(自治体、商工業、教育機関、その他団体等)との交流、連携等の活動について記述して下さい。

本学教員の地域社会との交流、連携等の活動においては、生活科学科3名、文科1名、看護学科6名の教員が行っている。主な交流・連携先は、文部科学省、千代田区、越谷市、横浜美術館、公立高等学校などである。

その他、講演会・フォーラム等の会場として、本学の講義室や施設を提供している。平成19年度は、11月にノーベル賞受賞者を囲むフォーラム「平和フォーラム」を開催した。2003年度ノーベル平和賞受賞者、シリル・エバディ、ほか3名のゲストが『人権活動の最前線から 女性・子どものいまと未来』をテーマに話し、学外から約700名の来場者があった。平成20年度は、10月に「千代田区男女共同参画センターMIW設立10周年記念行事」を開催した。10周年記念式典を含み、『Let's 男尊女尊! 女も男も、自分らしく、互いを尊重し、個性と能力が発揮できる社会へ』をテーマに、落合恵子氏の基調講演と、落合恵子、山田正人両氏の対談が行われた。この運営に関しては、来場者の誘導案内を本学学生のボランティアが担当するなど、千代田区の企画と学生との交流が図られている。さらに、同年11月には、近隣の神保町が地域をあげて主催する神保町ブックフェスティバルの一企画である「活字文化特別セミナー」を開催した。2日間のセミナーを開催、本学の教員とゲスト作家および主催の進行者の鼎談が行われた。参加者は各日300人を超え、盛況に終了した。

また、障がいを持つ人の社会就労機会提供を目的に、『社会福祉法人緑の風さくらベーカリー』と協力している。障がい者が作った焼きたてのパンの販売場所として、本学2号館学生サロンを無料で提供している。

#### 【学生の社会的活動について】

(1) 過去3ヶ年(平成18年度~20年度)の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述して下さい。

地域との連携を重視しており、学生は、千代田区のちよだボランティアセンター、ちよだ企業ボランティア連絡会、各種ボランティア団体と連携した活動に取り組んでいる。また、都内の企業の社会貢献室と連携した活動にも参加している。地域の社会人と協働で行うこれらの活動の範囲は、次世代育成、高齢者や障害者福祉、地域活性化、環境問題、講演会やスポーツなどのイベント等広範囲に渡っている。

本学のボランティアセンターを通じた、千代田区立高齢者センターにおける活動への参加や、学内でのチャリティーコンサートの運営への参加者も増加しており、これらの活動は、本学に定着してきている。

学生のボランティアリーダーを育成する目的で開講しているボランティアアドバイザー講座の受講生は、毎年、共立祭でのボランティア団体への寄付活動や、自主企画ボランティアを実施し、同窓生、女性、地域、発展途上国など様々な対象に向けた活動を行っている。

(2) 短期大学では学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述して下さい。

本学では、学生のボランティア活動のためにボランティアセンターを設置しているが、このようにボランティアセンターを一つの機関として設けていること自体が、本学のボランティア活動に対する積極的な姿勢のあらわれである。

現在、ボランティアセンターを通して、実人数で 40 名前後の学生が毎年ボランティア活動にかかわっている。またボランティアアドバイザー講座を開講し、ボランティアリーダーも育てている。

また、ボランティア活動は、地域活動や地域貢献といった側面も持つ。千代田区の高齢者の障がい者施設を訪れたり、地元のゴミ分別の運動に参加したりと、そういった活動を通して、地域への社会貢献が可能となる。学生のボランティア活動が、地域と大学との連携につながる。大学と地域との関わりが重要視される現在、このことはとりわけ重要であると考えている。ボランティア活動は学生の社会性を養い人格的な成長をうながす。本学としてもこのようなボランティア活動を積極的に奨励し、ボランティア活動をしやすい環境を整えていく。

#### 【国際交流・協力への取組みについて】

(1) 過去 3 ヶ年(平成 18 年度～20 年度)の学生の海外教育機関等への派遣(留学(長期・短期)を含む)の状況を記述して下さい。

本学においては、「異文化に対する深い理解」と「国際協力についての高度な意識を持つ人材の育成」を目指し、国際交流の機会を可能な限り学生に提供している。学校が認めている長期留学は、下記の ~ の大学等への留学となっている。

協定校 教育・学術研究に関する相互交流協定を締結した外国の大学等

提携校 学生の派遣に関する覚書を取り交わした外国の大学等

認定校 、 以外で、学生が留学を希望する外国の大学等で本学が認定するもの

上記 の提携校については、平成 20 年度からの推薦プログラムで、オックスフォード・ブルックス大学(イギリス)、リーズ大学(イギリス)、ウィニペグ大学(カナダ)、セントラルワシントン大学(アメリカ)の計 4 校と派遣提携をし、従来からのバーミンガム CIC(国際市民コレッジ、イギリス)と合わせて 5 校となっている。このプログラムを利用して平成 21 年 4 月より短期大学生 1 名が、1 年間提携校に留学する予定である。以上のほか、短期留学として海外の協定校等の協力のもと、語学研修プログラム(共立女子大学と共催)を毎年夏と春に実施している。派遣状況は、下記のとおりとなっている。

過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の学生の海外教育機関等への派遣状況

年度	派遣期間	派遣校(研修先)	派遣人数	備考
平成18年度	平成18年8月1日～8月20日	ペンシルベニア大学(アメリカ)	1名	この他に、ジュネーブ大学研修(スイス)、北京大学研修(中国)を実施したが、短期大学学生の参加はなかった。
	平成18年8月24日～9月9日	モナッシュ大学(オーストラリア)	10名	
	平成19年2月9日～3月8日	クイーンズランド大学(オーストラリア)	1名	
平成19年度	平成19年8月20日～9月8日	モナッシュ大学(オーストラリア)	3名	この他に、テムズヴァレー大学研修(イギリス)を実施したが短期大学学生の参加はなかった。
	平成20年2月15日～3月8日	クイーンズランド大学(オーストラリア)	4名	
平成20年度	平成20年8月1日～8月20日	ペンシルベニア大学(アメリカ)	7名	この他に、ジュネーブ大学研修(スイス)、西安交通大学研修(中国)を実施したが短期大学学生の参加はなかった。なお、中国研修は例年北京大学で実施しているが、当年度はオリンピックの影響で西安交通大学に変更して実施した。
	平成21年2月7日～3月1日	クイーンズランド大学(オーストラリア)	4名	

(2) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の短期大学と海外教育機関等との交流の状況を記述して下さい。

過去3年間の交流状況は下記の通り。本学は、併設の共立女子大学と共同で行っている。また教員間における共同研究もあり、研究成果は本学の総合文化研究所報告等に発表している。

海外教育機関等との交流状況(平成18年度～平成20年度)

年度	時期	事項	内容
平成18年度	平成18年6月	フルブライト日米教育委員会一行訪問	1994年より実施。前年に引き続き短期大学の授業視察や教育のあり方についての質疑応答を実施
	平成18年7月	ベナン共和国 ヤイ・ボニ大統領夫妻による本学視察	本訪問を契機として、平成19年9月から、ベナン共和国からの留学生を6か月間受け入れることが決定
	平成18年6月	ハイコー・ステファンズ ベルリン工科大学教授来訪	「ヨーロッパ消費者教育の考え方と実践 家庭・学校・行政における消費者教育」をテーマに講演会を開催
	平成18年9月	アニール・ネトラバリ コーネル大学教授来訪	学術協定校としてのこれまでの交流の成果を確認するとともに、今後の交流のあり方について協議
平成19年度	平成19年6月	アメリカ コロラドカレッジから学生が来訪	在学生による狂言・華道・茶道・着物の着付け・陶芸の実演及び解説が行われた
	平成19年6月	フルブライト日米教育委員会一行訪問	大学・短期大学の講義・実習を視察し、学生との対話を展開
	平成19年9月	ベナン共和国から特別研修生として、留学生を半年間受入	チューター制度による学生を配置し、日本語学習の補助、留学当初の社会生活の援助及び日本文化等の紹介を行った
平成20年度	平成20年4月及び6月	ペインブリッジ高等学校(アメリカ、シアトル)の生徒来訪	本学学生との意見交換、皇居見学など活発な交流が行われた
	平成20年5月	ベナン共和国 ヤイ・ボニ大統領夫妻、オカンラ・ムッサ外務大臣を学長代行一行が表敬訪問	
	平成20年6月	フルブライト日米教育委員会一行訪問	女子高等教育についてのセミナーを実施
	平成20年6月	アニール・ネトラバリ コーネル大学教授が来訪	様々な分野でのコラボレーションの必要性について意見交換
	平成20年6月	ヴァン・ダイク・ルイス コーネル大学准教授が来訪	「アメリカ・コーネル大学周辺におけるストリートファッション文化」と題して公開授業を実施。ほか交流のあり方について意見交換
	平成20年7月	ウェブスター大学(アメリカ、ミズーリ州)教授が来訪	併設の共立女子中学校教員を対象にインタビュー調査を実施。生活科学科教員が窓口となり通訳等を担当

(3) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況を記述して下さい。

教職員の留学・海外派遣・国際会議出席等の状況(平成18年度～20年度)

年度	時期	所属	職種	教職員氏名	派遣・出張先	目的
平成18年度	平成18年5月3日～5月8日	生活科学科	教授	植木 武	ハワイ大学	共同研究打合せ
	平成18年7月16日～7月23日	生活科学科	教授	津田淑江	アメリカ合衆国サンフランシスコ	栄養教育学会国際会議
	平成18年8月1日～8月20日	生活科学科	教授	植木 武	ペンシルヴェニア大学	学生夏期研修引率
	平成18年8月17日～8月26日	文科	教授	岡部隆志	中国雲南省大理学院大学	国際シンポジウム
	平成18年9月15日～9月19日	看護学科	専任講師	久保恭子	中国蘇州	日中看護学会
			専任講師 教育助手	田崎知恵子 星野沙織		
	平成18年10月13日～10月22日	生活科学科	教授	田中直義	ミャンマー、マングレー大学、 シャン州など	共同研究打合せ・調査研究
	平成19年3月19日～3月29日	生活科学科	教授	田中直義	中国雲南省	調査研究
平成19年3月19日～3月29日	文科	教授	岡部隆志	中国雲南省	調査研究	
平成19年度	平成19年4月28日～5月8日	生活科学科	教授	植木 武	コーネル大学、ハワイ大学	共同研究打合せ
	平成19年7月28日～8月4日	生活科学科	教授	津田淑江	アメリカ合衆国シカゴ	栄養教育学会国際会議
	平成19年8月21日～8月29日	文科	教授	岡部隆志	中国雲南省	調査研究
	平成19年10月10日～10月20日	生活科学科	教授	田中直義	ラオス北部(ルアンパバン州、 ウドムサイ州など)	調査研究
	平成20年2月17日～2月20日	生活科学科	教授	田中直義	カンボジア、プノンペン、王立 農業大学	共同研究打合せ
	平成20年3月22日～3月30日	文科	教授	岡部隆志	中国湖南省	調査研究
平成20年度	平成20年6月21日～6月27日	生活科学科	准教授	山口庸子	フランス・パリ	第7回世界海面活性剤会議出席・研究発表
	平成20年7月19日～7月28日	生活科学科	教授	津田淑江	アメリカ合衆国アトランタ	栄養教育学会国際会議
	平成20年8月6日～8月12日	生活科学科	教授	植木 武	ハワイ大学	共同研究打合せ
	平成20年8月17日～8月28日	生活科学科	教授	田中直義	中国雲南省	調査研究
	平成20年8月21日～8月29日	文科	教授	岡部隆志	中国雲南省	調査研究
	平成20年9月11日～9月20日	生活科学科	教授	植木 武	コーネル大学、ウェブスター大学、 ネブラスカ大学、ハワイ大学	講演・研究発表
	平成20年10月17日～10月26日	生活科学科	教授	田中直義	ラオス北部(ボンサリー州、 ウドムサイ州など)	調査研究

【特記事項について】

(1) この《社会的活動》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば高大連携等の他の教育機関との連携、外国人への日本語教育等、社会的活動について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

【添付資料】

・社会人受け入れについての印刷物等

添付資料2(KYORITSU GUIDE BOOK)(P15)

12 共立アカデミー2009 前期講座のご案内

## 管理運営

### 【法人組織の管理運営体制について】

(1) 短期大学を設置する法人のトップである理事長は、短期大学の運営に対して適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る重要事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで理事長はどのように関与しているかを、できれば理事長自身が率直に現状を記述して下さい。

理事会は、寄附行為第 19 条第 2 項の規定により「学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。」とあり、本学園の最高意思決定機関である。

理事会は同じく寄附行為により、年 5 回の開催を規定化しており、理事長が召集し、その議長となり、学園の事業計画、事業報告、予算、決算、また、各校の学則の改廃等、法人運営の全般にわたる審議を行っている。

また、学園将来の基本構想を審議する「共立女子学園将来基本構想委員会」が設置されており、その委員長として理事長があたっている。

短期大学全般に係る教育研究上の重要事項については、短期大学教授会で審議され、法人での承認が必要なものについては、常務理事会において原案を審議し、これをもって理事会で最終的に審議・決議している。

理事長は、法人を代表し、その業務を総理しており、理事長の意向は理事会において反映されており、短期大学運営においてもリーダーシップは発揮されている。

(2) 過去 3 ヶ年（平成 18 年度～20 年度）の理事会の開催状況（主な議案、理事の出席状況等を含む）を、下表を例に開催日順に記述して下さい。加えて理事会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。平成 21 年 5 月 1 日現在の理事・監事・評議員名簿等を準備し、理事の構成に著しい偏りがないことをお示し下さい。また理事会議録は必要に応じて閲覧いたします。

#### 理事会開催状況

（平成 18 年度）

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
18	5	23	平成17年度事業報告について 平成17年度既定予算の補正について 平成17年度収支決算及び監査報告書の提出について 平成18年度当初予算の補正について 平成19年度共立女子短期大学学則の一部改正について 大学・短期大学学長選考課題について 平成18年5月1日現在の学生・生徒数及び教職員数について 「新しい教育ステージ」募金の受入れについて（報告） 第二中学高等学校の教育環境整備計画について（報告）	12	12
18	7	11	共立女子中学校・共立女子高等学校の学則変更について 共立女子第二中学校・共立女子第二高等学校の学則変更について 神田集中化について 大学・短期大学将来構想の進捗状況について（報告）	12	12
18	9	26	寄附行為の一部変更について 大学学長・短期大学学長の選考方針について（報告） オープンキャンパスの状況について（報告）	12	12

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
18	12	12	評議員の選任について 平成19年度共立女子大学大学院学則の一部改正について 平成19年度共立女子大学学則の一部改正について 平成19年度共立女子短期大学学則の一部改正について 経常的募金活動（新しい教育ステージ）の応募状況について 関連当事者調査へのご協力のお願について（報告）	12	12
19	3	13	評議員の選任について 理事の選任について 監事候補者の選出について 理事長の選任について	12	12
19	3	13	中学・高等学校、第二中学・高等学校長及び幼稚園長の再任に 平成18年度既定予算の補正について 平成19年度事業計画について 平成19年度当初予算について 寄附行為の一部変更について 平成18年度寄附金（教育施設拡充資金）応募状況について （報告） 平成19年度入試結果について（報告） 学校法人格付（A+）の維持について（報告）	12	12

（平成19年度）

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
19	5	22	平成18年度事業報告について 平成18年度既定予算の補正について 平成18年度収支決算及び監査報告書の提出について 評議員の選任について 平成19年5月1日現在の学生・生徒数及び教職員数について 「新しい教育ステージ」募金の受入れについて（報告） 株式会社ウィズ・ケイ管理規定について（報告）	12	12
19	9	25	評議員の選任について 共立講堂の改修について（報告） オープンキャンパスの状況について（報告）	11	11
19	12	11	第2次財政施策検討プロジェクト検討結果報告書及び再編後の 第2次財政施策検討プロジェクトの進捗状況について 平成20年度共立女子大学学則の一部改正について 平成20年度共立女子短期大学学則の一部改正について 平成20年度共立女子中学校高等学校学則の一部改正について 平成20年度共立女子第二高等学校学則の一部改正について 研修センター白馬寮の売却について（報告）	11	11
20	3	14	理事の選任について 評議員の選任について 平成19年度既定予算の補正について 平成20年度事業計画について 平成20年度当初予算について 基本金対象外資産の設定について 平成20年度共立女子大学大学院学則の一部改正について 平成20年度共立女子短期大学学則の一部改正について 平成21年度共立女子中学校学則の一部改正について 寄附行為の一部変更について 八王子キャンパスの利用計画について（報告） 平成19年度寄附金（教育施設拡充資金）応募状況について（報 平成20年度入試結果について（報告） 学校法人格付（長期優先債務格付）A+の維持について（報 杉並区道路拡幅整備事業協力の伴う資産処分について（報告）	11	11

（平成20年度）

年	月	日	主な議案	出席者数	定員
20	5	27	平成19年度事業報告書について 平成19年度収支決算及び監査報告書の提出について 平成20年度当初予算の補正について	11	11
20	10	7	学園の今後の諸課題について 大学・短期大学の将来構想について（報告）	11	11



年	月	日	主な議案	出席者数	定員
20	11	11	(新) 共立女子大学学長及び短期大学学長選考規程の制定について 大学学長及び短期大学学長の学長候補者選考委員会の設置について	11	11
20	12	2	共立女子大学学長及び共立女子短期大学学長の選考について	12	12
21	3	10	中学高等学校長及び幼稚園長の選任について 理事の選任について 評議員の選任について 平成20年度既定予算の補正について 平成21年度事業計画について 平成21年度当初予算について 平成21年度共立女子大学大学院学則の一部改正について 平成21年度共立女子大学学則の一部改正について 平成21年度共立女子短期大学学則の一部改正について 平成21年度共立女子高等学校学則の一部改正について 平成20年度寄附金(教育施設拡充資金)応募状況について(報告) 平成21年度入学試験結果について(報告) 学校法人格付(長期優先債務格付)A+の維持について(報告)	12	12

### 理事会についての寄附行為上の規定

#### 学校法人共立女子学園寄附行為 (理事会)

第19条 この法人に理事をもって組織する理事会を置く。

- 2 理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。
- 3 理事会は、毎年3月、5月、7月、9月、12月に理事長が招集する。ただし、理事長が必要と認めるときは、臨時にこれを召集することができる。
- 4 理事長は、理事総数の3分の2以上の理事から、会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合は、その請求のあった日から7日以内に、これを召集しなければならない。
- 5 理事会を招集するには、各理事に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を書面により通知しなければならない。
- 6 前項の通知は、会議7日前までに発しなければならない。ただし緊急を要する場合はこの限りでない。
- 7 理事会に、議長を置き、理事長をもって充てる。
- 8 理事長が第4項の規定による召集をしない場合には、召集を請求した理事全員が連名で理事会を招集することができる。この場合における理事会の議長は、出席理事の互選によって定める。
- 9 理事会は、この寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、理事総数の過半数の理事が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。ただし第12項の規定による除斥のため過半数に達しないときは、この限りではない。
- 10 前項の場合において、理事会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。
- 11 理事会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか出席した理事の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 12 理事会の決議について、直接の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(業務決定の委任)

第20条 法令及びこの寄附行為の規定により評議員会に付議しなければならない事項その他この法人の業務に関する重要事項以外の決定であつて、あらかじめ理事会において定めたものについては、理事会において氏名した理事に委任することができる。

(議事録)

第21条 議長は、理事会の開催場所及び日時並びに議決事項及びその他の事項について議事録を作成しなければならない。

2 議事録には、出席した理事全員が記名押印し、常に、これを法人事務局に備えておかなければならない。

(3) 理事会の下に理事会の業務を一部委任する常任理事会、幹部会等を置いている場合は、その名称と根拠規定、理事会との関係、構成メンバー等を記述して下さい。

「常務理事会」を設置している。

根拠規定

<学校法人共立女子学園寄附行為>

(常務理事の選任及び職務)

第13条 理事(理事長を除く。)のうち若干名を常務理事とし、理事総数の過半数の議決により選任する。常務理事の職を解任するときも、同様とする。

2 常務理事は理事長を補佐し、この法人の業務を分掌する。

3 理事長、常務理事により常務理事会を構成する。

4 常務理事会は理事長が招集し、法人全般にわたる業務の執行方法を協議し、又、理事会から委任された事項を審議する。

5 常務理事会の運営については別に定める。

<共立女子学園常務理事会開催内規>

1. 開催 毎週1回開催 (但し、行事予定表による。)

2. 構成員 理事長  
常務理事  
学内理事

3. 陪席者 学部長  
科長  
校長

4. 議事

寄附行為並びに事務組織及び事務分掌規程の定めるところに従い事務局各課から上申した稟議書の決裁を行う等の常務を処理し、又、評議員会・理事会に付議すべき事項の原案を審議する。

5. 会議の運営

理事長が開催を宣し、事務局長が議事事項の説明にあたる。なお、必要に

応じて当該統括課長・室長が、議事事項の説明を行う。

又、必要に応じて学内外の専門家に出席を求め意見を聴くことができるものとする。

(4) 監事の業務についての寄附行為上の規定、平成20年度における監事の業務執行状況について、できれば監事自身が率直に現状を記述して下さい。

#### 監事の業務についての寄附行為上の規定

< 学校法人共立女子学園寄附行為 >

( 監事の選任及び職務 )

第14条 ( 略 )

2 監事は、次の各号に掲げる職務を行う。

- (1) この法人の業務を監査すること
- (2) この法人の財産の状況を監査すること
- (3) この法人の業務又は財産の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後2ヵ月以内に、理事会及び評議員会に提出すること
- (4) 第1号又は第2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを文部科学大臣に報告し、又は理事会及び評議員会に報告すること
- (5) 前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して評議員会の招集を請求すること
- (6) この法人の業務又は財産の状況について、理事会に出席して意見を述べること

#### 平成20年度における監事の業務執行状況

寄附行為規定により、監事の定数は2名であるが、そのうち1名は常勤監事である。監事は、監査法人による監査が適正に実施されているかを含め、財務状況の監査はもちろん、業務監査についても、学内機構である「内部監査室」と連携して、監査を実施している。

非常勤監事を含め、理事会・評議員会には必ず出席し、監事としての意見や提案を行っている。また、常務理事会における法人全般に係る議案等についても、学内理事からその協議・審議結果を聴取する等、一貫性のある監査業務を行っている。

(5) 平成20年度の評議員会の開催状況（主な議案、評議員の出席状況等を含む）を開催日順に記述し、評議員会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。

## 評議員会開催状況

### 評議員会開催状況（平成20年度）

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
20	5	27	平成19年度事業報告書について 平成19年度収支決算及び監査報告書の提出について 平成20年度当初予算の補正について	27	27
20	10	7	大学・短期大学の将来構想について（報告）	27	27
20	11	11	（新）共立女子大学学長及び短期大学学長選考規程の制定等に	27	27
20	12	2	共立女子大学学長及び共立女子短期大学学長の選考について	27	27
21	3	10	中学高等学校長及び幼稚園長の選任について 理事の選任について 評議員の選任について 平成20年度既定予算の補正について 平成21年度事業計画について 平成21年度当初予算について 共立女子大学大学院・共立女子大学・共立女子短期大学の人材養成目的について 平成21年度共立女子大学大学院学則の一部改正について 平成21年度共立女子大学学則の一部改正について 平成21年度共立女子短期大学学則の一部改正について 平成21年度共立女子高等学校学則の一部改正について 平成20年度寄附金（教育施設拡充資金）応募状況について（報告） 平成21年度入学試験結果について（報告） 学校法人格付（長期優先債務格付）A+の維持について	27	27

### 評議員会についての寄附行為上の規定

< 学校法人共立女子学園寄附行為 >

（評議員会）

第22条 この法人に、評議員会を置く。

- 2 評議員会は、27名以上31名以内の評議員をもって構成する。
- 3 評議員会は毎年3月、5月及び9月に理事長が招集する。ただし、理事長が必要と認めるときは、臨時にこれを招集することができる。
- 4 理事長は、評議員総数の3分の1以上の評議員から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から20日以内に、これを招集しなければならない。
- 5 評議員会を招集するには、各評議員に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を、書面により通知しなければならない。
- 6 前項の通知は、会議の7日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合はこの限りではない。
- 7 評議員会に議長を置き、議長は評議員のうちから評議員会において選任する。
- 8 評議員会は、評議員総数の過半数の出席がなければ、会議を開き、議決することができない。
- 9 前項の場合において、評議員会に付議される事項について書面をもって、あらか

じめ意思表示した者は、出席者とみなす。

10 評議員会の議事は、出席した評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

11 議長は、評議員として議決に加わることができない。

(議事録)

第 23 条 議長は、評議員会の開催の場所及び日時並びに議決事項及びその他の事項について、議事録を作成しなければならない。

2 議事録には、議長及び出席した評議員のうちから、その評議員会において選任された評議員 2 人以上が署名押印し、常にこれを法人事務局に備えて置かなければならない。

(諮問事項)

第 24 条 理事長は次に掲げる事項については、あらかじめ、評議員会の意見を聴かなければならない。

(1) 予算、借入金(当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。)及び基本財産の処分並びに運用財産中の不動産及び積立金の処分

(2) 事業計画

(3) 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄

(4) 寄附行為の変更

(5) 合併

(6) 目的たる事業の成功の不能による解散

(7) 収益事業に関する重要事項

(8) 寄附金品の募集に関する事項

(9) その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの

(評議員会の意見具申)

第 25 条 評議員会は、この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。

(6) 法人の管理運営について今後改善や変更をしたいと考えている事項があれば記述して下さい。また法人が抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。

法人の管理運営については、理事会及び評議員会において十分なる議論がなされており、現在のところ、特に問題はない。

### 【教授会等の運営体制について】

(1) 短期大学の教育・研究上のトップである学長は、短期大学の教育活動全般について適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る教育・研究上の事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで学長はどのように関与しているかを、できれば学長自身が率直に現状を記述して下さい。なお学長選考規程等があれば訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

本学では、平成 18 年度から本学園の理事長が学長代行を務め学長は不在であったが、平成 20 年 12 月に学長が決定し、学長によるガバナンスへとようやく正常な状態へと戻った。代行によるガバナンスであってもリーダーシップは発揮されていたが、やはり自ずと限界があったことは否めない。ただ、本学の学長は共立女子大学の学長も兼ねている。この兼務については、長所と短所がある。長所は、短期大学だけでは解決出来ない問題について当然大学を含めた全学的な視点からの議論が必要になるが、その場合の議論の場の構築や意思決定等がスムーズに運ぶ。一方、逆に兼務であることによって、双方の意見が一致しない課題についての議論が徹底されないという懸念もある。また兼務によって教学上の仕事量が増えることによる負担の増大という面もないわけではない。だが、本学の規模からすれば、より機動的な改革を進めるという点で、学長が兼務であることのメリットがあり、そういう意味では、本学におけるリーダーシップに不安はなく、リーダーシップは発揮されていると考えている。

教育・研究上の事項の決定については、各学科内の委員会もしくは専任教員による会議等で審議され、それが各学科の教授会での審議に付される。そして、短期大学の全学的な案件は必要に応じてさらに短期大学教授会で審議されるという流れになっている。また、事案が短期大学全体に関わるものであれば、各学科教授会を経ずに短期大学教授会で直接審議される。学長の関わり方であるが、学長は短期大学教授会の主催者でありその議長でもある。従って、短期大学教授会での審議にかかわる事項については当然学長が関与していくことになる。ただし、短期大学教授会にはかからない各学科内の事案についても、各学科で処理できないものであれば学長が関与することは当然あり得る。現在このような形で本学のガバナンスは遂行されており、特に問題はないと考えている。

(2) 教授会についての学則上の規定（教授会で議すべき事項等を含む）、平成20年度における開催状況（主な議案、構成メンバー、出席状況等を含む）を年月日の順に記述して下さい。なお、学則を添付してください。

教授会についての学則上の規定は次の通りである。

「第11条 本短期大学に教授会をおく。教授会は学長および教授をもって構成する。ただし、必要ある場合は准教授、講師および助教を加えることができる。

2. (略)

第12条 教授会は短期大学に関する次の事項を審議する。

学則の適用および改正に関する事項

教育研究ならびにその施設設備に関する事項

教育課程に関する事項

教員の人事に関する事項

- 学生の厚生補導に関する事項
- 学生の入学卒業等学生の身分に関する事項
- 学長候補推薦に関する事項
- 科長および主任候補に関する事項
- 学校法人の評議員候補に関する事項
- 学長の諮問する事項
- その他教授会が必要と認める事項

短期大学教授会開催状況（平成 20 年度）

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
20	4	24	1.平成20年度各種委員会委員及び委員長の委嘱について 2.平成20年度入学生の既修得単位認定について 3.平成20年度科目等履修生受け入れについて 4.平成20年度単位互換履修生について	32	40
20	6	26	1.共立女子短期大学学則改正について	31	41
20	9	25	1.9月卒業者の判定について 2.平成20年度前期科目等履修生の単位認定について 3.平成20年度後期科目等履修生受け入れについて	36	41
20	10	30	1.学長選考規程について 2.平成21年度生活科学科カリキュラムの改定について 3.平成21年度文科カリキュラム改定について	32	41
20	11	20	1.学長候補推薦について	31	41
20	11	27	1.学長候補推薦についての審議結果について 2.授業評価アンケートの活用について	38	41
21	1	29	1.短期大学学則改正について 2.看護学科学科主任候補について 3.平成21年度課外講習について	39	41
21	2	10	1.入試判定について 2.短期大学学則改正について	39	41
21	2	27	1.平成21年度卒業判定について 2.科目等履修生の単位認定について 3.全学共通教育科目アンケート実施委員会の委員の選出について	38	41
21	3	14	1.入試判定について	38	41

本学では、共立女子短期大学教授会規程第3項に基づき、生活科学科、文科、看護学科それぞれに固有な事項を審議するため、生活科学科教授会、文科教授会、看護学科教授会を置いており、それぞれの平成20年度の開催状況は、以下の通りである。

生活科学科教授会開催状況（平成 20 年度）

年	月	日	主な議題	出席者数	定数
20	4	10	生活科学科学生の転コースについて 平成21年度カリキュラムの変更について ほか	12	12
20	5	8	kyonetの学籍情報の追加について 平成21年度「基礎ゼミナール」の作成に関する委員選出について	12	12
20	6	12	生活科学科学生のコース変更について 平成21年度専門科目の時間割編成作業について ほか	12	12
20	7	10	平成21年度カリキュラム改正について 平成21年度開設コマ数について ほか	11	12
20	7	24	平成21年度開設コマ数について	10	12
20	9	25	9月卒業について 後期日程表について ほか	12	12
20	10	9	カリキュラムについて 平成21年度専門科目担当教員候補者について ほか	10	12

年	月	日	主な議題	出席者数	定数
20	11	13	平成21年度非常勤講師の採用について 時間割編成について ほか	12	12
20	12	11	平成21年度指定校推薦入試の結果について 単位互換科目について ほか	11	12
21	1	15	平成21年度クラス担任について 非常勤講師との懇親会について ほか	12	12
21	2	10	平成22年度入試について 短期大学人材養成目的について ほか	11	12
21	2	27	平成20年度生活科学科卒業判定について 平成20年度生活科学科進級判定について ほか	11	12
21	3	14	学籍異動 ほか	11	12

### 文科教授会開催状況（平成20年度）

年	月	日	主な議題	出席者数	定数
20	4	10	学籍異動	12	14
20	5	8	平成20年度前期日程表について 平成20年度前期僅少科目について ほか	13	14
20	6	12	学籍異動	12	14
20	7	10	平成21年度文科カリキュラム改正について 編入学特別推薦学科内選考の選考基準について	14	14
20	9	25	9月卒業判定について 平成20年度後期日程表について	14	14
20	10	9	編入学特別推薦（共立）について 学長選考規程について ほか	14	14
20	11	13	平成21年度他学科開放科目・他コース開放科目について 学籍異動について	14	14
20	12	11	平成21年度非常勤講師の採用について 平成21年度東京都短期大学協会単位互換科目について	14	14
21	1	15	平成21年度非常勤講師の採用について 平成20年度TOEICスコア単位認定について ほか	13	14
21	1	22	平成21年度非常勤講師の採用について	12	14
21	2	9	来年度の出席管理システムについて 助手の採用について ほか	14	14
21	3	14	平成21年度非常勤講師の採用について 平成21年度各種委員会委員の委嘱について ほか	13	14

### 看護学科教授会開催状況（平成20年度）

年	月	日	主な議題	出席者数	定数
20	4	9	平成20年度戴帽式について	13	14
20	5	14	教員の研修日等について 看護学科再評価試験に関する内規変更について ほか	14	15
20	6	11	非常勤講師の承認について	13	15
20	7	9	非常勤講師の承認について	11	15
20	8	1	学籍異動	13	15
20	9	10	学籍異動 9月卒業予定者について	15	15
20	10	8	報告事項のみ	15	15
20	11	12	学籍異動	15	15
20	12	17	学生について ほか	13	15
21	1	14	報告事項のみ	13	15
21	2	27	学籍異動、非常勤講師採用、卒業・進級判定	15	15
21	3	14	平成21年度センター試験利用選抜（B日程） 学籍異動	13	15



(3) 学長もしくは教授会の下に教育・研究上の各種の委員会等を設置している場合は、その名称と根拠規程、主な業務、構成メンバー、平成20年度の開催状況等を記述して下さい。

教育・研究上の委員会及び開催状況(平成20年度)

委員会名称	根拠規程	主な業務	構成メンバー	開催状況
大学入試センター試験実施委員会	共立女子大学・共立女子短期大学大学入試センター試験実施委員会規程	大学入試センター試験実施にあたっての基本方針及びその策定、具体的実施計画の策定、その他重要事項に関する決定	学長、センター試験実施学部・科の学部長、科長、実施する学部、科の教員各2名、事務局長、入試事務室統括室長	3回
入試委員会	大学・短大入試委員会規程	入学者選抜制度及び選抜方法に関する事項の調査検討と本学の入学試験の実施・運営に関する基本的事項の検討・審議	学長、各学部長・科長、各学部・科の教授会推薦教授各2名、入試事務室統括室長	10回
自己評価委員会	共立女子短期大学自己評価委員会	建学の精神とそれに基づく教育理念の確認を行なうとともに、全学的立場に立つて、自己点検・評価の企画、立案、運営にあたり、自己点検・評価報告書を作成する	学長、科長、図書館長、学生部長、事務局長	4回
人権委員会	共立女子大学・短期大学人権委員会規程	本学の学生に対しての、セクシュアル・ハラスメントをはじめとしたキャンパス・ハラスメント全般に関わる人権侵害の防止と対処を行うとともに、教職員・学生の人権意識の啓発を行う	学長、事務局長、各学部・科の教員各2名、学部長のうち1名、科長のうち1名、学生部長、学生課統括課長	2回
広報委員会	共立女子大学・短期大学広報委員会規程	大学・短期大学の現状・歴史および将来計画などについて、広く社会各層に報道し、本学に対する関心を高め、評価を高める	学長、各学部・科から選出された教員各2名、学長が必要と認めた者	0回
正課外講座委員会	正課外講座委員会規程	正課外講座の実施およびその運営に関する基本方針の決定	学長、学部長、科長、図書館長、教務課・学生課・就職進路課・入試事務室・総合企画室の各統括課長・室長、外部コンサルタント(必要に応じて)	2回
研究倫理審査委員会	共立女子大学・共立女子短期大学研究倫理審査委員会規程	人を対象とする研究又は人体より採取した材料を用いる研究について、科学的合理性及び倫理的妥当性についての審査を適正かつ円滑に実施する	人を対象とする研究に関わる教員若干名、それ以外の各学部・科の教員若干名、学長が必要と認める者	3回
全学共通教育委員会	共立女子大学・短期大学全学共通教育委員会規程	教養教育科目、教職課程、司書教諭課程、学芸員課程に関する科目の実施及び運営に関する審議・決定と適正な実施・運営	学長、学部長、科長、委員会のもとに設置する各専門委員会の委員長、教務課統括課長、その他委員長が必要と認める者若干名	10回
FD委員会	共立女子大学・短期大学FD委員会規程	ファカルティ・ディベロップメントの推進	学長、教学担当常務理事、全学共通教育科目授業アンケート実施委員会委員4名、各学部選出委員3名、短大選出委員1名、事務局長、教務課統括課長	0回

(4) 短期大学の運営全般について抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。

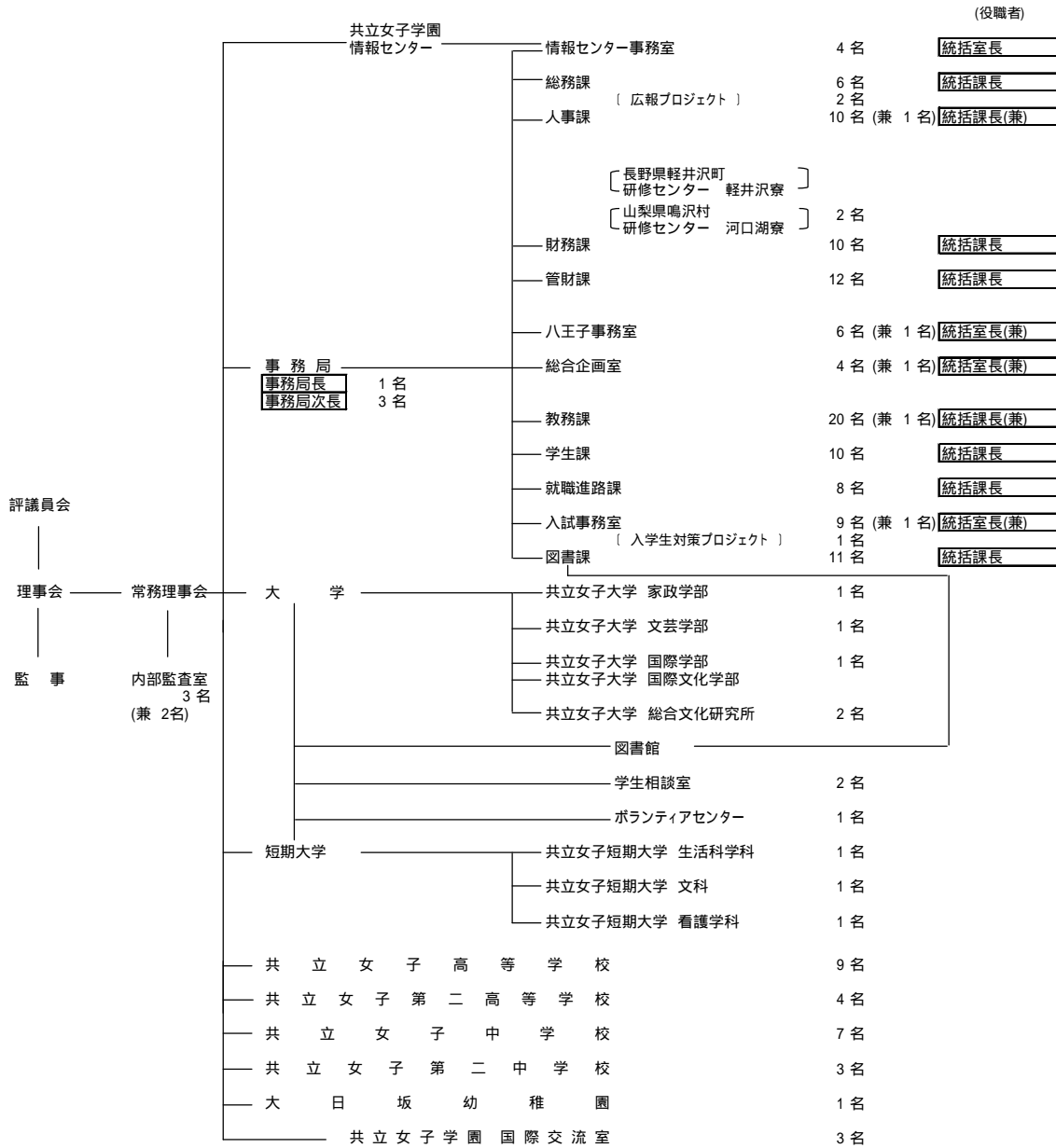
教授会の運営体制(1)でも触れたことだが、2年間ほど学長代行による運営体制が続き、平成20年12月ようやく学長が決定した。学長によるガバナンスがようやく正常な状態に戻ったわけであるが、ただ、現在の学長は短期大学出身でないということもあり、短期大学教員との意思の疎通についてそれなりの努力が求められよう。短期大学をめぐる状況は厳しく、運営を誤ればすぐに存亡の危機に立たされる。これは大げさではなく、全国の短期大学が直面している状況である。従って、この状況を何とか生き延びるためには、学長と学科長そして教員の意思の疎通がしっかりしていなければならない。組織としての意思決定も大胆にそして早くなされる必要がある。本学は、学長が決まったばかりであり、運営面で、学長と短期大学の教員とが様々な問題を共有し解決に当たるほどの密な関係を作っているとはまだ言えない。新学長以下教員が一体となってより強固な運営体制を作りあげていくことが目下の課題である。

#### 【事務組織について】

(1) 現在の法人全体の事務組織図を記載し、その中に短期大学の事務部門を記入して下さい。また組織図には短期大学の事務部門の役職名(課長、室長相当者以上。兼職の有無を含む)、各部門の人員(専任・兼任を別を含む)、各部門の主な業務を含めて記入して下さい。また事務組織が使用している部屋等は、機器・備品を含めて訪問調査の際にご案内いただきます。

本学の事務組織の構成図は、次頁の図の通りである。短期大学だけの事務部署は存在しないが、各科業務の円滑な遂行が可能になるよう、教務課には担当として各科の業務を主に行う担当者を配置している。また、各科の科長室には教務課より1名事務職員を配置しており、各学科と事務組織との連絡調整機能を担っている。人員配置については、各課・室の業務内容に応じて適正な人数の人員を配置することになっている。専任事務職員数は、人件費の適正化に関する施策と連動して、規模の縮小を図ってきており、法人系を含めた教学事務組織として、平成10年度の158名から平成21年度の120名と38名の削減を行った。規模の縮小に対しては、事務系のコンピュータシステムの更新を契機とした業務内容の見直し、嘱託職員や派遣職員の雇用、業務委託への移行(図書館)により業務の効率化を図ることで対応している。

事務組織図（平成 21 年 5 月現在）



部署名	(主な職務内容)	部署名	(主な職務内容)
情報センター事務局	1.情報化に関すること 2.情報ネットワークに関すること 3.ホームページの構築に関すること	八王子事務室	1.八王子キャンパス全般に関すること
総務課	1.評議員会・理事会に関すること 2.諸行事に関すること	総合企画室	1.将来構想に関すること 2.経営のための情報収集・分析 3.設置、改組転換に関わること
人事課	3.諸規程・文書管理に関すること 1.教職員の人事に関すること 2.教職員の給与に関すること 3.教職員の福利厚生に関すること	教務課	1.学生の履修に関すること 2.教育研究活動の支援に関すること 3.教授会・委員会に関すること
財務課	1.予算・決算に関すること 2.学園財政に関すること 3.補助金等の申請に関すること	学生課	1.課外活動に関すること 2.学生の生活全般に関すること 3.学生食堂・売店等に関すること
管財課	1.設備備品・用品・施設に関すること 2.調達・工事に関すること 3.警備等業務委託に関すること	就職進路課	1.学生の就職に関すること 2.大学院進学に関すること
		入試事務室	1.学生募集に関すること 2.入学試験に関すること
		図書課	1.図書資料及び視聴覚資料に関すること 2.図書利用に関すること

(2) 事務職員の任用(役職者の任免を含む)について現状を訪問調査時にご説明下さい。

職員の採用については、将来的な定年退職者を見越して、平成 18 年度から新卒採用及び中途採用を定期的実施している。募集に当たっては、各大学就職部への求人票の送付ならびに本学ホームページを用いて告知を行っている。また、選考においては、書類選考から始まり、筆記試験、複数回の面接試験を行い、最終的に常務理事会で承認を得る過程を踏んでいる。

職員の人事異動については、定期的に自己申告書を一般事務職員全員に提出を求め、そのなかでの各自の現業務に対する評価ならびに将来のキャリアについての意向を求め、それをもとに職員の配置計画を決定している。

(3) 事務組織について整備している諸規程名を列記して下さい。なお諸規程等は訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

- ・ 学校法人共立女子学園事務局事務規程
- ・ 共立女子学園事務局課長会規程
- ・ 事務局異動規程

(4) 決裁処理の概要と流れ、また公印や重要書類(学籍簿等)の管理、防災の状況、情報システムの安全対策等の現状を記述して下さい。

決裁処理、公印、重要書類の管理等は、『文書処理規程』『稟議書取扱い基準』『学校法人共立女子学園公印取扱規程』に基づいて管理している。決裁書・稟議書は、規程に基づき、起案部署が作成し関係部署の合議を経て、理事長の決裁もしくは理事会での審議の過程を経ている。決裁が下りたものについては、総務課が文書を管理し、関係部署にも複写を配付し、承認された重要事項の共有化を図っている。また、個人情報の保護の観点では、『共立女子学園個人情報保護方針』『共立女子学園個人情報保護規程』を指針として管理を徹底している。情報システムのセキュリティも、学内ネットワークへの外部からの不正アクセスを防止する方策を講じ、また各クライアントでも、パスワードの設定はもちろん、データの不正コピーを防止するため大容量の記憶媒体の使用を制限している。新任者も含め、全職員に情報セキュリティ研修を施し、ユーザーのデータ管理の重要性の認識を高めるようにしている。

防災対策については、年に1回学生も含めた防災訓練を実施している。また、震災を想定した帰宅困難者への対策としての食料・飲料の備蓄や、昨今では新型インフルエンザ対策として、感染予防のためのマスクの備蓄も実施している。

(5) 事務職員は教員や学生から支持され信頼されているか、できれば事務組織の責任者(事務局長等)が現状を率直に記述して下さい。

キャンパスライフの主役は学生であるというコンセプトから、本学では学生の生活空間の改善の際、学生の目線で問題解決に取り組む姿勢を常に有している。その一環として、各科から選出された学生による『キャンパスリメイクプロジェクト』を発足させ、キャンパス集中化への対応ならびに学生生活全般の充実を図るための改善活動に学生

の声が反映されるようにしている。

平成 19 年度に実施した学生生活調査では、学生から見た事務職員及び組織に対しての満足度が数値として計測されている。「教務課職員の対応への満足度」では 46.2%の学生が、また「学生課スタッフの対応への満足」では 43.4%の学生が「大いに満足」もしくは「まあ満足」と回答している。前述の『学校法人共立女子学園事務局事務規程』でも、教学系の組織の目的は学生への質の高い教育の提供の支援、良好な学生生活の維持の支援を掲げている。この目標を達成するため、今後も事務職員ならびに組織は不断の改善活動が求められることになろう。

(6) 事務組織のスタッフ・ディベロップメント (SD) 活動 (業務の見直しや事務処理の改善等、授業改善を支援する職員等の研修等、事務職員の能力開発、内部研修、外部への研修等) の現状を記述して下さい。

職員研修に関しては、事務機構改革の一環として、平成 6 年度から 8 年度にかけて、事務職員全員が何らかの研修に参加するよう、職階別研修やテーマ別研修を学内で実施した。それ以降においては、情報化推進のための研修など、業務上必要なスキル習得を主な目標として学内研修会を実施してきた。平成 20 年度も、教学系職員を対象とした窓口での学生対応ロールプレイング研修会を実施した。また、将来の戦力としての職員を育成する目的で、新任職員の初任者研修も行ってきた。ここ十年来、人件費を圧縮するために計画的な新卒の職員採用を実施しなかったが、平成 20 年度は 3 名の採用を行った。将来を担う大学職員育成の観点に立ち、新任職員を対象とした大学職員としての基礎知識の修得を目的とした学内研修を実施した。その内容は、内定者に対する通信教育による事前研修、大学全般についての知識を修得する新任者研修、社会人としてのマナー研修など多岐に亘るものであった。

また、学外研修としては、日本私立短期大学協会などの研修会の機会に職員を派遣している。毎年、経理事務担当者研修をはじめとした業務別研修会に定期的に該当者を派遣して教育を施している。それに加えて、大学職員としての基本を修得させる目的として設置されている基礎研修にも、定期的に職員を参加させている。現状として、独自の組織的な事務職員の能力開発全体に関しては、体系的な制度としての研修制度がない。そのため、このような外部機関主催の研修会を有効的に利用せざるを得ない状況にある。

個々の職員の能力開発とともに、個々の能力を業務改善に反映できるように、毎年度職員各自が行動計画を策定している。行動計画は、各部署の業務計画において当該年度重点的に取り組む課題業務の目標の実現のために、各自がどのような行動をするのかという観点で策定する。職員は、行動計画に基づいて、課題解決における役割を明確にし、そのためのスキルアップを確実にやりながら実務を進行する。行動計画は、各部署における目標管理制度の基盤を成している。

(7) 短期大学の事務組織が抱えている問題あるいは課題について差し支えがなければ記述して下さい。

職員の退職補充を行わなかったことにより、職員の年齢構成に偏りを生じてきている。現在の職員の平均年齢は 49.4 歳となっている。その年齢構成も 50 歳以上が 55.3%を占

めており、反対に 40 歳未満の若年層の職員数が極端に少ない現状である。これは、将来的に本学園の将来を担う人材が手薄になることにつながる。特に、この先 10 年で 50 名を超える定年退職者が見込まれるため、組織の継続性の観点からも、後継層をどのように育成するかが大きな課題となっている。

#### 【人事管理について】

(1) 教職員の就業について、現在、短期大学が抱えている問題あるいは課題について差し支えがない範囲で記述して下さい。なお教職員の就業についての規程（就業規則、給与規程等）を訪問調査の際にご準備下さい。

学園に勤務する教職員の就業に関する規程としては、『学校法人共立女子学園職員勤務規則（就業規則）』『学校法人共立女子学園職員給与規則』があり、教職員の人事・労務管理はこれら規程に基づき行われている。これら規程ならびに、各細則をまとめた諸規程集は全教職員に配付されており、それに加えて学内ネットワークでも公開されており、常時閲覧が可能となっている。就業上の大きな問題点は現在顕著に表れていない。

(2) 法人（理事長及び理事会等）と短期大学教職員の関係について、できれば理事長及び学長がそれぞれ記述して下さい。

常務理事会（本章の【法人組織の管理運営体制について】(3)を参照）には、短期大学の各学科長が陪席し、各学科と連携を保ちながら審議を行っている。この他に、財政に関する案件を検討する会議体として、財政運営会議が、教学系の重要事項を審議する会議体として、学部長・科長会がある。財政運営会議の構成員は、理事長、学長、常務理事、常勤理事、各学部長、短期大学の各科長、事務局長、併設校の校長、法人系各部署の統括課長・室長である。学部長・科長会の構成員は、学長、各学部長、短期大学の各科長、事務局長であり、学園長、常務理事、常勤理事が陪席している。このように、法人と各学科は様々な課題を共有し、協働して解決に導く仕組みとなっている。（理事長）

短期大学の経営や教学に関する事項について審議する、常務理事会及び学部長・科長会は、本学の教職員と法人とをつなぐ重要な会議であると言える。これらの会議には各学科長や、事務局長及び各課の課長が出席しており、法人の理事長及び理事と意思の疎通を図り重要事項を審議することで、結果的には、本学の教職員と審議事項を共有していくことになる。現在、常務理事会、学部長・科長会とも問題なく運営されており、これらの会議を通して、法人と教職員とは本学の運営や教学に関する問題意識を共有出来ていると認識している。（学長）

(3) 教員と事務職員との関係について、できれば学科長等及び事務局長がそれぞれ記述して下さい。

事務組織で日常的に教学組織を支援する部署としては、教務課、学生課、就職進路課、図書課、情報センター事務室、入試事務室がある。各部署では、日常業務の中で必要に応じて教学組織との連携を図っている。それと併せて、各部署はそれぞれの担当業務と関連する委員会を所管している。例えば、学部長・科長会（教務課）、全学共通教育委

員会（教務課）、FD委員会（教務課）、学生委員会（学生課）、図書館運営委員会（図書課）、情報センター運営委員会（情報センター事務室）、大学・短期大学入学試験委員会（入試事務室）などである。これらの委員会に事務職員が出席し、各学科と課題を共有し、業務へのフィードバックを行っている。なかでも、教務課は質の高い教育提供を支援し、学生を育むことおよび教員の教育研究活動を支援することが目的であり、教学運営の支援では中心的な役割を担っている。教務課においては、各学科が運営する教授会や教務委員会に統括課長ならびに担当課長が参加することにより連携を確保している。（事務局長）

生活科学科、文科、看護学科のいずれの学科においても、教員と事務職員とは綿密な連携をとりながら教育や学生生活面での学生指導にあたっている。教育面では教務課、学生生活一般では学生課、就職や進学では就職進路課の事務職員と教員は連絡を取り合い、学生の情報を共有しながらよりきめ細かな教育や学生指導が行えるよう取り組んでいる。各種入試やオープンキャンパス等の業務については入試事務室と、また研究についても科学研究費補助金の申請については総務課と連携するということに、教員の教育、研究、その他様々な業務は各課の事務職員との連携の上で行われている。教員と事務職員とはそれぞれ補い合う関係であり、協同して、本学が掲げる人材要請目的に沿った人材を養成する教育を遂行していかねなければならないが、そのような関係は各学科において構築されていると認識している。（各学科長）

（４）教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の順守等の現状を率直に記述して下さい。

教職員の健康診断を年１回定期的実施している。特に、平成 20 年度から実施された特定健診・特定保健指導にも積極的に取り組んでいる。また、学校医と産業医を配置し、日常的な教職員の健康相談、メンタルヘルス相談を行っている。また、就業時間の管理は磁気カードによる打刻で行っている。週当たりの就業時間は、１日拘束 8 時間（休憩 1 時間を含む）となり、土曜日は適宜短縮することとなっている。部署により、業務の必要性に応じ、勤務シフト制を採用している。

次世代育成支援対策推進法（平成 16 年 7 月成立）に基づき、平成 19 年 9 月に共立女子学園行動計画を策定し、教職員が仕事と子育てを両立させることができ、全員が働きやすい環境をつくることによって、全ての教職員がその能力を十分に発揮できることを目標とした基本方針を策定した。この行動計画では、小学校就学前の子どもを育てる教職員が働きやすい職場環境を改善すること、休暇消化率の低い部署での取得日数の向上を図ることを行動計画として理事会決定し、学園全体で就業環境の改善に取り組むこととしている。

#### 【特記事項について】

（１）この《 管理運営 》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、管理運営について努力していることがあれば記述して下さい。

本学では、学園将来基本構想委員会において学園の将来の基本構想・戦略に関して審議している。当委員会には、専門の事項を審議するため、専門委員会を置いて審議する。

大学・短期大学の将来構想については、学園将来基本構想委員会のもとに大学・短期大学将来構想専門委員会を設置し、ここで具体的な審議を行っている。本学は、平成 19 年度に学部の再編を実施したが、これは平成 16 年 2 月に設置した大学・短期大学将来構想専門委員会における検討に基づくものである。当委員会の構成員には、各学部長と総務課、財務課、教務課、総合企画室から統括課長・室長が入り、教学組織と事務組織とで課題を共有するとともに、将来構想の実現について事務組織が積極的な支援を行った。平成 20 年 4 月には、再編後の教育力の向上をテーマとして、新たに大学・短期大学将来構想専門委員会を編成した。ここでも、学長、常務理事、各学部長、短期大学の各学科長、全学共通教育委員会専門委員長・図書館長に加えて、事務局長をはじめとした事務局からも事務職員を委員として選出している。

また、事務部門の各部署に横断的に係る課題を検討するプロジェクト業務を常設している。これは、既存の部署だけでは対応できない課題に対して、部署の垣根を越え、メンバーが集まり、定められた期間本来業務以外にもこの課題に対しての業務を行うものである。この業務は、単なる課題処理だけの位置づけではなく、他部署の業務をこのプロジェクトを通して知ることができ、大学職員として複眼的な視野を持てる人材の育成の場としても機能している。このことから、このプロジェクト業務も本学園の職員にとつてのキャリア育成の重要な役割を持っているものといえる。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。
--

特になし。

【添付資料】

- 13 学校法人共立女子学園寄附行為
- 14 共立女子短期大学学則



## 財務

### 【財務運営について】

(1) 学校法人もしくは短期大学において「中・長期の財務計画」を策定している場合は、計画の名称、策定した経緯等を簡潔に記述して下さい。なお中・長期の財務計画は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

計画の名称：経営資金計画

策定した経緯等：近年の少子化等の影響により、学校法人や短期大学を取り巻く環境は年々厳しさを増している。このような状況下において、安定した財務基盤のもと、教育研究内容の絶え間ない充実・向上を図り、その成果を広く社会に提供し、信頼を積み重ねていかななくてはならない。そこで将来的な財政課題・施策の検討のため、平成 13 年度から中長期的な経営資金の推移を試算し、経営判断の材料としている。

(2) 学校法人及び短期大学の毎年度の事業計画及び予算決定に至る過程、手続きを簡潔に記述して下さい。

事業計画や予算制度については、平成 10 年度に導入した内示積算方式、平成 12 年度にはそれに加えて目的別・機能別予算制度も全学に導入し、予算編成を行っている。

本部より各予算単位に各々の予算額を内示し、各予算単位の責任者（大学各学部長、短期大学各科長、総合文化研究所長、中学・高等学校長、幼稚園長、事務系各課課長・室長）の下、内示された予算額の範囲内で目的別・機能別に教育研究計画・業務計画を立案し、予算額を積算する。

内示する予算額は経常的な活動に対するの予算で、前年度の各部門の採算状況と中長期計画の収入計画を基に次年度収入を予測し、前年度と同等の経済的活動（単年度の特別活動を除く）を行った場合の支出予測から、原則として採算が見合う範囲で金額を決定している。各予算単位は立案した事業計画に優先順位をつけ、予測外の収入の減少があった場合は、優先順位の低い事業計画を取りやめることで内示予算内に支出をおさめるようにしている。

経常的な活動以外に、情報化・視聴覚・国際化・広報・再構築等の戦略的な事業計画については、別途政策予算として対応している。

予算の編成にあたっては、まず基本的課題として本学を取り巻く環境や財政状況を確認し、そのうえで年度の重点課題を設定し、予算編成方針を作成し、常務理事会の承認を得て予算編成説明会で教職員に示している。予算編成方針は、できるだけ具体的な数値目標を設定し、各予算単位はこの数値目標の達成と年度重点課題を念頭に置いた上で計画の効果や必要性を勘案して、事業計画・予算を目的別・機能別に立案する。立案した全計画は「事業計画」として財務課に提出し、予算折衝・ヒアリングを経て、事業計画案・当初予算案として定例理事会に提出、承認を得ることとなる。

(3) 決定した予算の短期大学各部門への伝達方法、予算執行に係る経理、出納の業務の流れを必要な承認手続きを含めて簡潔に記述して下さい。なお経理規程等の財務諸規程について、整備している規程名を列記して下さい。財務諸規程は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

決定した予算の短期大学への伝達方法について

各予算単位の責任者は、予算が承認される常務理事会や定例理事会に出席しており、予算の決定がその場で伝達される。

予算執行に係る経理・出納の業務の流れ（必要な承認手続きを含めて）について

予算の執行は経理規程に基づき、申請者が予算執行に係るデータを入力し、伝票を起票する。上長の承認を経た後、主管課（管財課、人事課、財務課）で申請内容を審査し、出納責任者の承認を経て、予算が執行される。

経理規定等の財務諸規程について

- ・ 学校法人共立女子学園経理規程
- ・ 学校法人共立女子学園経理規程施行細則
- ・ 学校法人共立女子学園予算統制規程
- ・ 学校法人共立女子学園固定資産及び物品管理規程
- ・ 学校法人共立女子学園固定資産及び物品調達規程

(4) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の公認会計士監査状況の概要を開催日順に記述して下さい。公認会計士の監査と監事がどのように連携しているか、また公認会計士から指摘を受けた事項があれば、その対応について記述して下さい。

公認会計士監査状況の概要

公認会計士による監査実施状況（平成18～20年度）

年	月	日	概要	備考
18	9	4～8	平成18年度期中監査（4～7月の月次書類検証）	
19	3	5～9	平成18年度期中監査（8～1月の月次書類検証）	
		4	平成18年度現金実査	
		21	平成18年度期末監査（財務計算書類の検証）	
	5	12	平成18年度期末監査（財務計算書類の検証）	
		21～25	平成18年度期末監査（理事会議事録閲覧、監事との打ち合わせ、財務計算書類の検証）	
	9	3～7	平成19年度期中監査（4～7月の月次書類検証）	
20	3	10～14	平成19年度期中監査（8～1月の月次書類検証）	
		4	平成19年度現金実査	
		19	平成19年度期末監査（財務計算書類の検証）	
	5	10	平成19年度期末監査（財務計算書類の検証）	
		19～23	平成19年度期末監査（理事会議事録閲覧、監事との打ち合わせ、財務計算書類の検証）	

年	月	日	概要	備考
20	9	8～12	平成20年度期中監査（4～7月の月次書類検証）	
21	3	5・6	平成20年度固定資産実査 （研修センター杉並寮、研修センター軽井沢寮、大日坂幼稚園、戸田艇庫）	
		9～13	平成20年度期中監査（8～1月の月次書類検証）	
	4	8	平成20年度現金実査	
		18	平成20年度期末監査（財務計算書類の検証）	
	5	9	平成20年度期末監査（財務計算書類の検証）	
18～22		平成20年度期末監査（理事会議事録閲覧、監事との打ち合わせ、財務計算書類の検証）		

#### 公認会計士監査と監事との連携について

公認会計士と監事との連携を密にするため、意見交換（情報交換）並びに監査結果の照合等を目的とする場を年1～2回設定している。

#### 公認会計士からの指摘とその対応状況について

指摘事項はない。

（5）財務情報の公開は今までどのように行ってきたか。また私立学校法第47条第2項に基づき、財務情報の公開をどのように実施しているか。それぞれの概要を記述して下さい。

本学の財務情報は、改正私立学校法に基づき適切な計算書類を学校法人広報誌「共立女子学園報」に掲載している。配布先は、在校生、その保護者・保証人、卒業生、高等学校、企業、予備校、学園教職員である。それに加えて、ウェブサイト上での公開により広く社会に情報を発信している。

また「学校法人共立女子学園 財産目録等閲覧規程」を定め、情報公開請求があった際は、規定に基づき財務課事務室内での公開も実施している。

（6）寄附行為に基づき、どのような基本方針で資金等の保有と運用を考えているか簡潔に記述して下さい。なお資金等の保有と運用に関する規程等が整備されていれば、訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

寄附行為に基づき、基本財産及び運用財産中の積立金は、確実な有価証券を購入し、又は確実な信託銀行に信託し、又は確実な銀行に預金とし、若しくは定額郵便貯金として保管している。また、経理規程に基づき、有価証券の取得及び処分については理事長の承認を得ることとしている。これら寄附行為および経理規程における資金の運用に関する取り扱いの基準や方法を定めた資金運用取扱規程に基づいて資金を運用している。

（7）寄附金・学校債の募集を行っていただければその概要を記述して下さい。なお寄附金・学校債の募集についての印刷物等を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

共立女子学園の新しい教育ステージを展開するにあたり、より安定した財政基盤を永

続的に確保するために、企業・卒業生・在校生保護者・学園関係者を対象に募金活動を実施している。ひとつは、教育活動の進展に伴い必要な設備環境の整備や教育活動の支援資金としての「教育研究振興資金」である。もうひとつは、経済的な理由や自然災害で学業継続が困難になった学生への支援や海外留学を希望する学生への支援および受入れ外国人学生への支援資金としての「奨学資金」である。募集期間はいずれも平成17年9月1日から平成22年8月31日までである。平成21年3月31日現在で、「教育研究振興資金」は256,667,000円(学校法人全体)、「奨学資金」は28,927,000円(学校法人全体)の寄付があった。また、新入生保護者を対象に、一般寄付金を募っている。平成20年度は、短期大学で4,000,000円の寄付があった。

学校債の募集は行っていない。

【財務体質の健全性と教育研究経費について】

(1) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の資金収支計算書・消費収支計算書の概要を、別紙様式1にしたがって作成し、添付して下さい。

添付資料15を参照。

(2) 学校法人の貸借対照表の概要(平成21年3月31日現在)を、別紙様式2にしたがって作成し、添付して下さい。

添付資料16を参照。

(3) 財産目録及び計算書類(資金収支計算書、資金収支内訳表・人件費支出内訳表・消章収支計算書・消章収支内訳表・貸借対照表・固定資産明細票・借入金明細表・基本金明細表)について、過去3ヶ年(平成18年度～20年度)分を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

財産目録及び計算書類(資金収支計算書、資金収支内訳表・人件費支出内訳表・消章収支計算書・消章収支内訳表・貸借対照表・固定資産明細票・借入金明細表・基本金明細表)(過去3ヶ年分)を訪問調査の際に提示。

(4) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の短期大学における教育研究経費比率(消費収支計算書の教育研究経費を帰属収入で除した比率)を、小数点以下2位を四捨五入し1位まで求め記述して下さい。

教育研究経費比率(平成18年度～20年度)

	18年度	19年度	20年度
教育研究経費支出 (a)	732,833 千円	666,144 千円	538,665 千円
帰属収入 (b)	1,654,420 千円	1,686,895 千円	1,684,651 千円
教育研究経費比率 (a) / (b)	44.3%	39.5%	32.0%

【施設設備の管理について】

(1) 固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等、施設設備等の管理に関する諸規程を、財務諸規程を含めて一覧表として示して下さい。なお整備した諸規程を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

固定資産管理等規程一覧

区分	規定等名称
財務規程関係	学校法人共立女子学園経理規程 学校法人共立女子学園経理規程施行細則
固定資産管理規程関係 消耗品及び貯蔵品管理規程関係 施設設備等の管理に関する諸規程関係	学校法人共立女子学園固定資産及び物品管理規程 学校法人共立女子学園固定資産及び物品調達規程 固定資産耐用年数・残存価格表
図書管理規程関係	図書館規程 図書館資料管理規程

(2) 火災等の災害対策等、以下の危機管理対策について現状を簡潔に記述して下さい。 火災等の災害対策 防犯対策 学生、教職員の避難訓練等の対策 コンピュータのセキュリティ対策 省エネ及び地球環境保全対策 その他

火災等の災害対策

各建物とも防火管理者のもと自衛消防隊を組織し、火災等の災害に備えている。また、警備員による消防設備の運転などの訓練を定期的を実施し、初期消火体制の強化を図っている。各建物とも最終退館者確認後、各部屋の巡回作業を警備員が行い、火災等の発生を未然に防いでいる。

また、地震への対応については、全学生に「災害時対応マニュアル」を配付し、学生の防災に対する意識向上を促している。なお、災害時の備蓄品として、全学生の3日分の水・食料および毛布などを各建物に分散して保管している。また、AEDを全建物に設置し、参加を希望する学生および教職員を対象に普通救命講習会を毎年実施している。

防犯対策

学生に安全で安心できる教育環境を提供するため、本館にある防災センターを中心に各建物の警備室と連携し、24時間体制で監視をしている。また、各建物入口などに防犯用監視カメラを設置しているほか、警備員による構内および周辺の見廻りを実施している。なお、それぞれの建物の受付では、各部署より事前に提出された「来訪者届」に基づき、学外者の入校を確認している。

学生、教職員の避難訓練等の対策

神田消防署の協力を得て、参加を希望する学生および教職員を対象に起震車・煙ハウス・はしご車を使用した避難訓練を毎年実施している。ただし、現在のところ任意参加型のものになっているため、全学的な訓練の実施に向けて策定準備を進めている。

#### コンピュータのセキュリティ対策

全学のサーバはすべて本館情報センター事務室に隣接した NOR 室に集約している。NOR 室への入室は情報センター事務室職員以外を制限するため、教職員証磁気カードにより管理をしている。また、入口扉を自動施錠方式にするなど施錠管理も適正に行われている。

各クライアントは、シンクライアント又はハードディスク保護システムなどにより、OS 起動時に必ず初期化される方式となっている。さらにウィルス対策ソフトを併用することにより、ウィルス対策も万全を期している。

#### 省エネ及び地球環境保全対策

省エネルギー対策については、設備および運用の両面より推進している。設備面については、神田一ツ橋キャンパス集中化に伴う改修工事により高効率機種への更新がほぼ終了している。運用面では、各講義室に照明・空調の消し忘れの表示を行うなど環境問題が身近なところから少しずつ改善できることを認識させ、自主的な省エネルギー活動へとつなげている。

なお、神田一ツ橋キャンパスは、経済産業省より第二種エネルギー管理指定工場に指定されており、エネルギー使用量に係る定期報告書を作成・提出し、継続的な削減および対策に努めている。

#### その他

平成 19 年度はに発生した麻疹の流行に対しては、全学挙げての協力と連携、学校近辺の医療機関の協力による早期の予防接種の勧奨等により休校措置を取ることなく収拾した。

新型インフルエンザについては、平成 21 年 2 月より対策プロジェクトを設置し、基本方針と対応体制を明確にし、パンデミックへの対処と教育事業継続計画の検討を行っている。具体的対策としては、感染防止用マスクなどの必要備品の備蓄を行うとともに、学生・教職員への啓蒙を行っており、平成 21 年 4 月以降の新型インフルエンザ発生時には、プロジェクトにおける検討成果も踏まえながら、対策本部を設置、連絡網を整備し、学園の対処方針について、学生・教職員への迅速な周知を行った。

#### 【特記事項について】

(1) この《 財務》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、財務運営について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

#### 【添付資料】

- 15 資金収支計算書・消費収支計算書の概要（過去 3 ヶ年）
- 16 貸借対照表の概要

## 改革・改善

### 【自己点検・評価について】

(1) 短期大学では自己点検・評価を、短期大学の運営のなかでどのように位置づけているか、また自己点検・評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、自己点検・評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

本学の運営にとって、自己点検・評価は重要なものであると認識している。本学では過去において平成 14 年に、自己点検・評価報告書を出している。この報告書を出すプロセスは、本学の教職員が、本学の建学の精神、教育理念、教育目的等を再認識し、また、運営にかかわる課題や現状、本学の置かれた状況等を再認識する良い機会となっている。従って、報告書を出すことで、本学の運営と教育・研究への課題についての認識が共有され、改善へ向けた努力につながると考えている。

自己点検・評価を実施するための組織は、学長、事務局長、図書館長、各学科長等で構成されている自己点検・評価委員会と、そのワーキングチームで各学科の教員によって構成されている自己点検・評価実施委員会である。自己評価委員会は、短期大学の見学の精神とそれに基づく教育理念の確認を行なうとともに、全学的立場に立って、自己点検・評価の企画、立案、運営にあたり、自己点検・評価報告書を作成することを任務としている。自己評価実施委員会は、自己点検評価の実施に必要な、評価すべき項目、評価の実施体制ならびに方法、作業部会の設置、評価結果の分析と報告書の作成について審議することを任務としており、自己評価委員会で決定した方針に沿って自己点検・評価の実際的な実務を担っている。また自己点検・評価実施の実施については、「共立女子短期大学自己評価委員会規程」に基づいている。

自己評価・点検を今後どのように実施していくかであるが、教育の質の保証を達成するためには、自己点検・評価の取組みが極めて重要である。自らが社会に対して約束した教育理念、人材養成目的を確実に達成しているかという観点から自己点検・評価を行い、点検・評価結果に対して確実に改善・充実の方策をとる仕組みを構築したい。そのためにも、定期的に自己点検・評価を実施していく所存である。

(2) 過去 3 ヶ年（平成 18 年度～20 年度）の自己点検・評価報告書の発行状況を記述して下さい。またその報告書の配付先の概要を記述して下さい。なお過去 3 ヶ年（平成 18 年度～20 年度）にまとめられた自己点検・評価報告書を訪問調査の際にご準備下さい。

平成 10 年度から平成 14 年度までの自己点検・評価をまとめるべく平成 14 年 4 月から共立女子短期大学自己点検・評価報告書を作成し、平成 15 年度、下記に配付した。配付先：共立女子短期大学教職員、日本私立短期大学協会、東京都私立短期大学協会およびそれに加盟する本学と関連する短期大学、国立国会図書館等に配付した。

#### 【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】

(3) 平成 20 年度までに行った自己点検・評価に関わった教職員の範囲を記述して下さい。また今後、どのような教職員の関わり方が望ましいと考えているかを記述して下さい。

自己点検・評価報告には、短期大学自己評価委員会、短期大学自己評価実施委員会を中心に、大学・短期大学 FD 委員会、短期大学 FD 委員会の協力のもと、本学のすべての教員および教務課、学生課、就職進路課、図書課、入試事務室などの職員が参加しただけでなく、学校法人としての運営に関しても、総務課、財務課、人事課、管財課などの職員組織や理事会、評議員会の法人組織も加わり、全学的参加のもとに検討がおこなわれた。

今後は、平成 20 年度より FD 活動が義務化される時代になり、これまでの点検・評価を生かして、これまで以上の教職員、委員会、法人組織のさらなる連携のもと、全学的な観点からの自己点検・評価活動のさらなる充実が望まれる。

(4) 平成 20 年度までに行った自己点検・評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。また今後、自己点検・評価の結果をどのように活用しようと考えているかについても記述して下さい。

平成 14 年度に実施した自己点検・評価の結果、多様化する学生のニーズ、時代の価値観の変化に対応した教育改革が大きな課題として指摘された。この指摘に基づいて本学がこれまで取り組んできた改革・改善について記述する。

設置科目はそれまで通年科目が主流となっていたが、科目選択の機会を増やし、多様な科目を受講できるよう、一部の実験・実習・演習科目を除き、半期科目を中心としたカリキュラムに変更し、学生にとって履修しやすい環境を整えてきている。平成 20 年度における各学科の通年専門科目数（卒業研究、卒業セミナー等は除く）は、生活科学科が 13 科目 / 73 科目、文科が 5 科目 / 112 科目、看護学科が 13 科目 / 62 科目となっており、全学共通の教養教育科目は語学と体育を除き、すべてが半期科目となっている。

平成 19 年度、大学・短期大学将来構想の一環として、教養教育の全学共通化、生活科学科のコース変更、文科の 3 コース制導入、文科第二部の募集停止が実施され、あわせて大学・短期大学全体として組織的 FD 活動の取り組みが推進されることとなった。

これまで学科独自に設置していた一般教育科目を全学共通化することにより、本学の教育理念に基づいた幅広い教養教育の環境が整えられることとなった。これにより、学生の多様なニーズに応えるとともに、新たな関心を生み出す土壌となることが期待される。

生活科学科のコース変更と文科の 3 コース制導入にあたっては、学科の壁を越えたコース共通科目の設置が実現された。共通の教育目標、複合化された教育目標に基づいた教育課程の新設に向けた試行的な取り組みとして位置づけられるものであり、時代の価値観の変化に対して柔軟な対応を可能とするものとして期待される。

このように教育改革が進む中で、授業支援体制も整備されてきている。平成 19 年、kyonet が導入され、シラバスの閲覧、履修登録、教員とのコミュニケーションなどが可能となった。このシステムを利用して、授業資料の事前配付、課題の提出が行われる



など、新たな授業の工夫・改善の取り組みも始まってきている。組織的FD活動を推進するため平成20年に設置された大学・短期大学FD委員会では、個人や小グループの授業改善や教育改革などの活動状況を把握し、組織的活動へと繋げていくための取り組みを始めている。

平成20年度には、短期大学および各学科の新たな「人材養成目的」が定められた。今回の自己点検・評価の結果とともにこの「人材養成目的」を指針として、教職員のさらなる意識変革を進めながら、本学が一層の発展を遂げられるよう努力したい。

#### 【相互評価や外部評価について】

(1) 平成20年度までに行った相互評価及び外部評価の概要を示し、評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。

平成18年、梅花女子大学短期大学部との相互評価を実施した。相互評価にあたっては、教育理念と教育目標、教育の現状、学生への支援、社会的役割の4項目を取り上げ、両短期大学の自己点検・評価報告書および報告書の補足説明書に記載されている上記項目について、書面および相互訪問によって意見を交換しあうことから評価を行った。評価結果は報告書としてまとめられ、教員に配付することにより本学の現状を客観的に認識し、教育の一層の質的向上を目指す機会となった。

(2) 相互評価や外部評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、相互評価や外部評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

相互評価や外部評価を実施するための組織としては、自己点検・評価と同じく自己評価委員会、自己評価実施委員会が担っている。従って規程についても「共立女子短期大学自己評価委員会規程」による。今後の相互評価や外部評価については、積極的に実施していく所存である。

#### 【第三者評価（認証評価）について】

(1) 第三者評価を実施するための学内組織の概要を記述して下さい。

第三者評価についても自己点検・評価ならびに相互評価や外部評価の実施と同様の体制で行っており、組織としては共立女子短期大学自己評価委員会、同自己評価実施委員会があたっている。

(2) 第三者評価に当たって短期大学の決意を述べてください。理事長、学長、各部門の長及びALO（第三者評価連絡調整責任者）がそれぞれ記述されても結構です。

第三者評価は、本校が教育機関もしくは研究機関としての地位をより高めていくためには欠かせないものと認識している。特に昨今短期大学をめぐる状況は厳しいものがあり、普段の改革を怠ればたちまち定員の確保が危うくなる状況にある。その意味では、改革に向けた教職員の意識改革もまた必要であり、第三者評価はそのような意識改革のきっかけとなると考えている。また、本学が教育機関としての社会的な責任を果たし、またこれからのあるべき教育機関として社会の期待に応えるためにも、普段の自己評

価・点検が必要であるが、今後ともよりいっそう努力する所存である。(AL0)

【特記事項について】

(1) この《 改革・改善》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば評価に関する教職員への研修の実施等、当該短期大学が改革・改善について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし。

(2) 特別な事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

将来計画の策定(自由記述)

平成 20 年 5 月の定例評議員会・理事会において、「大学・短期大学将来構想の実施状況と今後の課題について」が報告・承認された。本学においてはこれまで、神田一ツ橋キャンパスにおける集中型教育の実施、専門教育の再編、教養教育の改善、教育方法の改善などの施策を実施してきているが、新たな将来構想においては、これらの改革により構築した基盤のうえに、教育力の充実を目指し、教育の質を保証することで、社会的な責任を果たしていくことを主眼に置いている。教育活動のより一層の充実を行い、社会的な評価を得る取組みを行っていくこととしている。具体的には、当面、人材養成目標の明確化、体系的な教育課程の編成、教育の質を保証するための FD・SD の実施と PDCA サイクルの構築を検討課題に据えている。

これらの検討とあわせて、短期大学教育のあり方そのものについても検討課題となっている。短期大学を取り巻く環境の変化、社会的な要請を捉えて、明確化した教育理念・人材養成目的のもとに、既存の教育資源を有効に活用し、例えば学科間の連携や併設の共立女子大学との連携を促進し、魅力ある教育内容を構築することを目指している。

以 上